

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第132集

小
阪
合
遺
跡
(その3)

八尾市

こ ざか あい
小 阪 合 遺 跡 (その3)

山本団地建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告

二〇〇五年六月

財団法人
大阪府文化財センター

2005年6月

財団法人 大阪府文化財センター

八尾市

こ ざか あい
小 阪 合 遺 跡 (その3)

山本団地建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告



表



裏

第2調査区1層出土硯



2123



2124

第2調査区4層出土滑石製紡錘車(上)・特殊器台形埴輪(下)

序 文

平成 17 年は、小阪合遺跡の存在が初めて世に知られてからちょうど 50 年の節目の年に当たります。この間、小阪合遺跡とその周辺地域では数多くの発掘調査が行われ、当地域が河内平野の中でも特に遺跡の集中する地域の一つであることが明らかになってきました。

さらには各時代を通じて、当地域が北部九州や瀬戸内海沿岸諸地域と畿内との交流拠点として重要な役割を担った事が明らかにされてきました。小阪合遺跡でも、弥生時代から現代に至る各時代の遺構・遺物が発見され、遺跡の内容が明らかになるとともに、吉備や東四国系の遺物出土例が増加しつつあります。

今回の調査は、昭和 30 年代に建設された大阪府住宅供給公社の山本団地建替えに伴う発掘調査で、遺跡発見の契機となった遺物出土地点に近接した位置にあたります。

調査の結果、古墳時代初頭から中世前半の集落関連の遺構や中世後半の溝群などの遺構・遺物が検出されました。なかでも、古墳時代包含層から出土した特殊器台形埴輪は、中河内でも 3 例目（特殊器台を含め）となる資料で、古墳時代初頭における当遺跡の歴史的意義を考える上で貴重な成果と言えます。

今回の調査を行うにあたり、大阪府住宅供給公社をはじめ、大阪府教育委員会、八尾市教育委員会、(財)八尾市文化財調査研究会、そして地元の方々に多大なるご指導とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げますとともに、今後も一層のご支援とご協力をお願いいたします。

2005 年 6 月 30 日

財団法人 大阪府文化財センター
理事長 水野 正 好

例 言

1. 本書は、大阪府八尾市若草町2番に所在する小阪合遺跡（その3）の発掘調査報告書である。
2. 調査は、大阪府住宅供給公社から「山本団地建替に伴う小阪合遺跡発掘調査」として財団法人大阪府文化財センターが平成16年4月1日～平成17年6月30日の間委託を受け、平成16年4月20日～平成16年10月29日まで調査を行い、引き続き平成17年3月31日まで遺物整理作業を行った。平成17年6月30日、本書の刊行を以って業務を完了した。
3. 現地調査・整理作業は以下の体制で実施した。

調査部長 玉井功、中部調査事務所長 小野久隆、調査第二係長 金光正裕、主査 片山彰一〔写真〕、技師 若林邦彦（平成16年8月31日まで）、非常勤嘱託員 新海正博（平成16年11月1日から）、非常勤専門調査員 松下知世、調整課長 赤木克視、調整係長 森屋直樹、主査 山上 弘、技師 信田真美世
4. 木器・金属器などの保存処理については中部調査事務所主査 山口誠治が行った。

出土遺物については当センター職員より全般にわたって教示を得た。
5. 調査・整理にあたっては、大阪府住宅供給公社、大阪府教育委員会をはじめ、以下の方々からご協力・ご教示を賜った。記して謝意を表する（敬称略）。

岡田清一〔(財)八尾市文化財調査研究会〕、高井健司・村元健一〔大阪歴史博物館〕、別所秀高〔(財)東大阪市文化財協会〕、河内一浩〔羽曳野市教育委員会〕、前田洋子〔元大阪市立博物館〕
現地調査および整理作業は以下の方々の協力を得た。（五十音順）
池田美香・奥村福子・栗牧奈緒子・松下知代・宮本利恵子
6. 本書の執筆は、各担当者が行い、文責は目次に示した。
7. 編集は、金光・新海の指導の下、松下が行った。
8. 本調査に係わる写真・実測図などの記録類は、財団法人 大阪府文化財センターにおいて保管している。広く利用されることを希望する。

凡 例

1. 実測図の基準高は、東京湾平均海面（T.P.）を使用する。
2. 遺構平面図の座標値は、世界測地系に基づく国土座標第Ⅵ系で表記する。単位はmである。
3. 遺構実測図等に付す方位針は、全て座標北を示す。
4. 現地調査および遺物整理は、当センターの「遺跡調査基本マニュアル」（2003年）に準拠して行った。地区割りの第Ⅰ・第Ⅱ区画は大-G 6-11にあたる。
5. 土色および土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帳』2002年版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を用いた。
6. 遺構は、調査区および遺構の種類に関わらず通し番号（1～542）とし、数字の後に遺構の種類を示す名称が続く。
7. 平面図には、検出した全ての遺構を表記した。これらの遺構のうち、太線で表示したものは本文に記載した。また、図中の白抜き部分は攪乱である。
8. 図面の縮尺は、調査区平面図が1/200・1/300、遺構図は1/20・1/40、遺物1/3を基準とするが、対象物に応じて縮尺を変えている。図中にスケールバーを添付するとともに、縮尺も明示した。
9. 写真図版に掲載した遺物の縮尺は任意である。

なお、土器をはじめとする遺物の編年（年代）観は一般的な年代観に従った。主要遺物の編年や用語については以下の文献を参考にした。

古式土師器：原田昌則 1993 「久宝寺遺跡（第1次調査）」〔財〕八尾市文化財調査研究会報告37〔財〕八尾市文化財調査研究会

須恵器：中村 浩 1978 「和泉陶邑出土遺物の時期編年」〔陶邑Ⅲ〕大阪府教育委員会
田辺昭三 1981 「須恵器大成」角川書店

古代の土器：古代の土器研究会編 1992～1998 「古代の土器1～5」古代の土器研究会

平安時代の土器：佐藤 隆 1992 「平安時代における長原遺跡の動向」〔長原遺跡発掘調査報告Ⅴ〕〔財〕大阪市文化財協会

平安～室町時代の土器：小森俊寛・上村憲章 1996 「京都の都市遺跡から出土する土器の編年の研究」〔研究紀要〕第3号〔財〕京都市埋蔵文化財研究所

瓦質土器：鶴柄俊夫 1995 「第1章 大阪府南部の瓦質土器生産（1）」〔日置荘遺跡〕大阪府教育委員会・〔財〕大阪文化財センター

中世の土器類：中世土器研究会編 1995 「概説 中世の土器・陶磁器」真陽社

目 次

巻頭図版1
巻頭図版2
序文
例言・凡例
目次

本 文 目 次

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯と経過 (松下知世)	1
第2節	調査の方法 (松下)	3
第3節	基本層序 (金光正裕・松下)	4
第2章	第1調査区の調査成果	13
第1節	遺構と遺物 (金光・若林邦彦)	13
第2節	包含層出土遺物 (新海正博)	37
第3節	小結 (金光)	47
第3章	第2調査区の調査成果	48
第1節	遺構と遺物 (松下)	48
第2節	包含層出土遺物 (新海)	79
第4章	まとめ (金光・松下)	85

挿 図 目 次

第1章	はじめに	
図1	調査地位位置図	2
図2	調査区配置図	2
図3	地区割り図	3
図4	基本層序模式図	4
図5	東西方向土層断面図	5
図6	第1調査区第1面・第2調査区第1面	7
図7	第2調査区第2面	8
図8	第1調査区第2面・第2調査区第3面	9
図9	第1調査区第3面・第2調査区第4面	10
図10	第2調査区第5面	11
図11	第1調査区第4面・第2調査区第5-2面	12

第2章 第1調査区の調査成果

図12	第1調査区位置図	13
図13	第1調査区第1面 (171-9h地区)	14
図14	第1調査区第2面	15
図15	第1調査区第2面 20柱穴、27土坑平・断面図	16
図16	第1調査区第2面 16流路、20柱穴、27土坑、43溝出土遺物	17
図17	第1調査区第3面	20
図18	第1調査区第3面 62柱穴平・断面図	21
図19	第1調査区第3面 62柱穴出土遺物	21
図20	第1調査区第3面 100土坑平・断面図	22
図21	第1調査区第3面 100土坑出土遺物	22
図22	第1調査区第3面 104落込み、107溝出土遺物	23
図23	第1調査区第3面 73・108・109・110・113溝断面図	24
図24	第1調査区第3面 73溝出土遺物(1)	25
図25	第1調査区第3面 73溝出土遺物(2)、74・108・109・112溝出土遺物、 113溝出土遺物(1)	26
図26	第1調査区第3面 113溝出土遺物(2)、110溝出土遺物	27
図27	第1調査区第4面	30
図28	第1調査区第4面 115・119土坑平・断面図	32
図29	第1調査区第4面 120土坑平・断面図、151溝断面図、152井戸平・断面図	33
図30	第1調査区第4面 115・119・120土坑出土遺物	34
図31	第1調査区第4面 151溝、152井戸出土遺物	35
図32	第1調査区 攪乱・東半部中世後半遺物包含層(A層)出土遺物	38
図33	第1調査区 B層上面遺物出土状況	39
図34	第1調査区 東半部中世後半遺物包含層(B層)出土遺物(1)	39
図35	第1調査区 東半部中世後半遺物包含層(B層)出土遺物(2)	40
図36	第1調査区 東半部中世後半遺物包含層(B層)出土遺物(3)	41
図37	第1調査区 1・3層出土遺物	42
図38	第1調査区 4層出土遺物(1)	43
図39	第1調査区 4層出土遺物(2)	44

第3章 第2調査区の調査成果

図40	第2調査区位置図	48
図41	第2調査区第2面	49
図42	第2調査区第3面	51
図43	第2調査区第3面 273・285・333 / 434土坑平・断面図	52
図44	第2調査区第3面 200柱穴、273・285土坑出土遺物	53
図45	第2調査区第3面 333 / 434土坑出土遺物	54

図46	第2調査区第4面	59
図47	第2調査区第4面 351 溝断面図、368 柱穴平・断面図	60
図48	第2調査区第4面 351 溝、366・368・373 柱穴出土遺物	61
図49	第2調査区第4面 398 土坑、399 溝平・断面図	62
図50	第2調査区第4面 398 土坑出土遺物	63
図51	第2調査区第5面	66
図52	第2調査区第5面 462・463 柱穴出土遺物	67
図53	第2調査区第5面 466 土坑平・断面図	68
図54	第2調査区第5面 466 土坑出土遺物	68
図55	第2調査区第5面 472 土坑平面図	68
図56	第2調査区第5面 475 柱穴平・断面図、483 柱穴平面図、507 土坑平・断面図	69
図57	第2調査区第5面 470 溝、472 土坑出土遺物	70
図58	第2調査区第5面 475・483 柱穴、478 溝、487・504 土坑出土遺物	71
図59	第2調査区第5面 507 土坑出土遺物	72
図60	第2調査区第5-2面	75
図61	第2調査区第5-2面 541 土坑断面図	76
図62	第2調査区第5-2面 540・541 土坑出土遺物	76
図63	第2調査区第5-2面 遺物出土地点	77
図64	第2調査区第5-2面 出土遺物	78
図65	第2調査区 1・2・3 層出土遺物	80
図66	第2調査区 4 層出土遺物 (1)	82
図67	第2調査区 4 層出土遺物 (2)、5 層出土遺物	83
第4章 まとめ		
図68	古墳時代の小阪合遺跡	86
図69	古代の小阪合遺跡	87
図70	中世前半の小阪合遺跡	88
図71	中世後半の小阪合遺跡	89

表 目 次

第2章 第1調査区の調査成果		
表1	第1調査区 第2面検出遺構	18
表2	第1調査区 第3面検出遺構 (1)	28
表3	第1調査区 第3面検出遺構 (2)	29
表4	第1調査区 第4面検出遺構	36
第3章 第2調査区の調査成果		

表5	第2調査区	第2面検出遺構	50
表6	第2調査区	第3面検出遺構(1)	55
表7	第2調査区	第3面検出遺構(2)	56
表8	第2調査区	第3面検出遺構(3)	57
表9	第2調査区	第3面検出遺構(4)	58
表10	第2調査区	第4面検出遺構(1)	63
表11	第2調査区	第4面検出遺構(2)	64
表12	第2調査区	第4面検出遺構(3)	65
表13	第2調査区	第5面検出遺構(1)	73
表14	第2調査区	第5面検出遺構(2)	74
表15	第2調査区	第5-2面検出遺構	77

遺物観察表

表16 出土遺物観察表

巻頭図版目次

巻頭図版1	第2調査区1層出土硯
巻頭図版2	第2調査区4層出土滑石製紡錘車(上)・特殊器台形埴輪(下)

写真図版目次

写真図版1	第1調査区 第1面(北東から) 第1面(17I-9h地区)(北東から)
写真図版2	第1調査区 第2面(北東から) 第2面(南東から) 第2面(17I-9h地区)(北東から)
写真図版3	第1調査区 第2面20柱穴(東から) 第2面27土坑(北から) B層遺物出土状況(西から)
写真図版4	第1調査区 第3面(北東から) 第3面62柱穴(東から) 第3面100土坑(南から) 第3面109溝断面(南から)

- 第3面 113 溝断面（南西から）
- 写真図版5 第1調査区
第4面（北東から）
第4面 119 土坑（西から）
第4面 115 土坑断面（南から）
第4面 152 井戸（南から）
- 写真図版6 第1調査区 4層土器出土状況
- 写真図版7 第1調査区 第2・3面遺構出土土器・鉄製品・木製品
- 写真図版8 第1調査区 第3・4面遺構出土土器
- 写真図版9 第1調査区 第4面遺構出土土器
- 写真図版10 第1調査区 東半部中世後半遺物包含層（A・B層）出土土器
- 写真図版11 第1調査区 東半部中世後半遺物包含層（B層）出土土器
- 写真図版12 第1調査区 1・2層出土土器
- 写真図版13 第1調査区 3・4層出土土器
- 写真図版14 第1調査区 4層出土土器
- 写真図版15 第2調査区
第1面（南東から）
第1面（北から）
- 写真図版16 第2調査区
第2面（南東から）
第2面（北から）
- 写真図版17 第2調査区
第2面 159 溝（北東から）
第2面 160 溝（北西から）
第2面 159 溝断面（東から）
第2面 160 溝断面（南から）
- 写真図版18 第2調査区
第3面（南東から）
第3面 273 土坑断面（北東から）
第3面 285 土坑断面（西から）
第3面 434 土坑（東から）
第3面 333 / 434 土坑断面（東から）
- 写真図版19 第2調査区
第4面（北から）
第4面 398 土坑断面（北から）
- 写真図版20 第2調査区
第5面（南東から）
第5面（北から）

- 写真図版21 第2調査区
第5面 472 土坑（北東から）
第5面 475 柱穴（東から）
第5面 483 柱穴（北西から）
第5面 504 土坑（北東から）
第5面 507 土坑（北東から）
第5面 507 土坑（北西から）
- 写真図版22 第2調査区
第5-2面 (18I-3d 地区)（東から）
第5-2面 541 土坑（南西から）
- 写真図版23 第2調査区
第5-2面（北から）
第5-2面 土器群①（南から）
第5-2面 土器群②（西から）
- 写真図版24 第2調査区 第3面遺構出土土器
- 写真図版25 第2調査区 第3・4面遺構出土土器
- 写真図版26 第2調査区 第5面遺構出土土器
- 写真図版27 第2調査区 第5・5-2面遺構出土土器
- 写真図版28 第2調査区 第5-2面遺構出土土器
- 写真図版29 第2調査区 2層出土土器・銅製品
- 写真図版30 第2調査区 3・4層出土土器
- 写真図版31 第2調査区 4・5層出土土器
- 写真図版32 第1・2調査区 韓式系土器・軒瓦
- 写真図版33 第1・2調査区 土製品・石製品
- 写真図版34 第1・2調査区 石製品

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と経過

小阪合（こさかあい）遺跡は大阪府八尾市若草町、小阪合町1・2丁目、青山町1～5丁目、南小阪合町2・4丁目、山本町南7・8丁目に広がる。当センター調査地はその北西部若草町地内に位置する（図1）。

八尾市域は、江戸時代を通じて商品作物としての綿・菜種生産で高い収益を上げた農村であった。明治時代以降、軽工業や宅地開発が進展し、1948（昭和23）年頃から近鉄八尾駅と山本駅との中間地点にあたる当遺跡周辺でも団地などの建設が本格化してきた。

小阪合遺跡は、1955（昭和30）年に大阪府住宅供給公社山本団地建設の際に土器が出土した事により、周知された遺跡である。その後、（財）八尾市文化財調査研究会、八尾市教育委員会、大阪府教育委員会によって10数次の発掘調査が実施され、弥生時代～中世の複合遺跡であることが明らかにされている。

当センターでは、平成9～10（1997～98）年度と平成14（2002）年度に、都市基盤整備公団八尾団地建替えに伴う2次の調査を行った。

第1次調査〔調査面積6135㎡〕

第1次調査地は、遺跡範囲の北西端に位置する。竪穴住居・井戸・土坑・掘立柱建物など、古墳時代～中世に至る生活・集落関連遺構を検出し、古式土師器・韓式系土器・墨書土器・和同開珎をはじめとする70枚もの皇朝銭などが出土した。また、調査地の一部で「小阪合分流路」の底を確認、さらに、「小阪合分流路」分流以前の弥生時代中～後期に属する水田跡を検出した。（駒井正明編2000「八尾市若草町所在 小阪合遺跡 都市基盤整備公団八尾団地建替えに伴う発掘調査報告書」（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第51集；以下「第1次報告書」と略称する。）

第2次調査〔調査面積3270㎡〕

第2次調査地は、第1次調査地の南側にあたる。溝・井戸・土坑・掘立柱建物など、古墳時代～中世の集落関連遺構を検出し、古式土師器・韓式系土器・墨書土器などが出土した。調査地の一部で「小阪合分流路」の西側から底にいたる斜面を確認、「小阪合分流路」分流以前の弥生時代中期以降に属する水田跡を検出した。（本間元樹編2004「八尾市 小阪合遺跡（その2） 八尾団地（建替）埋蔵文化財発掘調査（第2次）」（財）大阪府文化財センター調査報告書 第116集）

今回の調査は、大阪府住宅供給公社の委託を受けて実施した、八尾市若草町2番における山本団地建替えに伴う発掘調査である。調査地は、第2次調査地の南約150mの地点に位置する。また、調査は、これまで2次の調査成果を受けて、「小阪合分流路」の流路充填堆積物（砂層）上部までを対象とした。調査面積は1625㎡を数える。調査範囲を東西に2分割して、東側を第1調査区、西側を第2調査区とし、第1調査区側から着手した。両調査区で4～6面の遺構面を確認した。古墳時代初頭から中世の各遺構面からは、溝・井戸・土坑・柱穴などの集落関連遺構を検出し、古式土師器・特殊器台形埴輪・韓式系土器・黒色土器・瓦器などが出土した。

地理的・歴史的環境については「第1次報告書」の「第2章 位置と環境」を参照されたい。



図1 調査地位置図 (S=1/20,000)

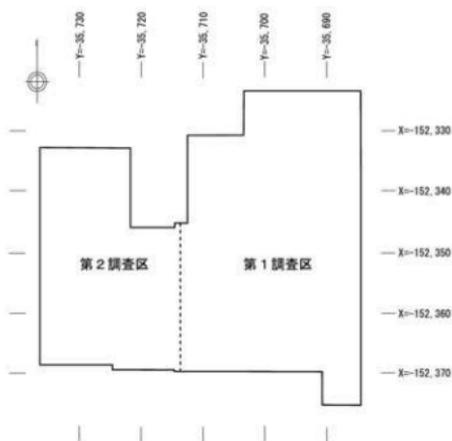


図2 調査区配置図 (S=1/800)

第2節 調査の方法

【調査区の位置】(財)大阪府文化財センターの小阪合遺跡第3次調査地は、遺跡範囲内の北西部、八尾市若草町に位置する(図1)。

【調査名と調査区の呼称】調査名は当センターの「遺跡調査基本マニュアル」に基づき、小阪合遺跡04-1と称する。調査区は $Y=-35.711$ mラインで2分割し、東半分を第1調査区、西半分を第2調査区とした(図2)。

【地区割り】当センターの「遺跡調査基本マニュアル」に基づき、国土座標軸を基準とした地区割りを使用した。下記の第Ⅰ～Ⅵの6段階で区画を行なった。今回の調査では、第Ⅳ区画までを使用した。第Ⅰ区画は1/10,000地形図を利用したもので、1区画が東西8 km、南北6 kmとなる。第Ⅱ区画は、第Ⅰ区画を東西、南北でそれぞれ4分割し、計16区画に分けたもので、1区画が縦1.5 km、横2.0 kmとなる。第Ⅲ区画は、第Ⅱ区画を東西20分割、南北15分割し、一辺100 mの区画となる。第Ⅳ区画は、第Ⅲ区画を東西、南北ともに10分割した一辺10 mの区画となる。遺物の取り上げ作業は、すべて第Ⅳ区画を基準に行なった。本書においては第Ⅲ～Ⅳ区画のみ明示する(図3)。

【水準】標高値は、東京湾平均海面(T.P.)を用いた。

【方位】地区割り同様に国土座標に則り、座標北を用いた。

【測量】主要な遺構面についてはクレーンによる写真測量を行い、1/50ないし1/200の遺構全体図を作成した。個別の遺構については、基準点を使用し1/10の平・断面図、遺物出土状況図などを作成した。

【遺構名称】調査区や遺構の種類に関わらず通し番号とし、数字の後に遺構の種類を示す名称が続く。なお、調査後の検討により遺構の所属面を変更したことがある。

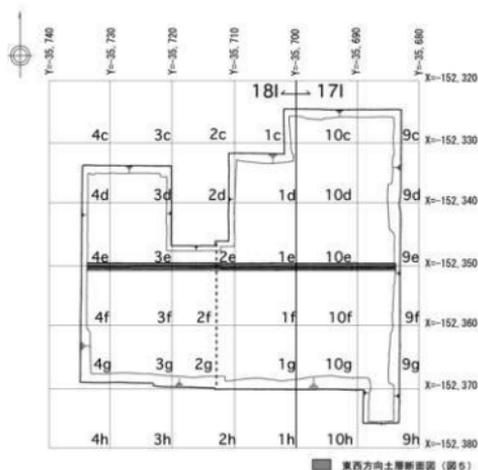


図3 地区割り図 (S=1/800)

第3節 基本層序

盛土や旧表土を重機で除去した後、古墳時代初頭の砂層上面（およそ T.P.+7.0 m）まで調査を行った。

今回の調査区は、小阪合遺跡の中を北流する大規模な埋没流路（小阪合分流路）によって形成された自然堤防上に立地している。調査区内にはさらに小さな起伏がみられる。調査区のほぼ中央、Y=-35,710 m ライン付近を最高所とし、Y=-35,695 m～Y=-35,725 m ラインの範囲が高く、その東西両端は低くなる。

特に、高い部分には埋没流路の中粒砂～粗粒砂を起源とする厚い土壌化層が形成されており、多くの遺物が含まれていた。

第1調査区では、昭和30年代に建設された建物の基礎や埋設管による攪乱が著しく、起伏のある地形環境と相まって、層のつながりや遺構面の状態を把握するのが非常に困難な状況にあった。特に第1面～第3面に至る調査の過程において顕著で、層の繋がりを把握する際に誤認した部分があった。各層や遺構出土の遺物を検討した結果、第1調査区の1層と2層では、およそ Y=-35,695 m ラインを境として、東西で遺物の時期や内容が異なることが明らかとなった。東側（第1調査区A・B層）では、1層、2層ともに14～15世紀の土器や瓦を含むのに対し、西側（第1調査区⑩・⑪層）では、12～13世紀の遺物が主体で、14世紀以降の遺物は含まれていなかった。

これらのことから、攪乱の影響がなかった第2調査区の東西断面（X=-152,350 m ライン）を基に基本層序を整理し、図4・5に表した。

1層（①層）：ぶい黄褐色 10YR4/3 の礫まじり細粒砂層で層厚約 0.2m を測る（①層）。層中には古墳時代～中世の土器が混在するが、12～13世紀のものが主体となる。第1調査区1層（⑩層）に相当する。第1調査区・第2調査区第1面のベース層である。出土遺物から12～13世紀の時期と考えられる。



図4 基本層序模式図

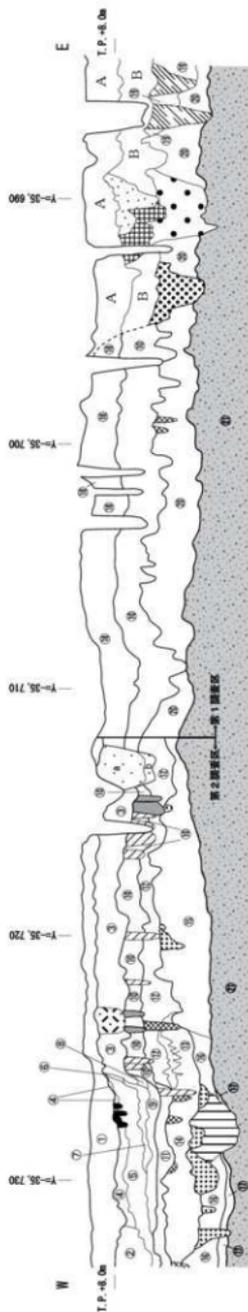


図5 東西方向土層断面図

- 1層 ① にぶい黄褐色10YR4/3 礫まじり細粒砂
 ② にぶい黄褐色10YR4/3 細粒砂、褐色10YR4/4 中粒砂
 ③ 暗オリーブ褐色2.5Y3/3 礫まじり細粒砂
 ④ 褐色10YR4/4 中粒砂
 ⑤ 褐色10YR4/4 粗粒砂～細粒砂
 ⑥ 褐色10YR4/4 シルトまじり細粒砂
 ⑦ オリーブ褐色2.5Y4/3 シルト
 ⑧ にぶい黄褐色10YR4/3 シルトまじり細粒砂
 ⑨ にぶい黄褐色10YR4/3 礫まじりシルト
 ⑩ 暗オリーブ褐色2.5Y3/3 礫まじりシルト (第1調査区2層)
- 2層 ⑪ 褐色10YR4/4 シルトまじり極粗粒砂
 ⑫ 暗灰色2.5Y4/2 礫まじりシルト
 ⑬ 暗オリーブ褐色2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂
 ⑭ 褐色10YR4/4 礫まじり細粒砂
 ⑮ 暗オリーブ褐色2.5Y3/3 シルトまじり極粗粒砂
- 3層 ⑯ 黄褐色2.5Y5/3 シルト (上層波まじる)
 ⑰ 暗灰色2.5Y4/2 粗粒砂まじりシルト (第1調査区1層、第2調査区⑩⑪⑫に相当する。)
- 4層 ⑱ 黄褐色2.5Y5/4 中粒砂まじりシルト
 ⑲ 黄褐色2.5Y5/3 極細粒砂まじり極粗粒砂 (第1調査区3層、第2調査区⑬⑭に相当する。)
- 5層 ⑳ にぶい黄色2.5Y6/3 中粒砂～極粗粒砂 (第1調査区4層)

東半部中世後半遺物包含層

- A 土質は⑮と類似しているが中世後半の遺物を多く含む
 B 土質は⑮と類似しているが中世後半の遺物を多く含む

遺構の埋土

- 暗灰黄色2.5Y5/2 中粒砂
 ▲ 灰黄褐色2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂
 □ ① オリーブ褐色2.5Y4/4 礫まじり細粒砂
 □ ② オリーブ褐色2.5Y4/4 細粒砂
 ▨ ③ 暗オリーブ褐色10YR3/3 礫まじり細粒砂
 ▨ ④ 黄褐色2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂
 ▨ ⑤ 暗灰黄色2.5Y4/2 礫まじりシルト
 ▨ ⑥ 黄褐色2.5Y5/3 極粗粒砂
 ▨ ⑦ 黄褐色2.5Y5/3 シルト～極細粒砂 (互層)
 ▨ ⑧ 褐色10YR4/3 礫まじり細粒砂
 ▨ ⑨ 灰黄褐色10YR4/2 中粒砂まじりシルト
 ▨ ⑩ 明灰黄色2.5Y4/2 粗粒砂まじりシルト
 ▨ ⑪ 灰黄褐色10YR4/2 礫まじり極細粒砂

2層(②～⑨層)：第2調査区で認識された層で、第2調査区第2面のベース層である。同調査区中央～東側には、暗オリーブ褐色2.5Y3/3礫まじり細粒砂層(③層)が堆積する。西側は、同調査区中央～東側と比べ、レベルがやや低くなっており、褐色系のシルト～細粒砂層が堆積し7層に細分される(②・④～⑨層)。⑤～⑦層は流水堆積層である。⑤層直上に堆積する②・④層は整地層である可能性が高い。出土遺物から、12～13世紀の時期である。第1調査区1層(⑱層)下部に層準が求められるが、明確に認識できなかった。

3層(⑩・⑪層)：第1調査区第2面、第2調査区第3面のベース層である。第2調査区の中央以東には、暗オリーブ褐色2.5Y3/3礫まじりシルト層(⑩層)が堆積する。2層と比較すると砂粒の粒径がやや大きく、土壌化が強い。2層同様、第2調査区西側では、同調査区中央以東と比べ、レベルが低くなっており褐色系の極粗粒砂層(⑪層)が堆積する。出土遺物から、12～13世紀の時期である。

4層(⑫～⑭層)：第2調査区で認識された層で、第1調査区3層上部に層準が求められるが、第1調査区では明確に認識できなかった。第2調査区第4面のベース層である。同調査区中央～東側には、暗灰黄色2.5Y4/2礫まじりシルト層(⑫層)が堆積する。3層よりも粒径が小さく、若干粘性がある。土壌化もさほど顕著ではない。同調査区西側は、褐色10YR4/4礫まじり細粒砂層(⑬層)が堆積する。層厚約0.1～0.4mを測り、中世までの遺物を包含するが、中世遺物の占める割合は極端に少ない。第4面で検出した遺構の中には、古代に帰属するものもあることから、中世以前の時期と考えられる。

5層(⑮～⑰層)：第2調査区で認識された層である。⑮層は、古墳時代初頭の埋没流路砂層(⑳層)の上部で土壌化した層である。中粒砂～粗粒砂から成り、第1調査区3層下部に層準が求められるが、明確に確認できなかった。西側にはシルト～細粒砂層(⑯・⑰層)が堆積する。⑰層は層厚約0.1mで、上部には炭の薄層が堆積する。

6層：古墳時代初頭の埋没流路のうち、土壌化部分である5層(⑮層)を除去した砂層部分である。中粒砂～粗粒砂が卓越し、ラミナが顕著にみられる。層上部からは、古墳時代初頭の遺物が僅かに出土する。第1調査区4層に相当する。

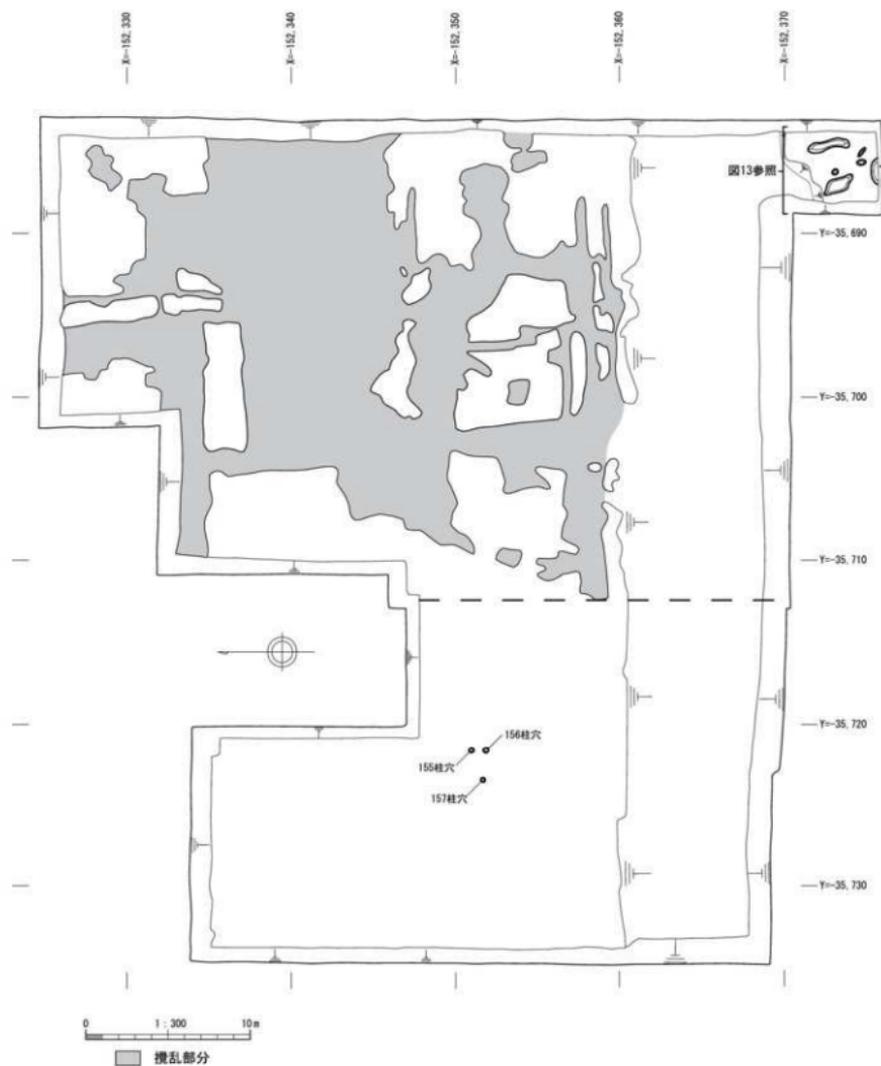


図6 第1調査区第1面・第2調査区第1面

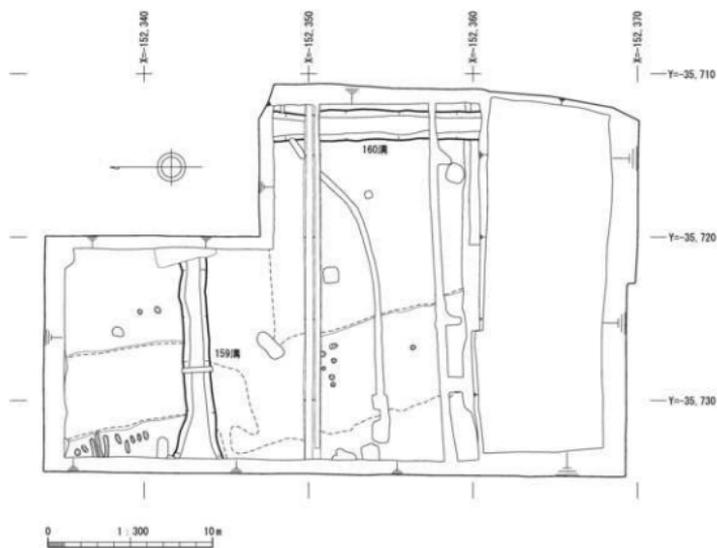


図7 第2調査区第2面



図8 第1調査区第2面・第2調査区第3面

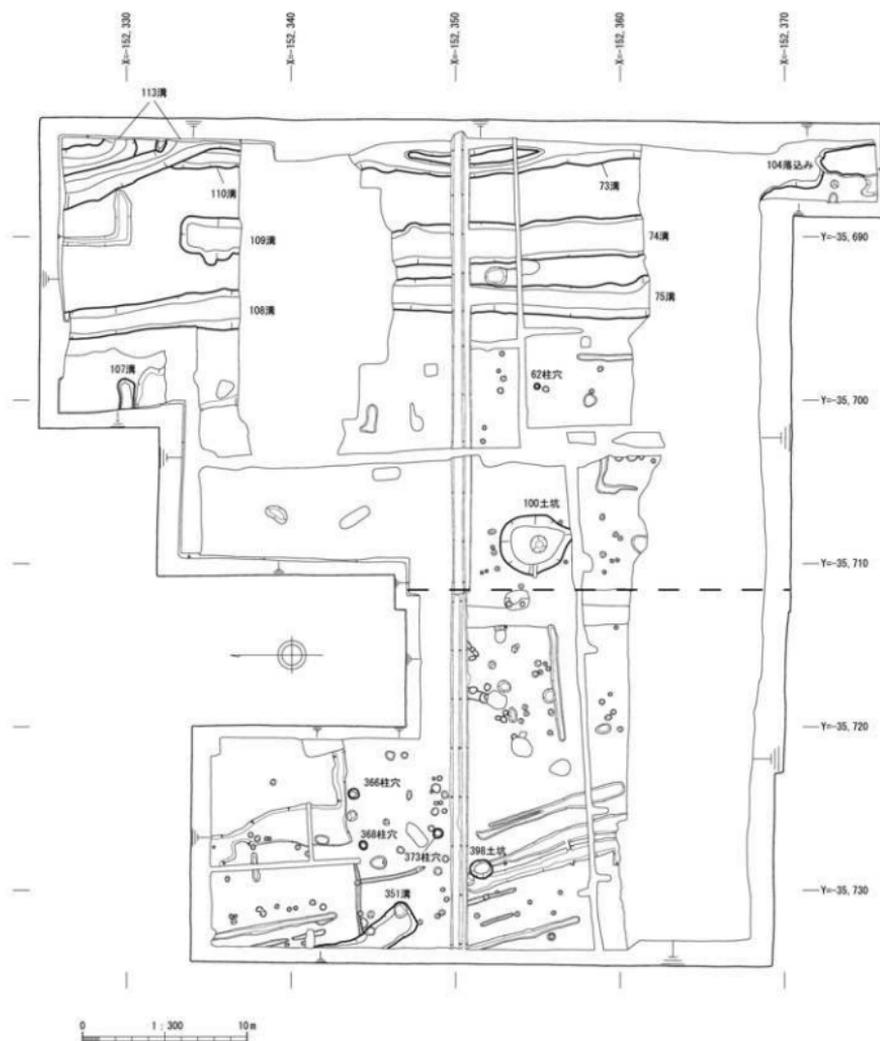


図9 第1調査区第3面・第2調査区第4面

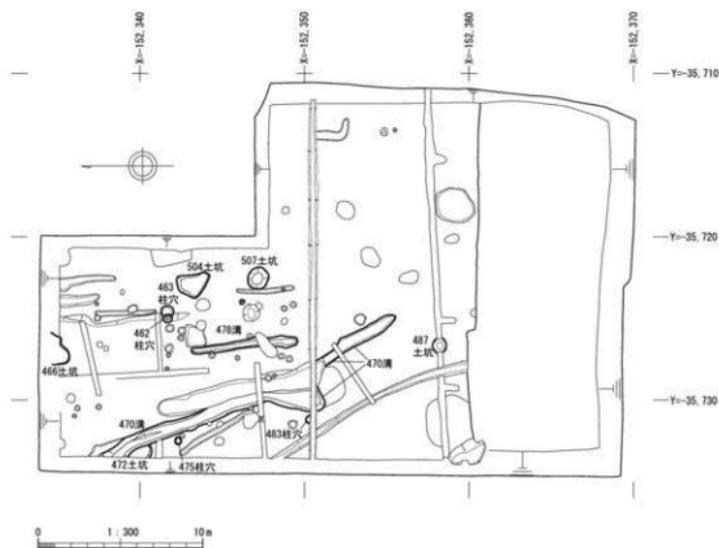


图10 第2調査区第5面

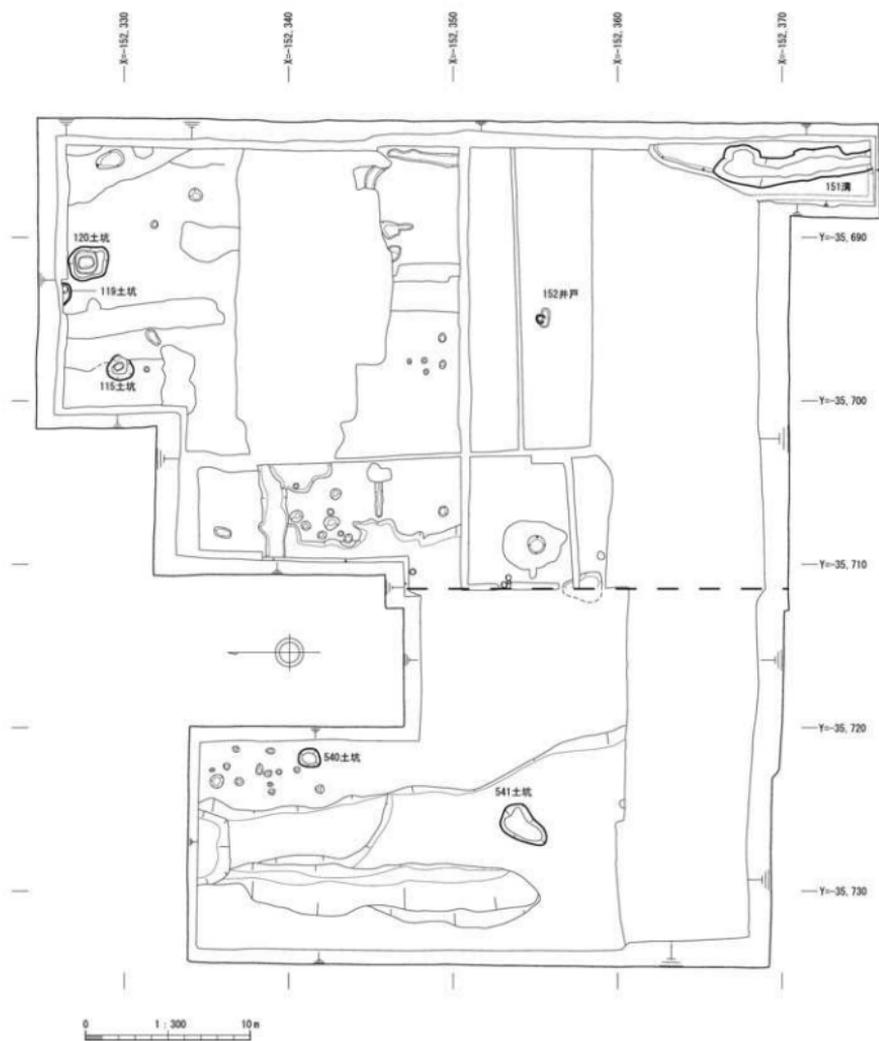


図11 第1調査区第4面・第2調査区第5-2面

第2章 第1調査区の調査成果

第1節 遺構と遺物

第1調査区では、計4枚の遺構面と4層の包含層を検出した。しかし、昭和30年代に建設された建物の基礎や埋設管による攪乱が著しく、遺構面の状態や層の連続性が随所で絶たれ、層の繋がりで誤認した部分や本来検出すべき面の遺構を見落とした部分があった。

本来ならば、これらを整理して記述すべきであるが、かえって混乱をきたすと判断し、ここでは、調査時点で確認された遺構面ごとに検出遺構を記述する。

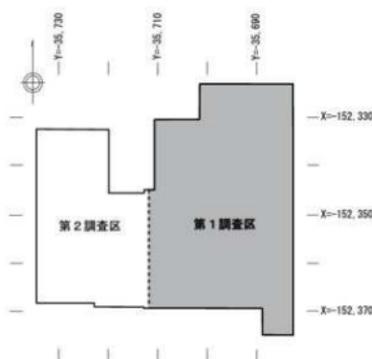


図12 第1調査区位置図 (S=1/1,000)

第1面〔図13・写真図版1〕

盛土や田表土を除去した面である。遺構面はT.P.+7.9～8.1m前後で、南側と西側が若干高い。

第1調査区、図5⑧層と東半部のA層を基盤とする。調査区南東部(17I-9h地区)で土坑や柱穴が検出された。遺構は、全て黒褐色2.5Y3/1 礫まじり極細粒砂を埋土とする。各遺構とも出土遺物から時期を特定することはできなかった。

- 1 土坑：長軸2.45 m、短軸0.45～0.7 m、深さ約9 cmの南北に長い土坑である。古代～中世の土器細片が数点出土した。
- 2 土坑：長軸0.7 m、短軸0.25 m、深さ0.15 mの規模である。遺物は出土しなかった。
- 3 土坑：長軸0.55 m、短軸0.35 m、深さ0.15 mの規模である。土器細片が数点出土した。
- 4 土坑：南端は調査区外にある。東西1.45 m、南北0.5 m以上、深さ0.12 mの規模である。土器細片が数点出土した。
- 5 柱穴：径0.4 m前後、深さ0.13 mの浅い柱穴である。遺物は出土しなかった。
- 6 土坑：南北1.4 m、東西1.1 m、深さ0.12 mの土坑である。南東隅には径0.45～0.65 m、深さ約0.12 mの柱穴状の掘り込みがある。土器細片が数点出土した。

第2面〔図14・写真図版2〕

第1調査区、図5⑩層と東半部のB層を基盤とする。遺構面はT.P.+8.0～7.7 mにあり、全体の傾向として、南東部～北西部が高く、北東部に向かって緩やかに低くなる。第1面と同様、攪乱の影響が著しく遺構面の状態は良くない。調査区全域で遺構が検出されたが、遺構の密度は低い。遺物の出土は東半部が特に多い。

14溝：調査区北東部（17I-9c地区）で検出した。北側は調査区外に延びる。全長3.2m以上、幅0.8m、深さ5cmの浅い皿状の溝である。オリブ褐色2.5Y4/3礫まじりシルトを埋土とする。土師器や須恵器の細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

15溝：14溝の西側約0.5mの地点で検出した。北側は調査区外に延びる。全長7.2m以上、幅0.5～1.6m、深さ0.1mの浅い皿状の溝である。16流路の北半部と重複し16流路よりも新しい。暗褐色10YR3/3礫まじりシルトを埋土とする。14世紀代の瓦器碗や土師器皿などの細片が少量出土した。

16流路：Y=-35,690mライン沿いで検出した。第3面で検出された74・109溝とほぼ同じ位置を流れている。南半部と途中は攪乱によって失われ、北側は調査区外にさらに延びる。全長36.5m以上、幅1.2～1.6m、深さ0.3mを測る。15溝と重複し15溝によって切られる。黄褐色2.5Y5/3極細粒砂の流水堆積層を埋土とする。

土師器甕、瓦質鉢・甕・羽釜、東播系鉢、丸瓦、平瓦など比較的多くの遺物が出土した（図16-1007・1008）。1007は口縁がやや内傾する15世紀中頃の瓦質羽釜、1008は14世紀末～15世紀初頭の瓦質摺鉢である。

19落込み：調査区北端（17I-10c地区）で検出した。東側は16流路によって切られ、北側は調査区外に延びる。全長6m以上、幅1～3.4m、深さ3cmを測る。断面台形の浅い落込みである。暗オリブ褐色2.5YR3/3礫まじり極細粒砂を埋土とする。古墳時代の須恵器、土師器皿・碗、生駒西麓産の胎土の移動式竈、瓦、瓦器碗などの細片が比較的多く出土したが、図化するまでには至らなかった。中世後半の遺構である。

20柱穴：調査区北半部（17I-10d地区）で検出した。径0.4～0.45m、深さ6cmの規模である（図15・写真図版3）。底面から中村編年Ⅱ-1～2（MT15～TK10）・6世紀前半の須恵器杯身が出土した（図

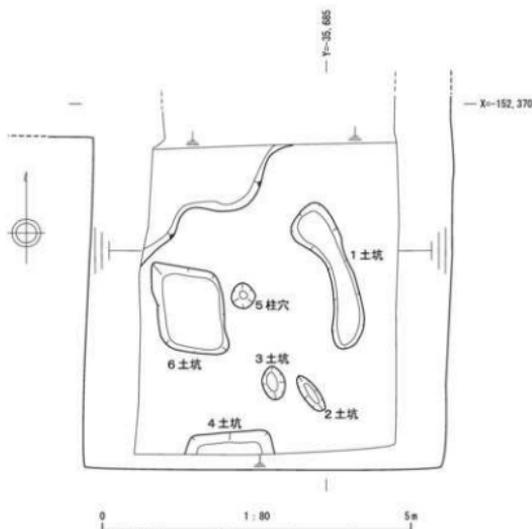


図13 第1調査区第1面（17I-9h地区）

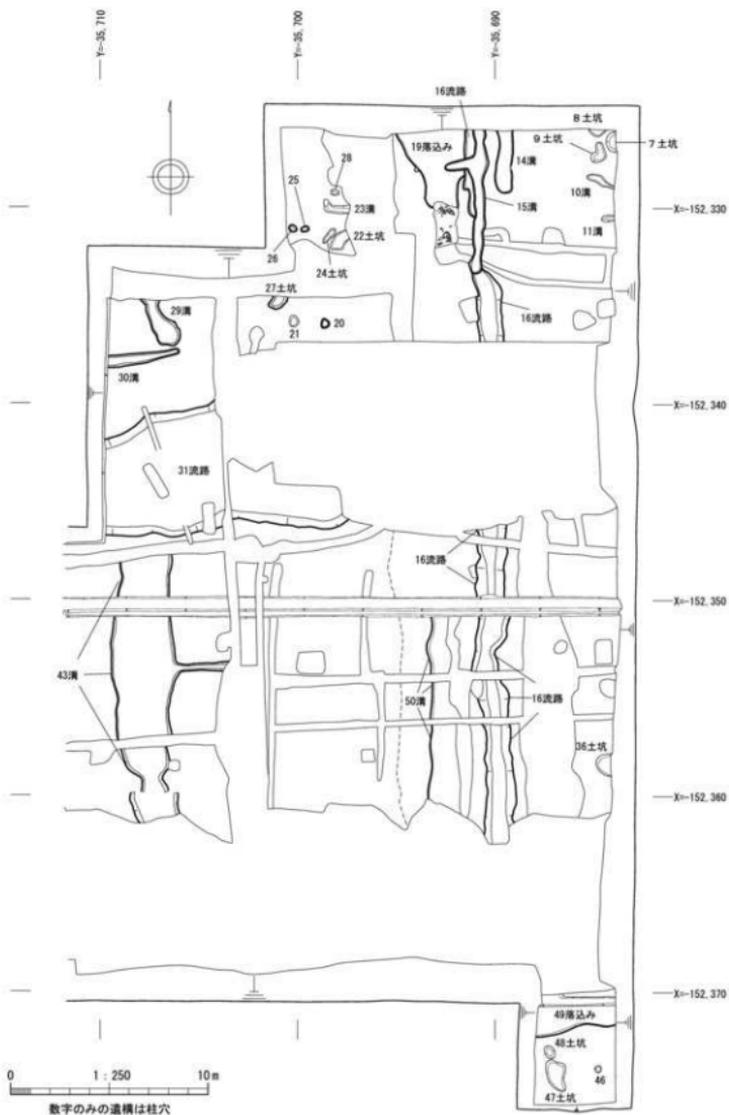


図14 第1調査区第2面

16-1001)。半完形で底部外面にはヘラ記号が見られる。ベース層の時期と異なる事や柱穴の残存状態から、何等かの要因で柱穴内に再堆積したものと考えられる。

25柱穴：調査区北半部（17I-10d地区）で検出した。径0.25～0.4m、深さ0.2mの規模である。オリブ褐色2.5Y4/3礫まじり極細粒砂を埋土とする。土師器皿、黒色土器、瓦器の細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

27土坑：20柱穴の北西約2mの地点（18I-1d地区）で検出した。北半は攪乱によって失われている。南北0.65m以上、東西0.75m、深さ0.1mの規模である（図15・写真図版3）。

南側底面からは礫とともに瓦器椀（1005）が口縁部を上にした状態で出土した（図16-1005・1006）。1005は完形の瓦器椀である。口径に比べて器高が低く、断面三角形の低い高台が付く。12世紀後半～末頃の所産である。1006も1005とほぼ同様の時期と考えられる。内外面のヘラミガキは粗い。

29溝：18I-1d地区で検出した南北方向の溝である。北側は調査区外に延びる。全長2.5m以上、幅0.6～1.2m、深さ0.1mの規模である。にぶい黄色2.5Y6/4極細粒砂まじりシルトを埋土とする。土師器、須恵器、瓦器の細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

30溝：29溝の南側（18I-1d地区）で検出した。西側は調査区外に延びる。全長3.8m以上、幅0.3～0.6m、深さ8cmの規模である。にぶい黄色2.5Y6/4極細粒砂・シルトまじり粘土を埋土とする。土師器、須恵器、瓦器の細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

31流路：30溝の南側約2mの地点で検出した。30溝とほぼ並行する。東側は攪乱によって失われている。全長10m以上、幅3.8～5m以上、深さ0.2mの規模である。にぶい黄色2.5Y6/4極細粒砂まじりシルトの流水堆積層を埋土とする。埋土は、第2調査区第2面ベース層のうち低い部分に堆積する図5⑤層に相当し、第2調査区ではこの層の上面で159

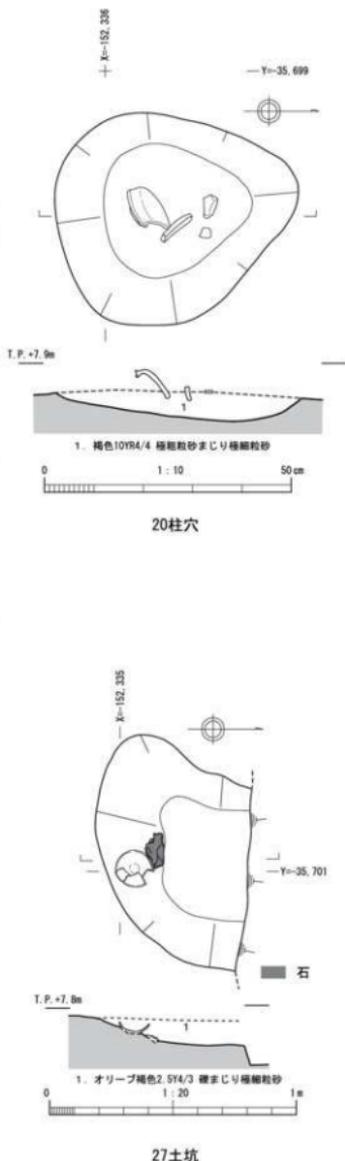


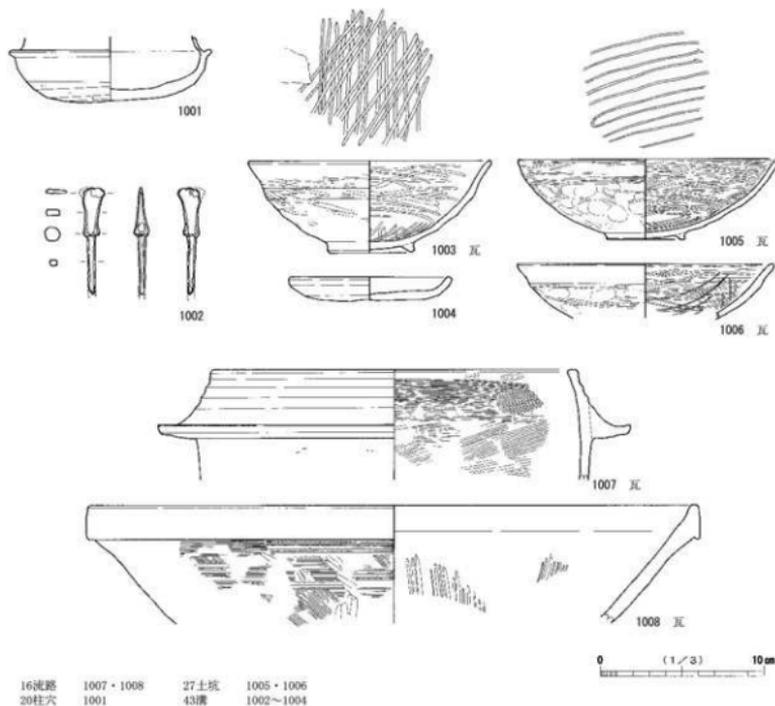
図15 第1調査区第2面 20柱穴、27土坑平・断面図

溝が検出された。6世紀後半の須恵器杯身、土師器羽釜、東播系鉢、瓦器椀などの細片が少量出土した。出土遺物から遺構の時期を特定する事は出来なかったが、第2調査区の調査成果から中世前半の遺構と考えられる。

43溝：調査区南西部（18I-1e・1f地区）で検出した。北端と南端は攪乱で失われている。全体に浅い皿状を呈し、北端では不明瞭になる。全長13m以上、幅1～3.3m、深さ0.1mの規模である。にぶい黄褐色10YR4/3 礫まじり極細粒砂を埋土とする。

土師器皿・羽釜、瓦器椀・小皿、丸瓦などの細片が多数出土したが図化できるものは少なかった（図16-1002～1004）。1002は方頭斧箭式の鉄鏃である。基部は断面方形、鏃身間部は不整十角形を呈する。1003は口径に対して器高が高い瓦器椀である。内面見込み部分の格子状暗文や内外面のヘラミガキはやや粗い。12世紀中頃の所産である。1004の土師器皿の胎土は砂粒を多く含み粗い。外面には切り込み円板技法の痕跡が見られる。11世紀末～12世紀中頃・京都編年V期（古）～（中）の所産である。

49落込み：調査区南東部（17I-9h地区）で検出した。北半部は攪乱によって失われている。東西4m以上、南北1～1.5m、深さ9cmの規模である。黄灰色2.5Y4/1 礫まじり細粒砂を埋土とする。土師器、須恵器の細片の他、東播系鉢、土師器質羽釜、常滑焼甕、丸瓦などが出土したが図化できるものはなか



16流路 1007・1008 27土坑 1005・1006
20柱穴 1001 43溝 1002～1004

図16 第1調査区第2面 16流路、20柱穴、27土坑、43溝出土遺物

表1 第1調査区 第2面検出遺構

遺構 番号	遺構 番号	地区	長軸 (m)	幅・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期 (出土遺物より判断)	備考
7	土坑	171-9c	1.1	0.5 + a	20	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
8	土坑	171-9c	1	0.4 + a	15	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
9	土坑	171-9c	1	0.45-0.8	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
10	溝	171-9c	1.5 + a	0.2-0.5	3	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
11	溝	171-9d	0.7 + a	0.35	15	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
14	溝	171-9c	3.2 + a	0.8	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		112溝(第3面)の土層か?
15	溝	171-10c 171-10d	7.2 + a	0.5-1.6	10	暗褐色 10YR3/3 礫まじりシルト	中世後半 (14世紀前半)	
16	流路	171-10c 171-10d	36.5 + a	1.2-1.6	30	黄褐色 2.5Y5/3 シルト-細粒砂	中世後半 (15世紀)	
19	落込み	171-10c	6.0 + a	0.8-3.4	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
20	柱穴	171-10d	0.45	0.4	6	図 15		
21	柱穴	181-1d	0.5	0.5	8	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
22	土坑	171-10d	1.2 + a	0.6-0.75	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
23	溝	171-10c	1.3 + a	0.5-0.7	20	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂		
24	土坑	171-10d	0.9	0.3-0.4	6	にぶい黄褐色 10YR4/3 礫まじり細粒砂		
25	柱穴	171-10d	0.4	0.25	20	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
26	柱穴	181-1d	0.4	0.35	30	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
27	土坑	181-1d	0.75	0.65+ a	10	図 15	平安末 (12世紀後半)	
28	柱穴	171-10c	0.5	0.4	10	黒褐色 7.5YR3/2 礫まじり細粒砂		
29	流路	181-1d	2.5 + a	0.6-1.2	10	にぶい黄色 2.5Y6/4 細粒砂まじりシルト	中世か	
30	溝	181-1d	3.8 + a	0.3-0.6	8	にぶい黄色 2.5Y6/4 細粒砂・シルトまじり粘土	中世か	
31	流路	181-1e	10 + a	3.8-5.0 + a	20	にぶい黄色 2.5Y6/4 細粒砂まじりシルト	中世か	
36	土坑	171-9f	1.2	1 + a	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
43	溝	181-1e 181-1f	13 + a	1-3.3	10	にぶい黄褐色 10YR4/3 礫まじり細粒砂	平安末-中世 (12-13世紀前半)	
46	柱穴	171-9b	0.4	0.35	9	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂		
47	土坑	171-9b	1.8	0.5-1	5	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂	中世か	
48	土坑	171-9b	0.7	0.5	22	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂	中世か	
49	落込み	171-9b	4 + a	1-1.5	9	黄褐色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂	中世後半 (14-15世紀)	
50	溝	171-10f	11 + a	2 + a	10	にぶい黄褐色 10YR4/3 礫まじり細粒砂		

った。14～15世紀の時期のものが主流を占める。

50溝：16流路の西側約2～3mの地点で検出した。16流路とはほぼ並行する。東肩部は16流路と重複し、16流路によって切られている。また南側は攪乱によって失われ、北半部は検出できなかった。全長11m以上、幅2m以上、深さ0.1mの規模である。にぶい黄褐色10YR4/3礫まじり細粒砂と黒褐色10YR3/2中粒砂まじりシルトを埋土とする。

土師器、須恵器の細片の他に中世後半の陶磁器、瓦器などが出土したが、細片のため図化できるものはなかった。

第3面 [図17・写真図版4]

第1調査区、図5②層を基盤とする。攪乱の影響も少なく遺構面の状態が比較的安定した面である。遺構面は、T.P.+7.8～7.5mにあり、第2面と同様、南東部と南西部が高く北西部が低い。基盤層からは、瓦器片等が少量出土しているが、主体となるのは古墳時代初頭～古代の遺物である。東半部で南北方向の溝群が、西半部で柱穴や土坑が検出された。東半部で検出された溝や落込みは、いずれも中世後半の時期で、本来は上位の面に帰属する遺構である。柱穴は、南西部に集中していた。柱穴のなかに

は掘立柱建物構成するような配置をとるものはなかった。柱穴からは土師器細片が数点出土したが、時期を特定できるものは限られていた。ただ、埋土の違いによって、オリブ褐色礫まじり細粒砂を埋土とするもの、黒褐色礫まじりシルトを埋土とするもの、暗オリブ褐色礫まじり極細粒砂を埋土とするものの3種類が認められた。

62 柱穴：調査区中央（17I-10f 地区）で検出した。径0.3～0.35 m、深さ0.14 mを測る（図18）。土師器碗や黒色土器碗が出土した（図19-1009～1011）。1009・1010は断面三角形の高台が付く土師器碗である。磨減が著しく調整は明確ではない。体部外面にはエビオサエの痕跡が残る。10世紀末～11世紀初頭の所産である。1011は遺構の底部から出土した完形の黒色土器A類の碗である。磨減が著しく調整は明瞭ではない。口縁端部の内面には1条の沈線が廻る。10世紀末～11世紀初頭の所産である。

100 土坑：85土坑の北約3.5 mの地点で検出した。隅丸方形の土坑である。東西3.6 m、南北4.3 m、深さ0.4 mを測る（図20・写真図版4）。底面はほぼ平坦で、中央には径1 m、深さ0.2 mの掘り込みが見られる。壁は緩やかに立ち上がる。断面形状や中粒砂～粗粒砂の流水堆積層に達している事から井戸として機能していた可能性が考えられる。

土師器、黒色土器、瓦器などが出土した（図21）。1012・1013は11世紀前半の黒色土器B類碗である。内罅する深めの体部で器壁もやや厚い。口縁端部は強いヨコナデによってやや外反する。内外面のヘラミガキはやや粗い。1014・1015は11世紀後半の瓦器碗である。1016～1018は土師器皿である。1016・1017はいわゆる「て」字状口縁の土師器皿で10世紀末～11世紀前半・京都編年Ⅲ期（新）～Ⅳ期（中）の所産と考えられる。1018は11世紀前半～後半・京都編年Ⅳ期（古）～（中）の所産と考えられる。

102 柱穴：調査区南東部（17I-9h 地区）で検出した。径0.5～0.55 m、深さ0.15 mを測る。黒褐色2.5Y3/2礫まじりシルトを埋土とする。土師器高杯や6世紀前半頃の須恵器杯身などの細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

103 土坑：102柱穴の南側（17I-9h 地区）で検出した。南側は調査区外にある。東西1.3 m、南北1 m以上、深さ0.17 mを測る。暗オリブ褐色2.5Y3/3礫まじりシルトを埋土とする。土師器皿や瓦器皿の細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

104 落込み：調査区南東部（17I-9h 地区）で検出した。北側は擾乱によって失われ、東側は調査区外にある。

古墳時代の土師器や須恵器、硬質の韓式系土器の他、瓦器碗、瓦質羽釜・甕、東播系鉢、瓦など多くの遺物が出土した（図22-1019～1026）。このうち図化できたものの多くは古墳時代の土師器壺（1019）や高杯（1020）と須恵器杯蓋（1022・1023）・高杯（1021）・壺（1024）であった。1025は埴輪と推定されるが全体の磨減が著しく定かではない。石英・長石などを多く含み、器壁は1.5～2.5 cmと厚い。下から3.5 cmの所に幅1.3～2.5 cmの断面台形の「タガ」を廻らしている。1026は最下層から出土した15世紀代と思われる瓦質甕である。

107 溝：調査区北西部（17I-10c・10d 地区 18I-1c・1d 地区）で検出した東西方向の溝である。西側は調査区外に延びる。全長1.9 m以上、幅1 m、深さ0.14 mを測る。暗オリブ褐色2.5Y3/3礫まじり極細粒砂を埋土とする。土師器、須恵器、製塩土器、瓦質土器の細片が出土したが量が少なく、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。このうち図化できたのは、5世紀中葉（TK208 型式）の須恵器杯蓋（1027・1028）・壺口縁（1029）・高杯脚部（1030）・杯身（1031）のみであった。（図22-1027～

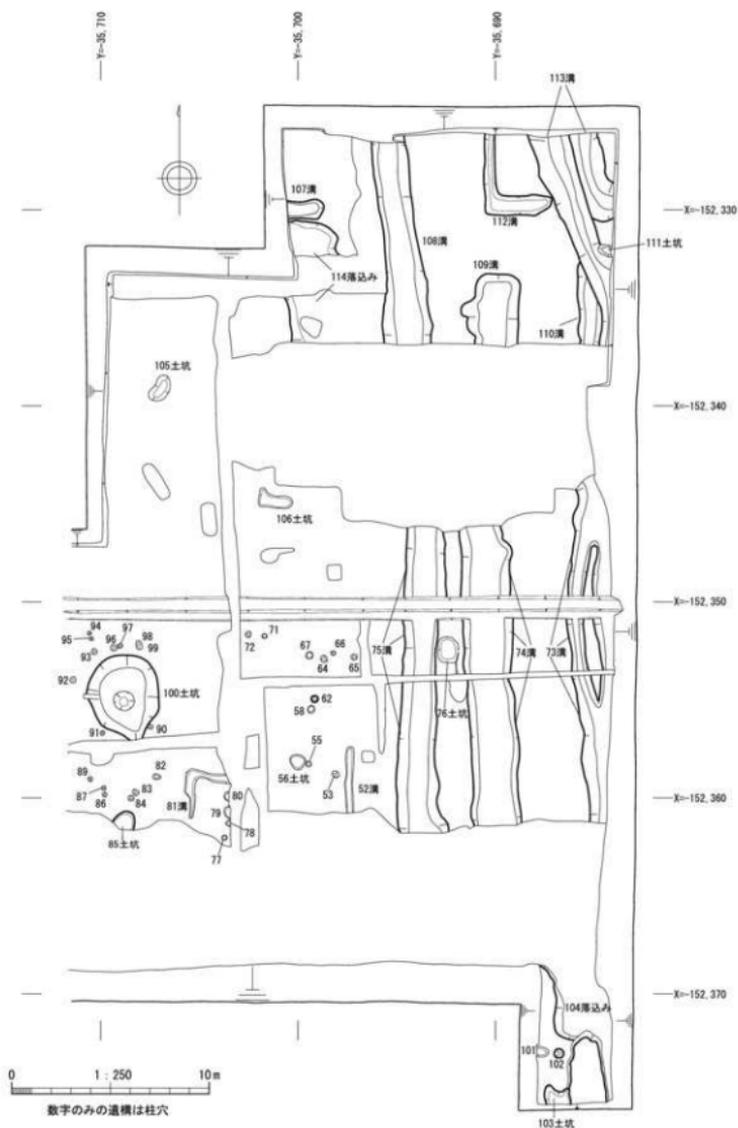


図17 第1調査区第3面

1031)。

73・110溝：調査区東側で検出した（図23）。平面の位置関係や埋土の状態から本来は同一の溝と考えられる。北半部（110溝）は113溝と重複し、113溝に切られている。南半部（73溝）は、東肩部が調査区外にあり、南端は攪乱によって失われている。全長28.5m以上、幅1.2～2m以上、深さ0.3～0.5mを測る。南半部には長さ7.8m、幅0.3～0.8mの規模で鳥状に掘り残された部分があり、2本の溝が重複している可能性が考えられるが、断面では切り合いを確認できなかった。上層の埋土は共通するが、東側の溝下層にぶい黄褐色10YR5/4中粒砂まじりシルトが堆積する事から、埋没するまでには若干の時間差があったと推定される。

土師器や須恵器を含む多くの遺物が出土した。中でも主体を占めるのは中世後半の瓦と土器である（図24・1032～1044、図25・1045～1052、図26・1065）。1032は15世紀代の瓦質甕である。全体に磨滅が著しい。口縁部の折り返しは短く、端部は鋭角的に小さくおさまる。1033は瓦質羽釜である。内傾する口縁端部は平坦にする。鈎の上面にはエビオサエの痕跡が残る。15世紀前半頃の所産である。1034は土師器羽釜である。口縁部は短く折り返し、鈎は薄く短い。14世紀中頃～末の所産である。1035・1041は15世紀代の瓦質火舎である。1035の口縁部外面には断面円形の突帯を貼り付け、突帯間にスタンプ文を施す。1041も口縁外面に菊花状のスタンプ文を施す。1036は15世紀代の瓦質播鉢である。1037・1038は15世紀後半頃の備前焼甕、1042は13世紀後半～末頃の常滑焼甕である。1039の瀬戸焼折縁中皿の体部内面には丸ノミ状工具による刻文（ソギ）が施される。1040は宝珠唐草文軒平瓦で室町時代の所産と考えられる。1043は龍泉窯の青磁椀、1043は瀬戸焼天目茶椀である。1045～1049は14世紀末～15世紀中頃の土師器皿である。1045には切り込み円板技法の痕跡が見られる。1051は他の遺物と時期が異なるがほぼ完形に復元された8世紀後半頃の土師器甕である。1052は赤褐色を呈し硬質の韓式系土器である。同様の胎土・色調で縄文タタキを施した破片が包含層や遺構から出土している。1065は唐草文軒平瓦である。

74・109溝：73・110溝の西側約3mの地点で検出した。73・110溝とほぼ並行する。南端は攪乱によって失われている。全長28m以上、幅2～3m、深さ0.3～0.4mを測る（図23・写真図版4）。溝の埋

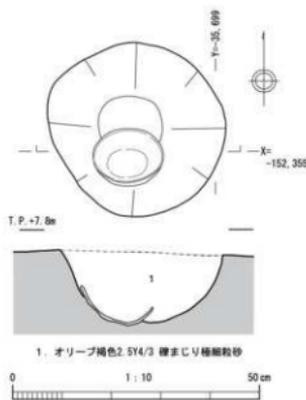


図18 第1調査区第3面 62柱穴平・断面図

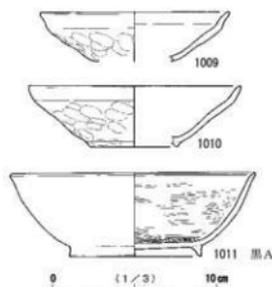


図19 第1調査区第3面 62柱穴出土遺物

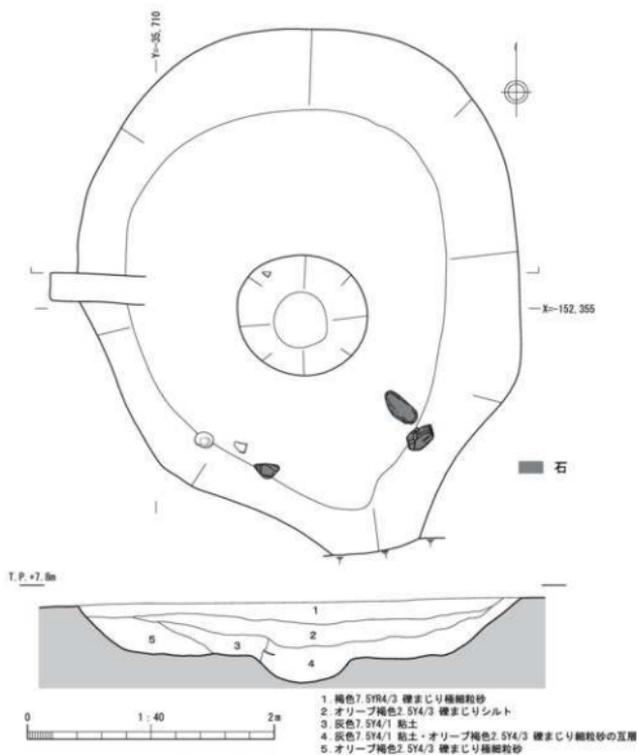


図20 第1調査区第3面 100土坑平・断面図

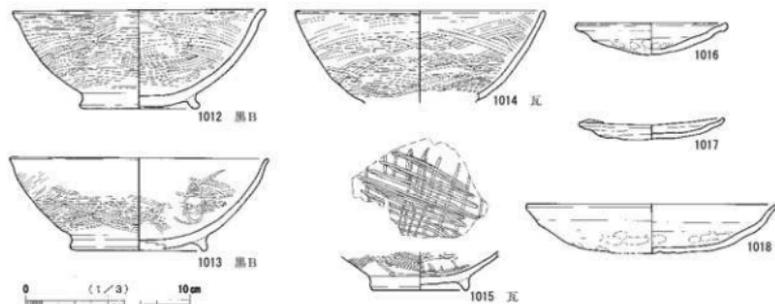


図21 第1調査区第3面 100土坑出土遺物

土はシルト・粗粒砂を主体とし、3層に大別される。シルト・粗粒砂層にラミナは見られない。平面調査では確認できなかったが、堆積状況から何回か掘り直しされた可能性が考えられる。また、埋土中に粗粒砂を含む粘土層が堆積している。

遺物の量は73・110溝ほど多くはない。古墳時代～中世前半の遺物を含むが、主体を占めるのは中世後半の遺物である。土師器、須恵器、黒色土器A類碗、東播系鉢・甕、白磁碗、瓦質鉢・羽釜、瓦などの遺物が出土したが、細片が多く図化できたものは少ない(図25-1053・1054・1057)。1053・1057は瓦器碗である。口径に比べて器高が低く、また高台もかなり退化したタイプのものである。内外面のヘラミガキもかなり粗い。13世紀第3四半期の所産である。1054は土師器羽釜である。

75・108溝：74・109溝の西側で検出した。北端は調査区外に延び、途中と南端は攪乱によって失われて

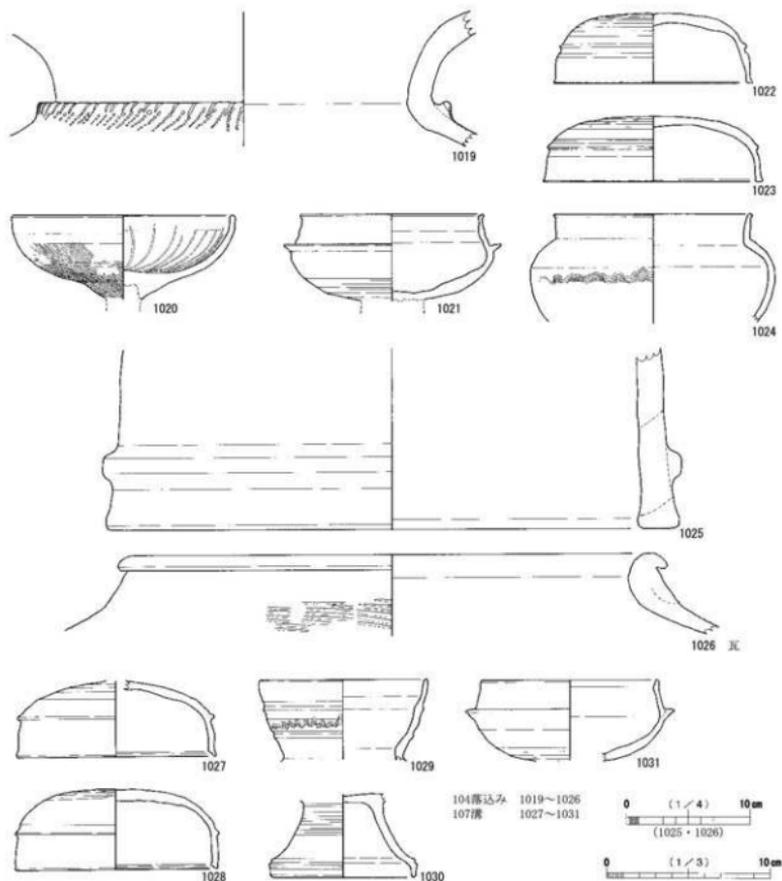


図22 第1調査区第3面 104落込み、107溝出土遺物

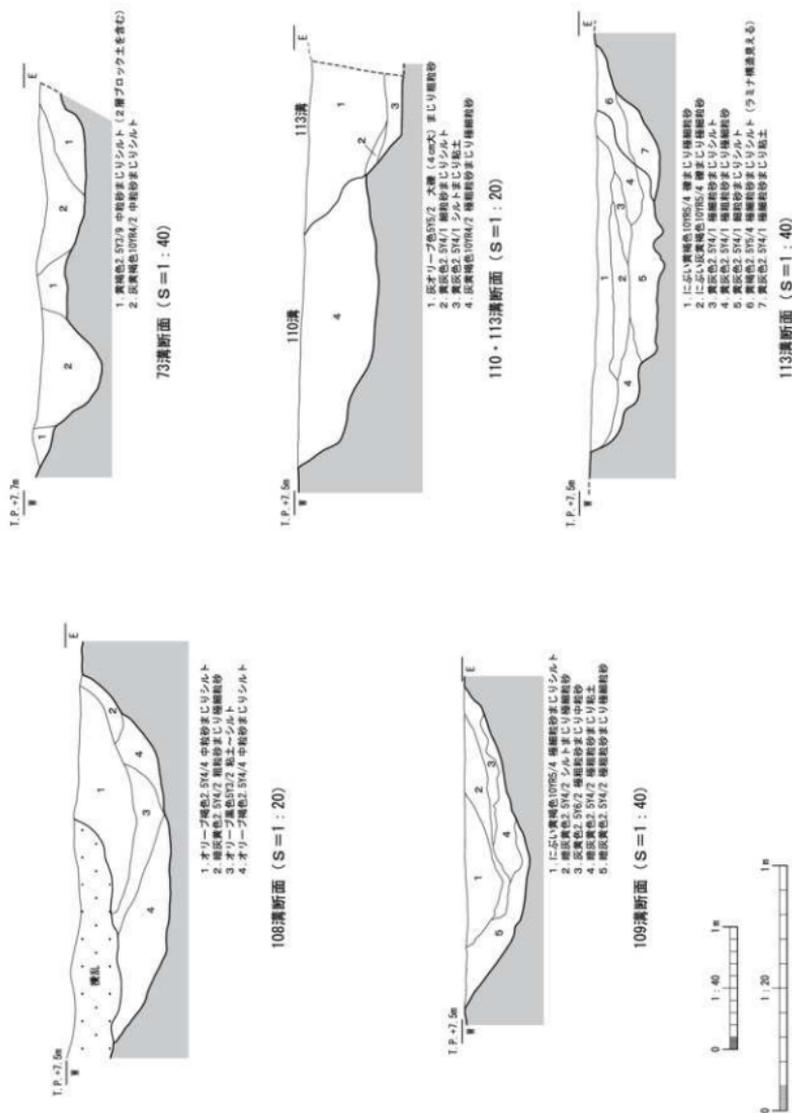


図23 第1調査区第3面 73・108・109・110・113清断面図

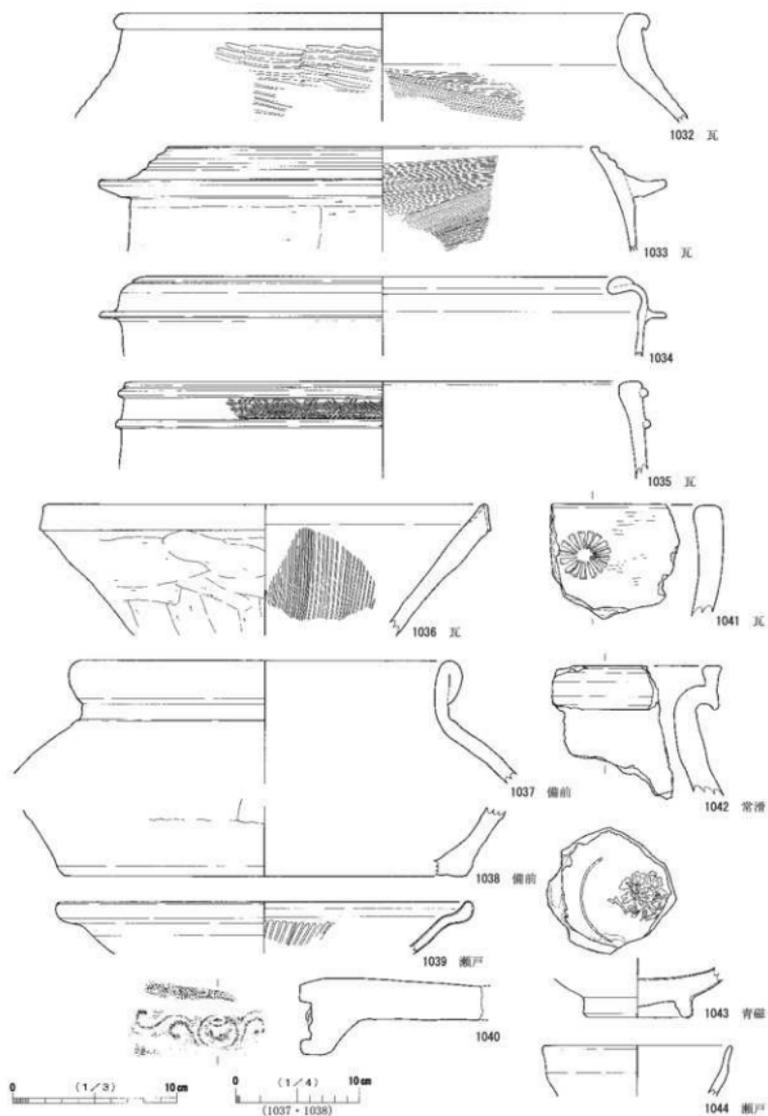


図24 第1調査区第3面 73溝出土遺物(1)

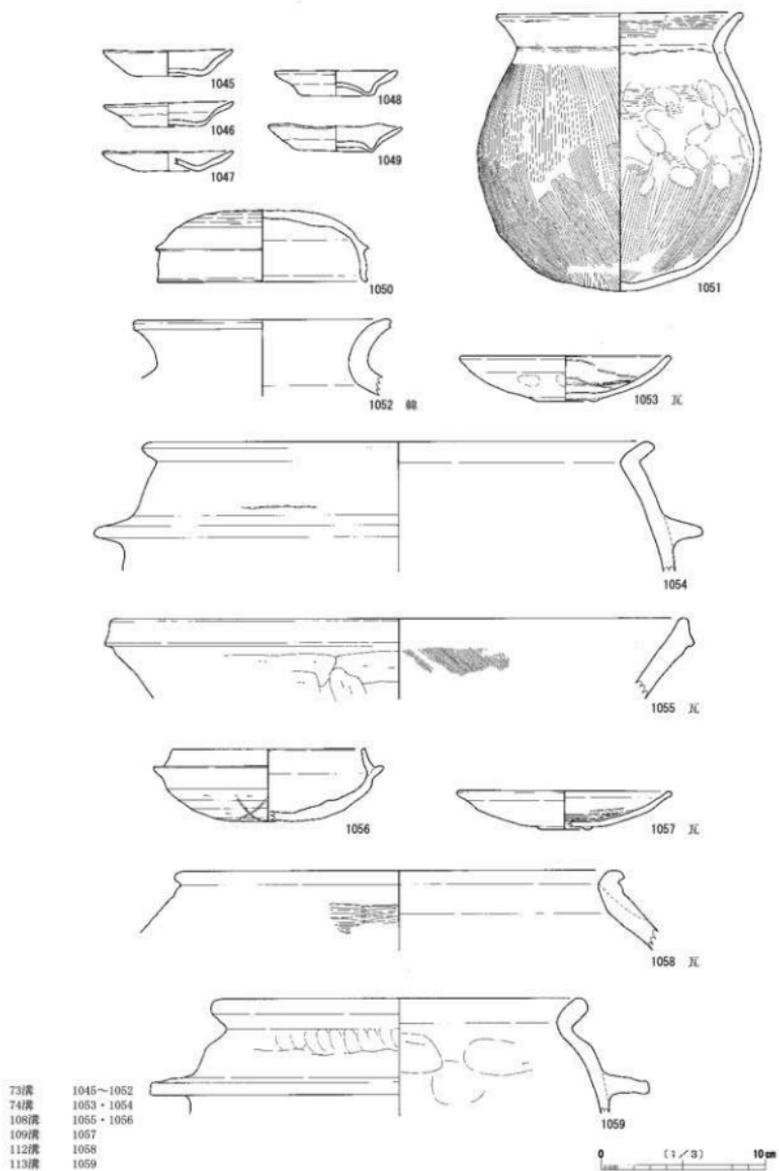


図25 第1調査区第3面 73溝出土遺物(2)、74・108・109・112溝出土遺物、113溝出土遺物(1)

いる。全長35.5m以上、幅1.1～2.5m、深さ0.35～0.7mを測る。全体には中粒砂～粗粒砂を含むシルトを埋土とする(図23)。堆積状況から、74・109溝と同様何回か掘り直しされた可能性が考えられ、埋土中に粘土～シルト層が堆積する。溝底は南端と北端では約0.2mの高低差があり、北が低い。

遺物の量は東側の2本の溝に比べるとさらに少ないが、同じ様相を示している。須恵器杯身、移動式竈、瓦器皿、瓦質鉢、瓦が出土した。瓦の量が多い(図25-1055・1056)。1055は15世紀代の瓦質捕鉢である。1056は中村編年Ⅱ-2(TK10)・6世紀中頃の須恵器杯身で、体部外面に「×」印のヘラ記号が見られる。

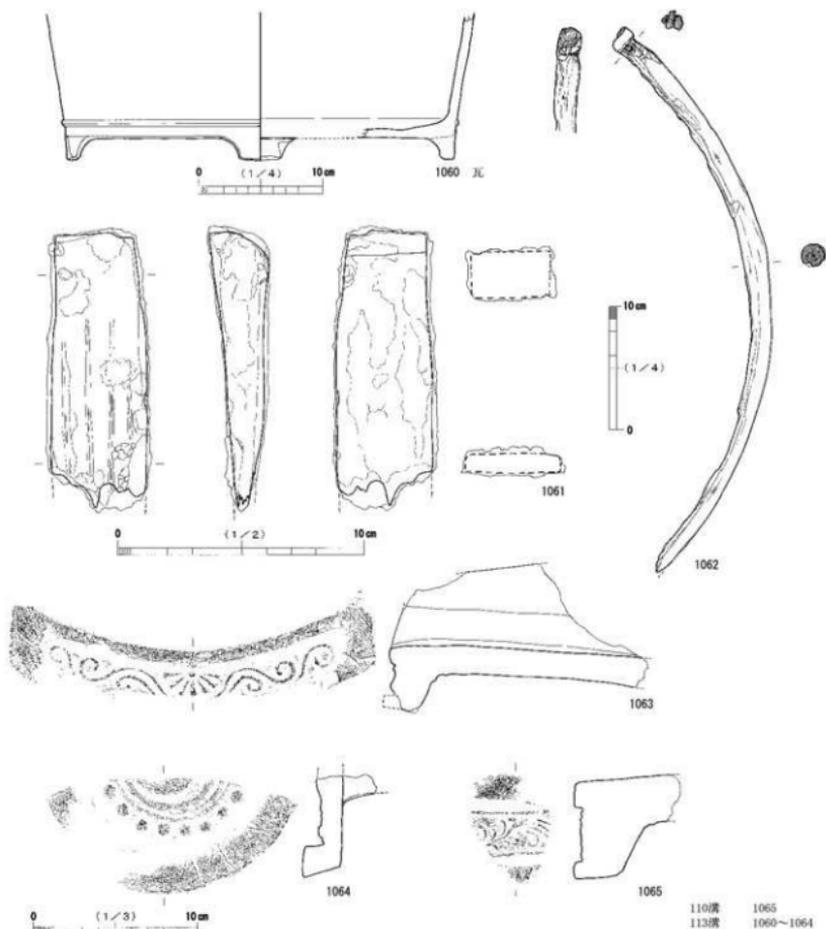


図26 第1調査区第3面 113溝出土遺物(2)、110溝出土遺物

表2 第1調査区 第3面検出遺構(1)

遺構 番号	遺構 番号	地区	長軸 (m)	短・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より判断)	備考
52	溝	171-10f	3.3	0.45	5	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂	古代～中世か	
53	柱穴	171-10f	0.4		16	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
55	柱穴	171-10f	0.3	0.3	4	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
56	土坑	181-1f	0.8	0.8	8	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
58	柱穴	171-10f	0.4	0.35	3	オリーブ褐色 25Y4/3 礫まじり細粒砂		
62	柱穴	171-10f	0.35	0.3	14	図18	平安中期(10～11世紀)	
64	柱穴	171-10f	0.4	0.4	4	オリーブ褐色 25Y4/3 礫まじり細粒砂		
65	柱穴	171-10f	0.35	0.35	6	オリーブ褐色 25Y4/3 礫まじり細粒砂		
66	柱穴	171-10f	0.25	0.25	19	オリーブ褐色 25Y4/4 礫まじり細粒砂		
67	柱穴	171-10f	0.3	0.25	4	オリーブ褐色 25Y4/3 礫まじり細粒砂		
72	柱穴	181-1f	0.35	0.35	5	オリーブ褐色 25Y4/3 礫まじり細粒砂		
73	溝	171-9e 171-10e	16.5 + a	2 + a	50	図23	中世後半(15世紀)	
74	溝	171-9e～g 171-10e～g	15 + a	2～2.5	30	オリーブ褐色 25Y4/3 礫まじり粗粒砂～シルト	中世後半(15世紀)	
75	溝	171-10e～g	15 + a	1.1～2.5	35	オリーブ褐色 25Y4/3 礫まじり粘土～シルト	中世後半(15世紀)	
76	土坑	171-10f	1.3	1	40	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト	古代～中世か	
77	柱穴	181-1g	0.3	0.3 + a	3	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
78	柱穴	181-1g	0.35	0.1 + a	5	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
79	柱穴	181-1g	0.7	0.2 + a	7	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
80	柱穴	181-1f・1g	0.5	0.1 + a	5	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
81	溝	181-1f	2.6 + a	0.25～0.6	6	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト	古代～中世か	
82	柱穴	181-1f	0.4	0.3	10	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
83	柱穴	181-1f	0.4	0.4	10	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
84	柱穴	181-1g	0.3	0.3	23	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
85	土坑	181-1g	1.2 + a	0.9	9	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
86	柱穴	181-1f	0.3	0.25	17	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
87	柱穴	181-1f	0.3	0.3	15	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
89	柱穴	181-2f	0.25	0.25	17	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
90	柱穴	181-1f	0.3	0.3	18	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
91	柱穴	181-2f	0.25	0.2	15	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
92	柱穴	181-2f	0.4	0.35	17	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
93	柱穴	181-2f	0.35	0.35	13	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
94	柱穴	181-2f	0.25	0.25	9	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
95	柱穴	181-2f	0.25	0.2	7	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
96	柱穴	181-1f	0.35	0.3	15	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂～細粒砂		
97	柱穴	181-1f	0.3	0.25	9	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		
98	柱穴	181-1f	0.3	0.3	20	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂～細粒砂		
99	柱穴	181-1f	0.3	0.25	20	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂～細粒砂		
100	土坑	181-1f 181-2f	4.4	0.8～3.6	75	図20	平安後期(11世紀)	
101	柱穴	171-9b	0.7	0.5 + a	14	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
102	柱穴	171-9b	0.55	0.5	15	黒褐色 25Y3/2 礫まじりシルト		
103	土坑	171-9b	1.3	1 + a	17	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじりシルト		
104	跡込み	171-9b		4 + a	50	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじりシルト	中世後半(15世紀)	
105	土坑	181-1d	1.5	0.9	13	暗灰黄色 25V4/2 礫まじり細粒砂		
106	土坑	181-1e	1.8	0.6～1	8	暗灰黄色 25V4/2 礫まじり細粒砂		
107	溝	171-10c～d 181-1c～d	1.9 + a	1	14	暗オリーブ褐色 25V3/3 礫まじり細粒砂		

表3 第1調査区 第3面検出遺構(2)

遺構 番号	遺構 番号	地区	長軸 (m)	幅・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より判断)	備考
108	溝	171-10c 171-10d	10.8 + a	1.7 - 2.5	70	図23	中世後半(15世紀)	75溝の続き
109	溝	171-9d 171-10d	3.5 + a	2.3 - 3	30 - 40	図23	中世後半(15世紀)	74溝の続き
110	溝	171-9d	4.2 + a	0.6 - 1	30	図23	中世後半(15世紀)	73溝の続き
111	土坑	171-9d	L15	0.7	20	暗オリーブ褐色2.5Y3/3礫まじり極細粒砂		
112	溝	171-9c 171-10c	南北4.3 + a 東西3.3 + a	0.5 - 1	27 - 30	暗オリーブ褐色2.5Y3/3礫まじり極細粒砂	中世後半(15世紀 - 16世紀)	
113	溝	171-9c - d	4.1 + a	1.7 - 3.7	50	図23	中世後半(15 - 16世紀)	
114	落込み	171-10d 181-1d	6.3 + a	2.5 + a	20	暗オリーブ褐色2.5Y3/3礫まじり極細粒砂	中世後半(15世紀)か	

85土坑：調査区南西端(181-1g地区)で検出した。南端は攪乱によって失われている。南北1.2m以上、東西0.9m、深さ9cmを測る。黒褐色2.5Y3/2礫まじりシルトを埋土とする。土師器や瓦器の細片が少量出土したが、時期を特定するまでには至らなかった。周辺には同じ埋土の柱穴や81溝が検出されている。

112溝：調査区北部(171-9c・10c地区)で検出した。北端は調査区外に延びる。南端は直角に折れて東側に延びる。幅0.5～1m、深さ0.27～0.3mを測る。南側の溝幅が広くて深い。暗オリーブ褐色2.5Y3/3礫まじり極細粒砂を埋土とする。

土師器羽釜・皿、須恵器杯身・杯蓋、瓦器椀、瓦質羽釜、瓦、陶磁器類など比較的多くの遺物が出土したが、細片が多く、図化できたのは15世紀後半～16世紀初頭の瓦質甕(図25-1058)のみである。

113溝：調査区北東部(171-9c・9d地区)で検出した重複する2本の溝である(図23・写真図版4)。X=-152.330m、Y=-35.684m付近で一方は東に折れて調査区外に延び、一方は南側へ延びて110溝と重複する。東に折れる溝を113溝(1)、110溝と重複する溝を113溝(2)とする。113溝(1)が埋没した後に、113溝(2)が掘削されている。113溝(1)の底付近にはラミナ構造が見られるシルト層が堆積している事から一時期緩い流れがあった事が窺える。113溝(1)は幅2.0m、深さ0.5m、113溝(2)は全長約11m、幅2.8m、深さ0.5mを測る。溝からは大量の遺物が出土した(図25-1059、図26-1060～1064)。

1059は土師器羽釜である。1060は15世紀前半の瓦質火鉢である。1061は板状の鉄製品で、層状剥離が顕著に見られる事から鍛造品と考えられる。1062は木製の弓で、弦の直下には木釘が差し込まれている。材はカヤである。1063・1064は大量に出土した瓦の一部で、1063は、半截花菱唐草文軒平瓦、1064は巴文軒丸瓦である。

114落込み：107溝のすぐ南側(171-10d・181-1d地区)で検出した。南側は攪乱によって失われ、北西部は調査区の外にある。南東部は誤って掘り過ぎたため、形状を把握できなかった。南北6.3m以上、東西2.5m以上、深さ0.2mを測る。暗オリーブ褐色2.5Y3/3礫まじり極細粒砂を埋土とする。土師器、須恵器、東播系鉢、瓦質甕が出土したが、いずれも細片のため図化するまでには至らなかった。

第4面(図27・写真図版5)

古墳時代初頭頃には埋没した流路の砂層上部の土壌化部分を除去した面である。したがって、厳密な意味で遺構面の高さを現している訳ではないが、おおむねT.P.+7.5～7.2m前後にあり、全体に西側と

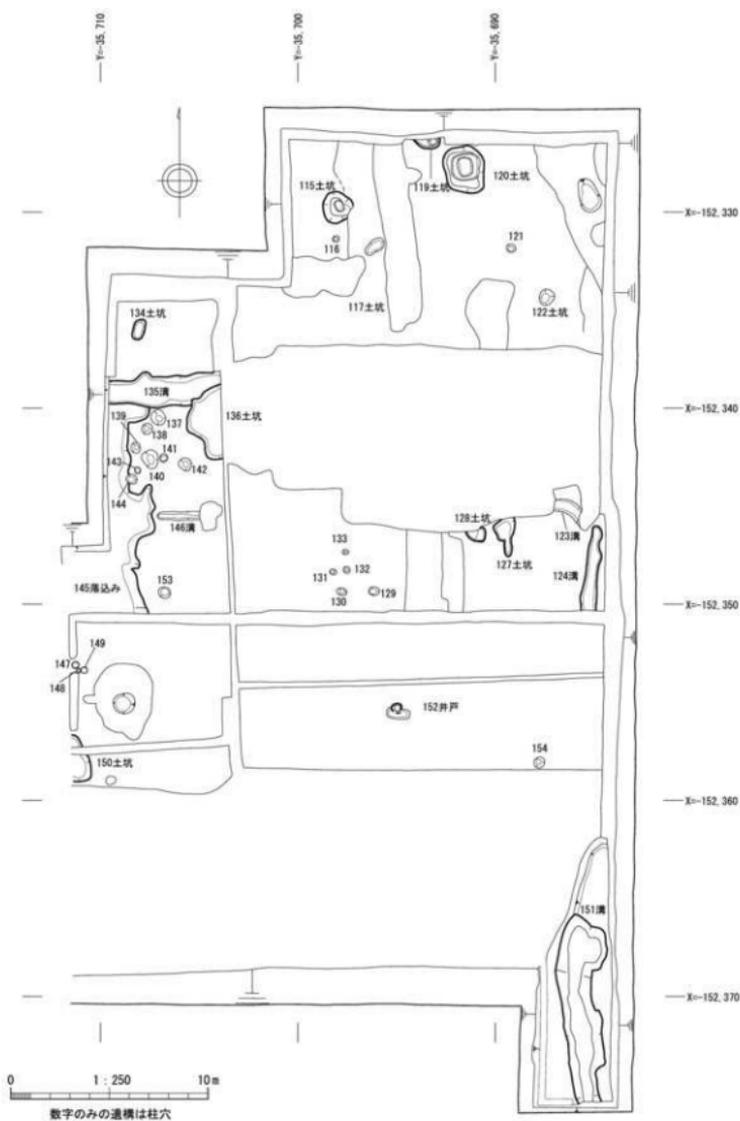


図27 第1調査区第4面

南東部が高い傾向が窺われる。また、検出された遺構は本来上位の遺構面に帰属する。調査区中央(17I-10e地区)、西側(18I-1e地区と18I-2f地区)の3箇所から検出された柱穴群は、建物を構成するような配置をとるものはなかった。いずれも暗オリーブ褐色2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂を埋土とする。土師器や須恵器などが出土したがいずれも細片で、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

115 土坑：調査区北部(17I-10c・d地区)で検出した。東側の一部は攪乱によって失われている。南北1.6m、東西1.4m以上、深さ0.46mを測る。中央部には径0.4～0.6mの筒状の掘り込みが見られる。断面形状から、本来は曲げ物などを井筒とした井戸であった可能性が高い(図28・写真図版5)。

井筒部分上部や掘方から多くの遺物が出土したが、細片が多く図化できたものは少ない(図30-1066～1069)。1066は内外面ナデ調整によって口縁端部が若干内傾する12世紀中頃～後半・京都編年V期(新)の土師器皿である。外面にはユビオサエの痕跡が残る。1067は白磁碗である。1068・1069は12世紀後半の瓦器碗である。いずれも完形である。内外面のヘラミガキと内面見込み部分の格子状暗文は省略傾向にある。

119 土坑：調査区北端(17I-10e地区)で検出した。東端には径0.5mの掘り込みが見られる。北半部は調査区外にある。東西1.35m、南北0.5m以上、深さ0.28mを測る(図28・写真図版5)。東端部から8世紀前半頃の須恵器広口壺が正位の状態出土(図30-1070)。口縁端部を欠く他は完形である。

120 土坑：119土坑の南東約0.5mの地点で検出した。東西2.0m、南北2.5m、深さ0.44mを測る(図29)。下層からは5世紀中頃～6世紀前半の須恵器などが出土した(図30-1071～1077)。1071は中村編年I-3(TK208)の高杯脚部、1074と1076は中村編年I-2(TK216)の須恵器杯蓋と杯身で、やや古い。1077は生駒西麓産の胎土による手づくね土器である。

124 溝：調査区中央東側(17I-9e地区)で検出した。南側の地区では続きを検出できなかった。全長4.4m以上、幅0.5～0.75m、深さ0.1mを測る。黄褐色2.5Y5/3細粒砂を埋土とする。

中世後半の土器細片が出土した。平面の位置関係から、第3面で検出した73・110溝の掘り残しの可能性が高い。

127 土坑：17I-9e地区で検出した。黒褐色2.5Y3/2礫まじりシルトを埋土とする。土師器、須恵器、黒色土器B類などが出土したが、いずれも細片で量も少なく、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。本来は上位の面に帰属する遺構である。

128 土坑：127土坑の西側で検出した。北側は攪乱によって失われている。東西1m、南北0.8m以上、深さ6～12cmを測る。127土坑同様、黒褐色2.5Y3/2礫まじりシルトを埋土とする。古墳時代～古代の土器細片が出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

134 土坑：調査区北西(18I-1d地区)で検出した。南北1.15m、東西0.65m、深さ0.14mを測る。暗オリーブ褐色2.5Y3/3礫まじり細粒砂を埋土とする。最も高いT.P.+7.5m地点に位置している。土師器細片と黒色土器A類碗の細片が出土したが、量も少なく、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

135 溝：調査区北西(18I-1d地区)、134土坑の南側で検出した。東側は攪乱によって失われ、西側は調査区外に延びる。全長5.8m以上、幅1.1～1.5m、深さ7～10cmを測る。暗オリーブ褐色2.5Y3/3礫まじりシルトを埋土とする。土師器、須恵器の細片が少量出土した。

136 土坑：135溝の南東部で検出した。135溝と重複し、135溝を切る。東側は攪乱によって失われている。東西1.7m以上、南北3.7m、深さ0.1mを測る。底面はほぼ平坦である。暗オリーブ褐色2.5Y3/3

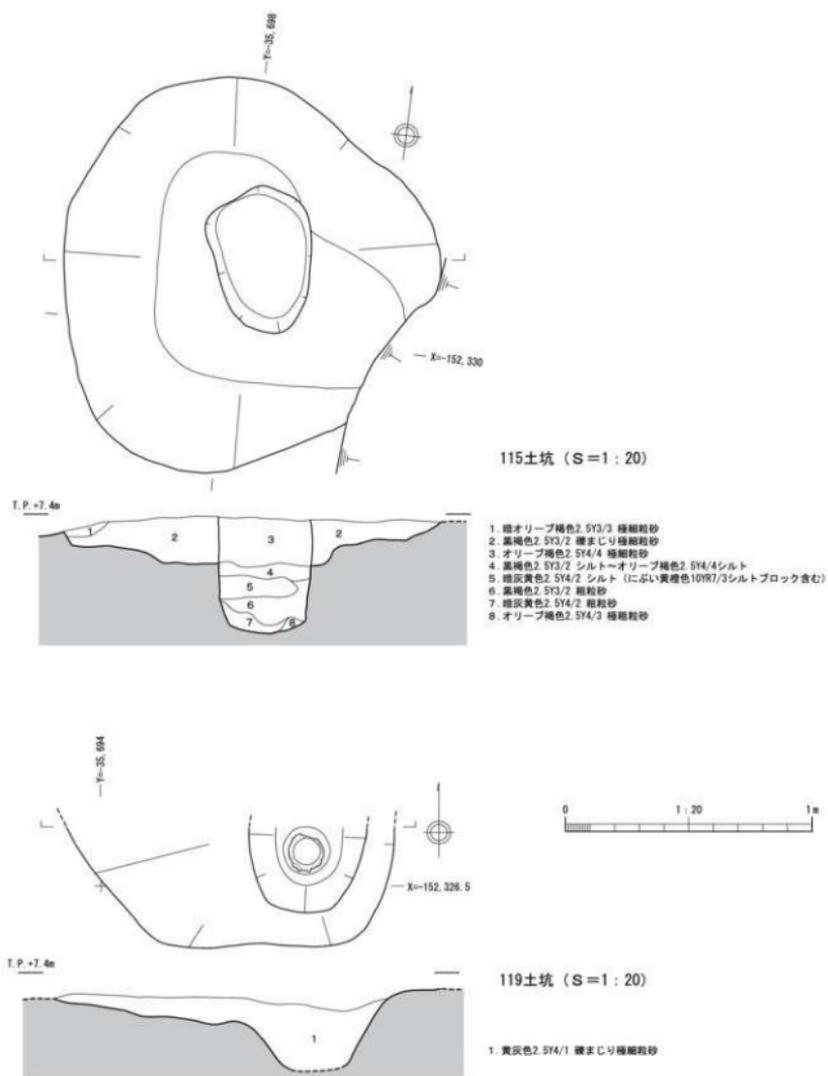


図28 第1調査区第4面 115・119土坑平・断面図

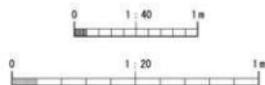
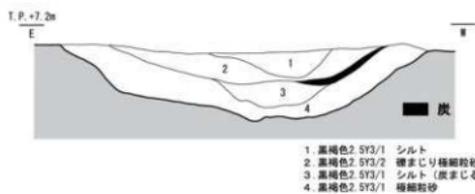
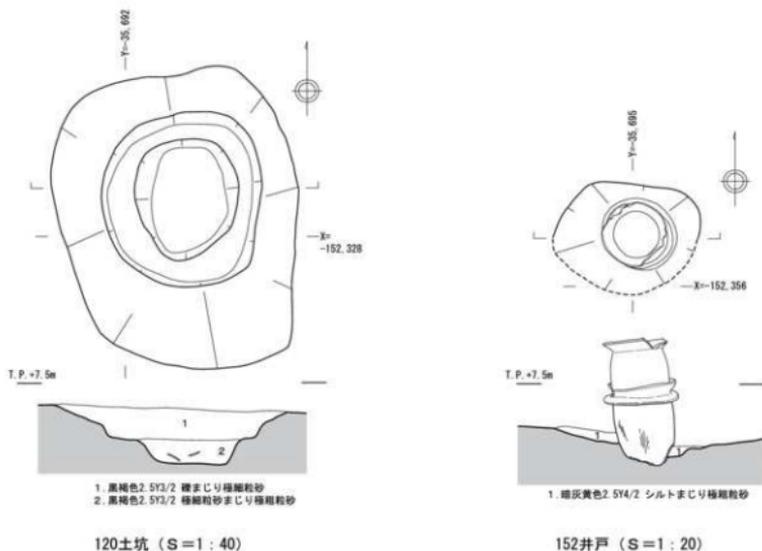


図29 第1調査区第4面 120土坑平・断面図、151溝断面図、152井戸平・断面図

礫まじり細粒砂を埋土とする。土師器、須恵器の細片が少量出土した。

145 落込み：調査区中央西側（18I-1e 地区）で検出した。西側は調査区外に広がる。東西 2.2 m 以上、南北 10.8 m 以上、深さ 0.3 m を測る。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂を埋土とする。

庄内式甕、土師器瓶、須恵器杯、黒色土器B類、瓦器碗などの細片が少量出土した。

150 土坑：調査区南西側（18I-2f 地区）で検出した。南北 2.2 m、東西 1 m 以上、深さ 0.15 m を測る。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルトを埋土とする。古墳時代～古代の土器細片が少量出土した。

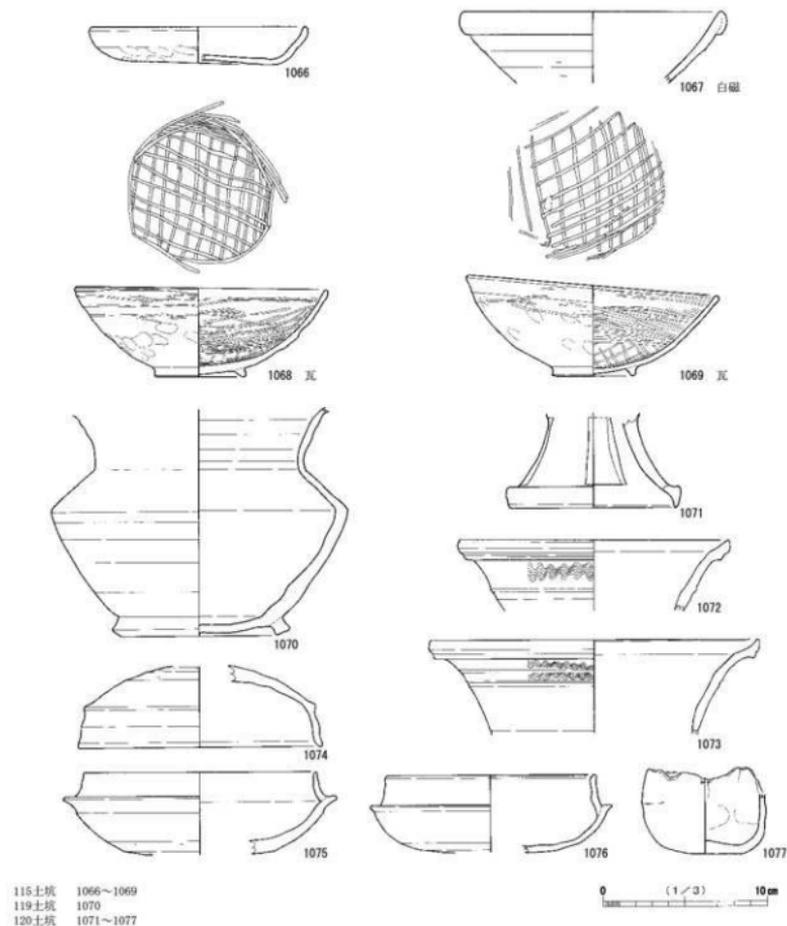


図30 第1調査区第4面 115・119・120土坑出土遺物

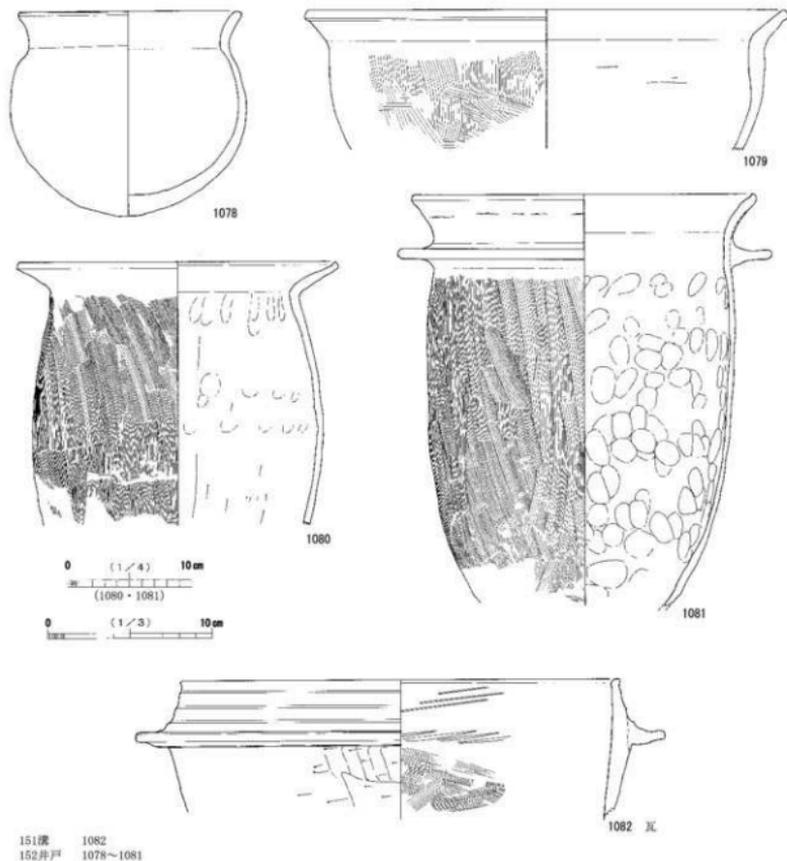


図31 第1調査区第4面 151溝、152井戸出土遺物

151溝：調査区南東部（17I-9g・9h地区）で検出した。南端は調査区外にさらに延びる。全長9.8m以上、幅1.3～2.5m、深さ0.25～0.3mを測る（図29）。埋土は1層（黒褐色2.5Y3/1シルト～礫まじり極細粒砂層）と2層（黒褐色2.5Y3/1シルト～極細粒砂層）に大別され、1層下部と2層上部には炭の混入が認められる。下層から15世紀代の瓦質羽釜（1082）が出土しており、本来は上位の面に帰属する遺構である。

土師器、硬質の韓式系土器、瓦、瓦質羽釜（図31-1082）、中世陶磁器が出土した。

152井戸：調査区南半の中央部（17I-10f地区）で検出した。8世紀の土師器羽釜（図31-1081）の上に堯（図31-1080）を重ねて井筒とした井戸である（図29・写真図版5）。井筒内からは8世紀中頃の堯（図31-1078）が完形で出土した。

表4 第1調査区 第4面検出遺構

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	短・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期 (出土遺物より判断)	備考
115	土坑	171 - 10c ~ d	1.6	1.4 + α	46	図28	平安末~中世 (12~13世紀前半)	
116	柱穴	171 - 10d	0.4	0.4	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂	古代~中世か	
117	土坑	171 - 10d	1.15	0.6	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂	古代~中世か	
119	土坑	171 - 10c	1.35	0.5 + α	28	図28	奈良 (8世紀前半)	
120	土坑	171 - 10c	2.5	2	44	図29	古墳時代中~後期	
121	柱穴	171 - 9d	0.5	0.45	7	暗褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂		
122	土坑	171 - 9d	0.8	0.9	11	暗褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂		
123	溝	171 - 9e	1.8 + α	0.7	13	黄褐色 2.5Y5/3 細粒砂	中世後半か	
124	溝	171 - 9e	4.4 + α	0.5 ~ 0.75	10	黄褐色 2.5Y5/3 細粒砂	中世後半か	
127	土坑	171 - 9e	2 + α	0.4 ~ 1	2	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
128	土坑	171 - 10e	1	0.8 + α	6 ~ 12	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
129	柱穴	171 - 10e	0.6	0.5	35	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
130	柱穴	171 - 10e	0.55	0.35	19	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
131	柱穴	171 - 10e	0.35	0.3	23	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
132	柱穴	171 - 10e	0.35	0.35	27	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
133	柱穴	171 - 10e	0.3	0.3	26	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
134	土坑	181 - 1d	1.15	0.65	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
135	溝	181 - 1d	5.8 + α	1.1 ~ 1.5	7 ~ 10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト		
136	土坑	181 - 1d 181 - 1e	3.7	1.7 + α	12	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
137	柱穴	181 - 1e	0.8	0.7	27	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
138	柱穴	181 - 1e	0.6	0.55	17	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
139	柱穴	181 - 1e	0.55	0.5	16	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
140	柱穴	181 - 1e	1	0.7	23	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
141	柱穴	181 - 1e	0.5	0.5	20	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
142	柱穴	181 - 1e	0.75	0.7	19	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
143	柱穴	181 - 1e	0.3	0.3	2	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
144	柱穴	181 - 1e	0.55	0.55	21	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
145	落ち込み	181 - 1e	10.8 + α	2.2 + α	30	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
146	溝	181 - 1e	2.2 + α	0.4	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
147	柱穴	181 - 2f	0.35	0.3	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
148	柱穴	181 - 2f	0.2	0.2	9	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
149	柱穴	181 - 2f	0.3	0.25	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
150	土坑	181 - 2f	2.2	1 + α	15	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト		
151	溝	171 - 9g 171 - 9h	9.8 + α	1.3 ~ 2.5	25 ~ 30	図29	中世後半 (15世紀)	
152	井戸	171 - 10f	0.5	-	-	図29	奈良 (8世紀中~後半)	
153	柱穴	181 - 1e	0.6	0.5	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト		
154	柱穴	171 - 9f	0.4	0.4	12	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト		

第2節 包含層出土遺物〔図32～39・写真図版10～14・32～34〕

第1調査区では調査区東半部で中世後半の遺物包含層（図5のA・B層）及び西半部で4枚の遺物包含層を確認した。東半部で確認した遺物包含層には古墳時代～中世前半代の資料も含まれるものの、出土遺物の主体は中世後半（14世紀以降）の資料である。また、当層では土器・陶磁器以外に多量の瓦を包含することを特徴とする。西半部で確認した1～3層は平安～鎌倉時代の遺物を、4層は古式土師器を主体として包含している。

攪乱・中世後半遺物包含層（A層）出土遺物〔図32・写真図版10・32～34〕

1083は滑石製有孔円盤である。表裏面ともに成形時の粗い研磨痕を残す。穿孔は両面穿孔で、片面側では穿孔に失敗しており、結果として2孔穿つ形になっている。

1084は白磁四耳壺である。耳は剥落している。1085は青磁碗である。高台は削出し高台で、畳付けは使用の為か平滑になっている。焼成が不良であったのか釉はあまりガラス化していない。1086は瓦質火鉢である。平面方形もしくは長方形を呈する浅鉢Ⅵタイプ。口縁部は内側に水平に折れ曲がる。口縁部外面には2条の貼付け凸帯が廻り、凸帯間には竹管文と円形浮文を施す。15世紀代の所産であろう。1163（写真図版のみ）は瓦質羽釜である。内傾する口縁部をもち、口縁端面は水平に作られる。口縁部外面には凹線状になった段を3段もつ。15世紀中頃～16世紀初頭の所産。1164（写真図版のみ）は瓦質播鉢。口縁端面に強いヨコナデを施し、端部を尖り気味に摘み上げている。内面には8条単位の掘り目が確認できる。14世紀後半～15世紀初頭に位置付けられる。1087は土師器杯である。広く平らな底部から斜め上方に短い口縁部が外反しながら立ち上がる。口縁端面内面に1条の沈線が廻り、放射状暗文を施す。8世紀中頃の所産であろう。1088は須恵器杯身。口縁部は丸くおさめ、受け部は水平にのびる。全体的に厚手の感がある。中村編年Ⅰ-2（田辺編年TK216）。1089は須恵器有蓋高杯。2方向に方形の透かし孔をもつ。口縁部は短く内傾し、受け部は水平にのびる。中村編年Ⅱ-3（田辺編年TK10～MT85）。1090は土師器複合口縁壺である。口縁部は丸くおさめる。口縁外面はヨコナデを施し、数条の浅い凹線状を呈する。頸部外面にはヘラケズリを施す。阿波系の土師器と推定される。1091は埴輪と考えられる。土師質。断面「凹」字状を呈し、幅広（幅3.2cm）のタガが1条廻る。

1092・1093は砥石である。1092は2面の、1093は3面の使用が確認できる。ともに肌理は細かく、仕上げ砥であろう。変質石英安山岩製と思われる。

1094は土鉢である。丸棒に粘土を「の」の字状に巻き付けて作成されたもの。重量は107.5gを測る。1095は複弁蓮華文軒丸瓦。外縁は傾斜縁で線鋸歯文を廻らせる。圏線が1条廻り、その内側には珠文が廻る。1096は韓式系土器体部片。外面には格子目タタキを施す。

中世後半遺物包含層（B層）出土遺物〔図34～36・写真図版10～11・32・34〕

1097～1108はB層最上面でまとまって出土したものである。1097～1102は図33の北側の一群、1103～1108は南側の一群から出土したものである。先述したようにB層は中世後半遺物を主体として包含しているため、これらの遺物は後世になんらかの理由によって一括投棄されたものと考えられる。

1097は須恵器杯蓋である。中村編年Ⅱ-4～5（田辺編年TK43）。1098～1099は土師器甕。1098は広口の口縁部と長胴気味の体部からなる。口縁部は僅かに上方に摘み上げる。頸部外面には沈線が1

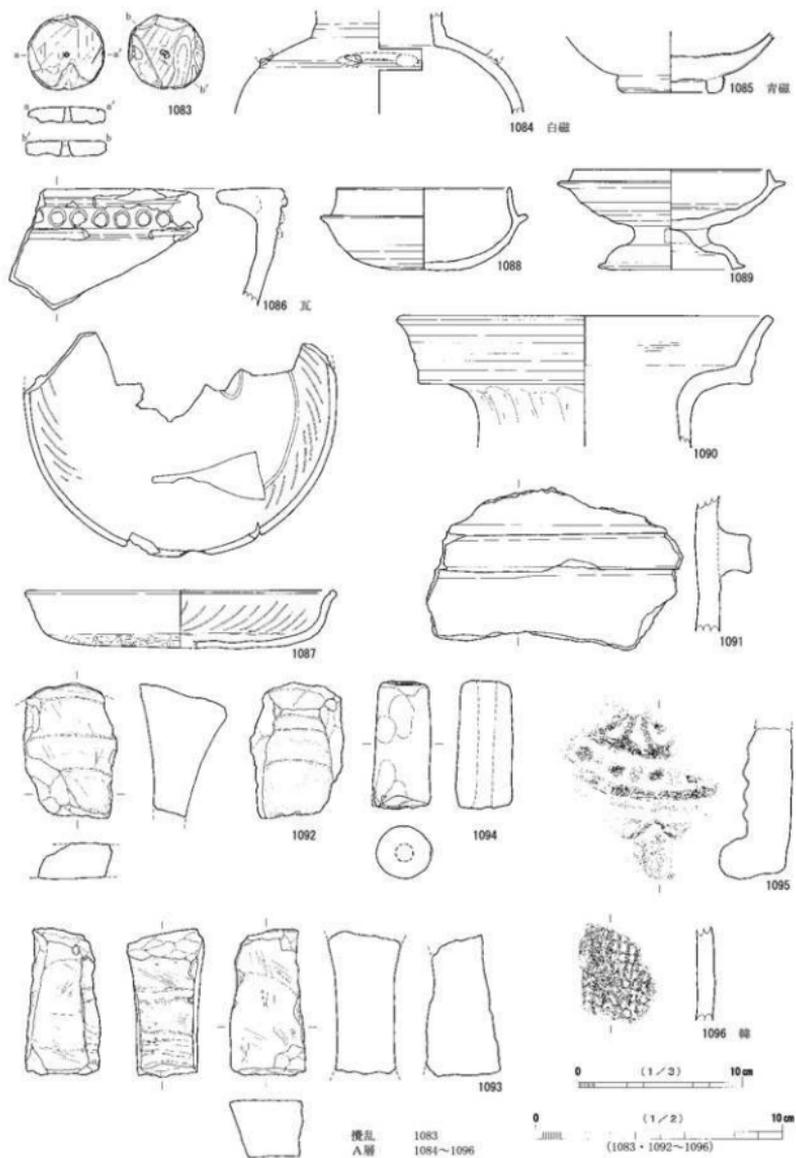


図32 第1調査区 攪乱・東半部中世後半遺物包含層(A層)出土遺物

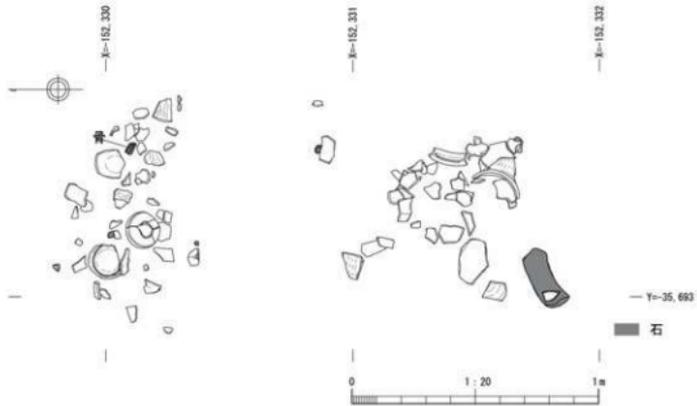


図33 第1調査区 B層上面遺物出土状況

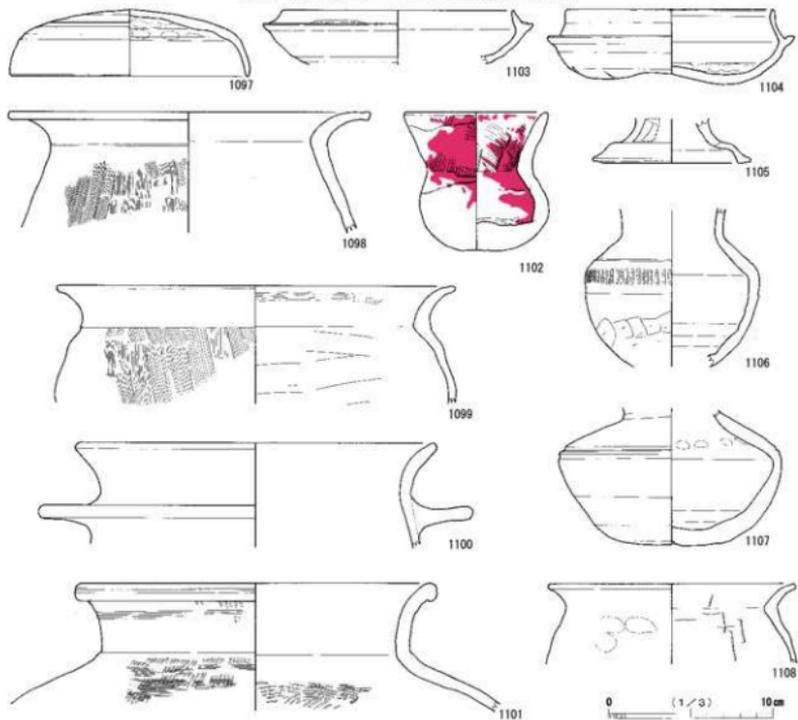


図34 第1調査区 東半部中世後半遺物包含層 (B層) 出土遺物 (1)

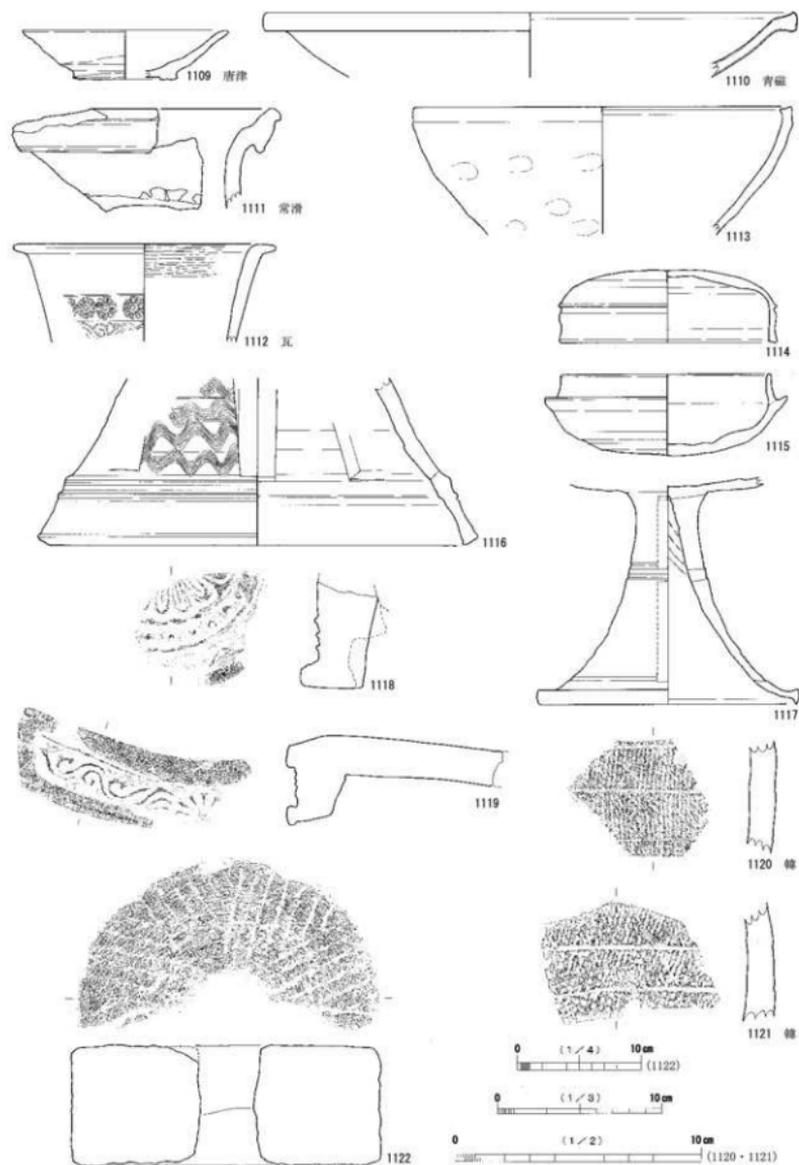


図35 第1調査区 東半部中世後半遺物包含層（B層）出土遺物（2）

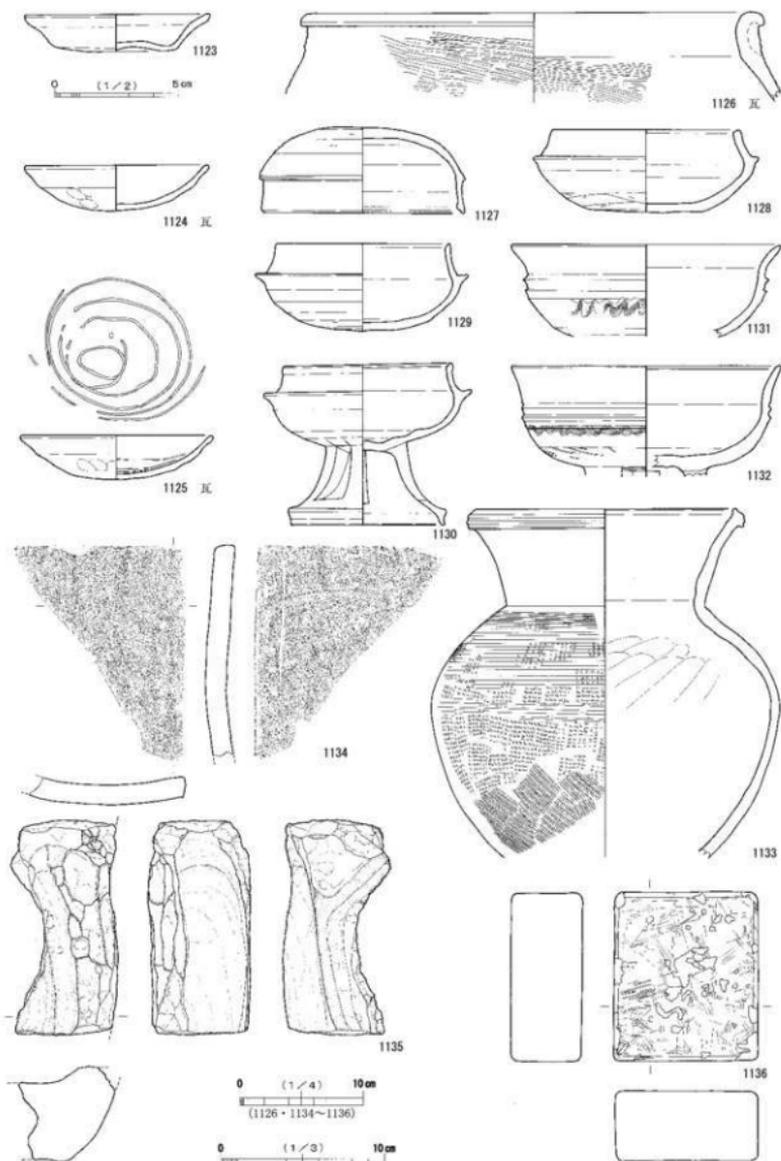


図36 第1調査区 東半部中世後半遺物包含層(B層)出土遺物(3)

条廻る。1099は広口の口縁部と球形気味の体部からなる。口縁端部は丸くおさめ。ともに7世紀後半の所産であろう。1100は土師器羽釜である。口縁部が「く」の字に外反し、水平な鈎が廻る。生駒西麓産の胎土をもつ。8世紀後半の所産であろう。1101は須恵器甕である。頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。口縁端部は丸くおさめ、外面下端を肥厚させる。端面には1条の沈線が廻る。1102は土師器壺である。口縁部は直線的に外方に開く。体部は扁球形を呈する。口縁内面及び体部内外面に赤色顔料を塗布する。

1103・1104は須恵器杯身である。1103は受け部に重ね焼きの痕跡をもち、外面には自然釉の付着がみられる。中村編年Ⅱ-3～4（田辺編年MT85～TK43）。1104は口縁端部を丸くおさめ、受け部は外上方へのびる。底面は焼け歪が大きい。底部外面には焼成前の「女」字状のヘラ記号が、内面には同心円

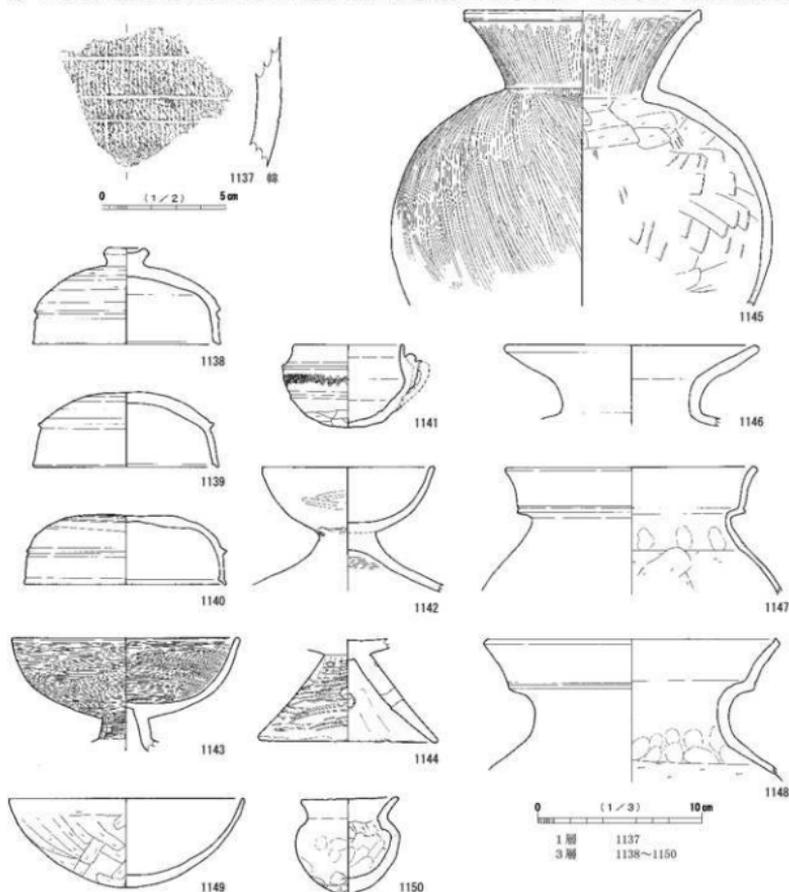


図37 第1調査区 1・3層出土遺物

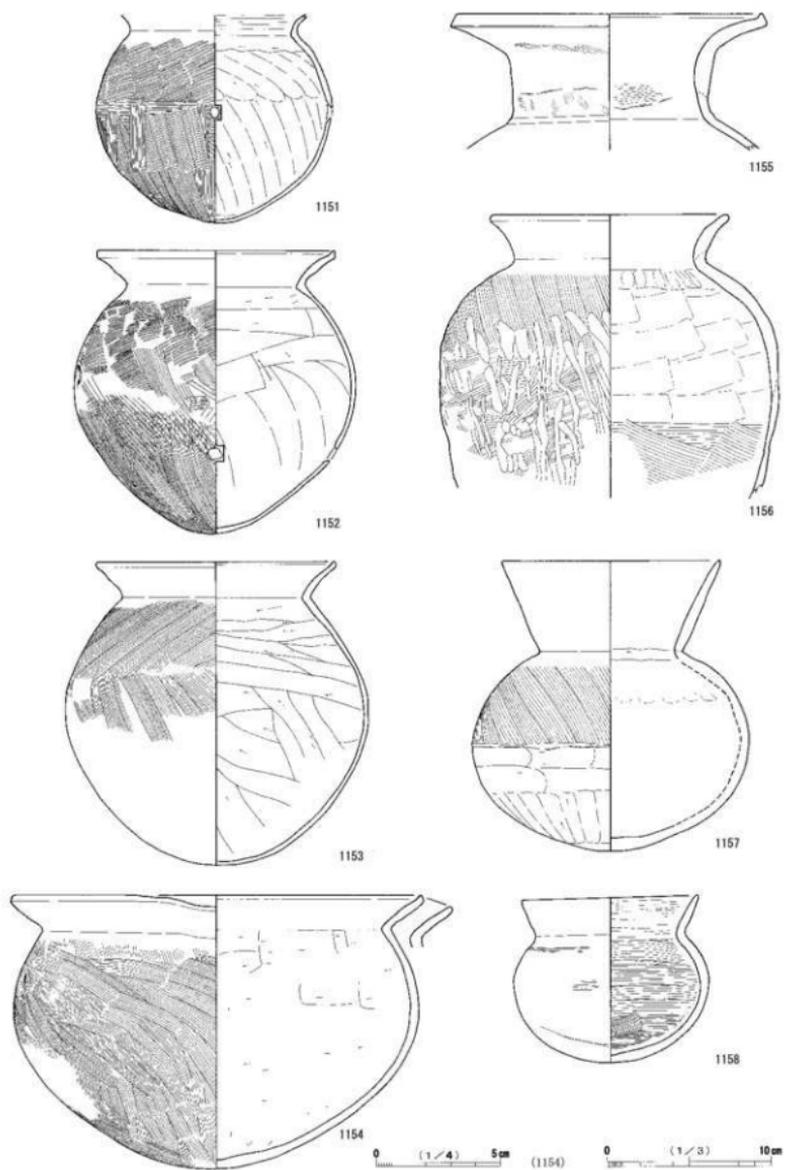


図38 第1調査区 4層出土遺物(1)

の当て具痕が残る。
 中村編年I-2(田辺編年TK216)。1105は須恵器高杯脚部。方形の透かし孔をもつ。1106・1107は須恵器長頸壺である。1106は肩部に1条の沈線が廻り、沈線下にはクシ状工具による押しき文が施される。1107は肩部に1条の沈線が廻る。体部は1106とは異なり扁平である。1108は土師器甕。広口の口縁部をもつ。体部内面には幅1.8cm前後の板状工具痕を残す。

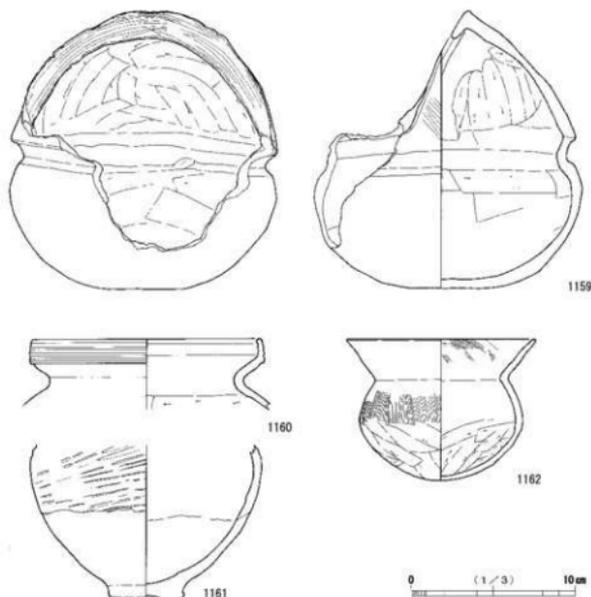


図39 第1調査区 4層出土遺物(2)

1109 ~ 1122・
 1165はB層中位から出土した遺物である。1109は唐津焼皿である。高台は削出し高台。体部外面下半部~高台及び高台内は露胎となっている。軸は焼成不良の為かガラス化していない。16世紀末~17世紀初頭の所産であろう。1110は青磁鉢である。折れ縁口縁をもつ。軸は比較的厚く塗布されている。1111は常滑焼甕。口縁部は上下に拡張され、断面「N」の字状を呈する。13世紀第3四半期~14世紀の所産。1112は瓦質火鉢。深鉢であろう。口縁部は外側に向けて水平に屈曲する。体部外面には沈線が2条廻り、沈線間には菊花状スタンプ文を、沈線下にはヘラ描き唐草文を施す。1165(写真図版のみ)は瓦器碗である。器高は低く、無高台となっている。森島編年IV-4・14世紀前半に位置付けられる。1113は土師器鉢である。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は端部付近でやや内傾する。8世紀後半の所産と思われる。1114は須恵器杯蓋である。口縁端部は内傾する平坦面をもつ。比較的厚手の作りとなっている。中村編年I-2(田辺編年TK216)。1115は須恵器杯身。口縁部は内傾しながら立ち上がり、端部は丸くおさめる。受け部は外上方へのびる。中村編年I-2(田辺編年TK216)。1116は須恵器器台脚部。6方向に長方形透かしをもつ。透かし孔間には4条以上の波状文が廻る。脚端部は内傾する平坦面をもつ。中村編年I-3(田辺編年TK208)相当に比定される。1117は須恵器高杯脚部である。2段2方向の長方形透かしをもつ。透かし孔間には2条の沈線が廻る。

1118は複弁蓮華文軒丸瓦である。外縁は傾斜縁で線鋸歯文を廻らせる。圏線が1条廻り、その内側には珠文が廻る。間弁の界線に関しては明瞭に存在する部分とその存在を確認出来ない部位が認められる。色調・焼成は灰色で須恵質に焼き上がっている。青谷式軒丸瓦に比定される。1119は半載花菱唐草文軒

平瓦である。凹面には部分的に布目が残るが基本的には丁寧に布目をナデ消す。15世紀代の所産か。

1120・1121は韓式系土器体部片。1120は縄唐文タタキを施し、3条以上の螺旋状沈線が廻る。1121は体部上部に縄唐文タタキを、下部には格子目タタキを施し、2条以上の沈線が廻る。

1122は石臼の下臼。目分画は8分画である。臼中央にある芯棒孔は両面穿孔である。

1123～1136はB層下位から出土した遺物である。1123は土師器皿。底部～口縁部にかけて大きく外反し、口縁端部はやや肥厚させる。底部は上げ底となっており、へそ皿状を呈する。京都編年Ⅷ期(中)～(新)・15世紀前半代の所産であろう。1124・1125は瓦器碗である。ともに器高は低く、無高台となっている。1125は内面の口縁部～見込みにかけて渦巻き状暗文を施す。いずれも森島編年Ⅳ-4・14世紀前半に位置付けられる。1126は瓦質甕である。外面には大振りなタタキを施す。口縁部は肥厚し、僅かに外方へ屈曲する。15世紀中頃の所産。1127は須恵器杯蓋。口縁端部は内傾する凹面をもつ。天井部は丸みを帯びる。1128・1129は須恵器杯身である。1128は口縁端部を丸くおさめ、水平にのびる受け部を有する。体部は比較的厚手の作りとなっている。1129の口縁端部は内傾する平坦面をもつ。受け部はほぼ水平にのび、体部～底部にかけて丸みを帯びる。1130～1132は須恵器高杯。1130は有蓋高杯である。口縁端部は内傾する凹面をもち、受け部は僅かに外上方にのびる。杯部は丸みを帯びる。脚部には3方向に長方形透かしを有する。1131・1132は無蓋高杯の杯部である。1131は外反する口縁部をもち、杯部は丸みを帯びる。内面には自然釉が付着する。1132は緩やかに外反する口縁部をもち、杯部は1131に比べ丸みが弱い。ともに杯外面には2条の凸帯が廻り、凸帯下には波状文が施される。1127～1132は中村編年Ⅰ-2～3(田辺編年TK216～208)に比定される。1133は須恵器広口の甕である。口縁端部は上下に拡張し、端面には沈線が廻る。

1134は平瓦である。凹面側の布目は丁寧にナデ消している。室町時代の所産であろうか。

1135は石臼と推定される石製品。欠損部分が多く全体形は不明。表裏面及び側面が加工されている。表面は凹面をもち、凹面の周囲に敲打による土手状の高まりを作出する。凹面は使用の為、平滑になる。裏面には敲打によって作り出された高台状の脚が認められる。側面は椀状のカーブを描くように滑らかに成形されている。1136は平面長方形を呈する不明石製品。全面丁寧に研磨され、全ての縁辺は角を落とし丸く仕上げている。磚のような性格をもつものであろうか。

1～4層出土遺物 [図37～39・写真図版12～14・32]

1166～1173(写真図版のみ)・1137は1層出土遺物である。

1166～1168は瓦器皿。内面見込みには1166に格子状暗文を、1167・1168に平行線状暗文を施す。1169・1170は瓦器碗である。1169は口縁部を丸くおさめる。内面に比較的密なヘラミガキを施すものの、外面のヘラミガキは辛うじて分割性を意識しているが疎らになり、ユビオサエが顕著である。高台は断面三角形の貼付け高台。森島編年Ⅱ-2・12世紀前半～後半に位置付けられる。1170は口縁部をやや尖り気味に仕上げる。内面は疎らなヘラミガキを、見込みに格子状暗文を施す。体部外面はユビオサエが顕著にみられるが、ヘラミガキは部分的なものに終わっている。森島編年Ⅱ-3～Ⅲ-1・12世紀後半か。1171・1172は土師器皿である。1171は口縁部2段凹みナデが施される。底部外面には粘土紐巻き上げ痕が残る。京都編年Ⅴ期(中)～(新)・12世紀前半の所産。1172は口縁部2段凹みナデが施され、口縁端部は断面方形に仕上げられる。京都編年Ⅴ期(古)・11世紀末～12世紀初頭の所産。1173は東播系須恵器片口鉢。口縁端部は拡張されない。外面には自然釉が付着する。森田編年Ⅱ期第1～

2段階・12世紀前半～中頃。1137は韓式系土器体部片。縄蓆文タタキを施し、3条以上の螺旋状沈線が廻る。

1174～1176（写真図版のみ）は2層出土遺物である。

1174は瓦器皿。内面には密なヘラミガキを施す。内面見込みには平行線状暗文を施す。1175・1176は瓦器碗である。1175は口縁部をやや尖り気味に仕上げる。内面は疎らなヘラミガキを施す。体部外面はユビオサエが顕著にみられ、疎らなヘラミガキを施す。森島編年Ⅱ-3～Ⅲ-1・12世紀後半の所産か。1176は口縁部を丸くおさめる。口縁部内面には横位のヘラミガキを、体部内面には放射状のヘラミガキを施す。また、見込みには格子状暗文がみられる。外面のヘラミガキは辛うじて分割性を意識しているものの疎らになり、ユビオサエが顕著である。高台は断面台形の貼付け高台。森島編年Ⅱ-1～2・12世紀前半～中頃に位置付けられる。

1177～1179（写真図版のみ）・1138～1150は3層出土遺物である。

1177～1179は土師器皿。1177・1178は口縁端部を積み上げるように強くナデで断面三角形を呈する。ともに京都編年Ⅵ期（古）～（中）・12世紀末～13世紀初頭の所産であろう。1179は口縁端部が短く外反する。底部外面にはユビオサエが顕著である。全体的に厚手の作りである。京都編年Ⅳ期（古）・11世紀前半の所産であろう。

1138～1140は須恵器杯蓋である。1138は有蓋高杯蓋。口縁端部は内傾する平坦面をもつ。天井部は丸みを帯びる。天井部内面には炭化物が、外面には自然釉が付着する。1139の口縁部は内彎気味で、端部は内傾する凹面をもつ。口縁部は高く、天井部は扁平気味である。1140は口縁部が内彎気味で、端部は内傾する凹面をもつ。天井部は1139に比して扁平である。いずれも中村編年Ⅰ-3（田辺編年TK208）。1141は須恵器把手付小型碗である。体部外面中位には細かな波状文が廻る。把手は欠損するが、把手上面には球状飾りを付加している。体部下半部は手持ちヘラケズリを施す。1142・1143は土師器高杯である。1142は口縁端部を丸くおさめる。内面にヘラミガキは行われない。1143は口縁端部を丸くおさめる。内外面ともに細かなヘラミガキを施す。脚部は幅広のヘラミガキを施し、面取り状になる。ともに原田編年庄内Ⅲ期に位置付けられる。1144は土師器小型器台脚部。3方向に円孔透かしをもつ。原田編年庄内Ⅲ～布留Ⅰ期の所産。1145は土師器広口壺である。外面には細かなヘラミガキを密に施す。口縁内面は横位のハケメのちヘラミガキを、体部上半部はヘラケズリを、下半部は板ナデを施している。生駒西麓産の胎土である。原田編年布留Ⅰ期の所産であろうか。1146は土師器広口壺。全体的に磨減が著しく詳細は不明である。1147・1148は土師器複合口縁壺である。1147は山陰系の複合口縁壺と思われる。白色系の胎土である。口縁部は緩やかに外反し、端部は僅かに外方へ肥厚させる。口縁外面最下段に沈線が1条廻る。1148の口縁部は大きく外へ開き、端部は積み上げるように強くナデで断面三角形を呈する。口縁外面最下段に浅い段をもつ。1149は土師器鉢である。丸底の底部をもち、底部から口縁にかけて緩やかに内彎しながら立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。体部外面は不定方向のヘラケズリを行う。原田編年布留Ⅰ期の所産と思われる。1150は手づくね土器壺である。短く外半する口縁部をもつ。

1151～1161は4層出土遺物である。

1151～1153・1156は土師器甕。1151・1152は庄内式甕。両者は頸部内面の屈曲がシャープで、体部最大径は体部中位に位置する。1152の口縁端部はほぼ垂直に積み上げている。両者とも尖底気味の底部を有する。1151は体部中位に1箇所、1152は体部中位と体部下半部に各1箇所ずつの穿孔をもつ。と

もに生駒西麓産の胎土である。原田編年庄内Ⅲ期に位置付けられる。1153は頸部内面の屈曲がややあまく、体部最大径は体部中位に位置する。口縁端部は摘み上げ、断面三角形を呈する。体部外面はハケメを施す。底部は丸底である。原田編年布留Ⅰ期の所産であろう。1156は短く外反する口縁部を有し、長胴気味の体部をもつ。体部外面はハケメを、内面上半部には板ナデを、下半部にはハケメを施す。原田編年布留Ⅳ～Ⅴ期頃に位置付けられるものか。1154は土師器大型鉢である。口縁部は外方に屈曲し、片口部を有する。口縁端部はやや内傾気味に摘み上げられる。扁球形の体部で、底部は丸底である。生駒西麓産の胎土である。1155は土師器広口壺。頸部は斜上方に直線的に立ち上がり、口縁部は大きく外反する。口縁端部内面は内傾気味に摘み上げられる。肩部は器壁が薄く作られるのに対し、頸部以上は厚く作られる。全体的に磨減が著しく詳細は不明である。讃岐系の広口壺であろう。原田編年布留Ⅰ期頃の所産であろうか。1157は土師器直口壺である。扁球形の体部をもち、直線的に上方に立ち上がる口縁部を有する。口縁端部は尖り気味におさめる。底部は丸底ながらもやや突出する形態である。原田編年庄内Ⅲ～布留Ⅰ期の所産であろう。1158は土師器小型丸底壺。扁球形の体部をもち、斜上方に立ち上がる短い口縁部を有する。原田編年布留Ⅰ期頃か。1159は手培形土器である。覆い部外面及び体部内面に黒斑がある。

1160～1162は下層確認トレンチから出土しており4層でも下位に位置する層準からの出土である。1160は才の元～亀川上層式に対応する吉備系甕である。口縁部はやや内傾し、端部内面を僅かに肥厚させる。口縁外面には櫛描による沈線文が4条廻る。1161は土師器甕。体部中程に最大径をもつ。体部下半部に明瞭な接合痕がみられる。底部は上げ底になった突出気味の平底である。原田編年庄内Ⅰ期に位置付けられる。1162は土師器小型丸底壺である。扁球形の体部を有する。口縁部は斜上方に大きく開き、体部最大径よりも大きな口径となる。口縁端部は丸くおさめる。原田編年布留Ⅰ期の所産である。

第3節 小結

各遺構面を通じて、西半部と東半部では遺構や遺物に違いが認められた。各遺構面も西側が高く東側が低い傾向にあって、西半部では柱穴、土抗、井戸などの集落関連の遺構が多く検出された。安定した地形環境にあり、居住域として利用された事を示している。

一方東半部では柱穴、土坑などの遺構はほとんど無く、中世後半の溝と包含層（A・B層）が検出されたA・B層は多くの瓦を包含する事、古墳時代の須恵器（TK208～MT15）や土師器を包含し、この中には完形・半完形のもの比較的多い事などを特徴とし、西半部の中世前半の包含層とは著しく異なった様相を示している。しかし、図5⑧層とA層、同⑩層とB層は、土色や土質で特に際立った違いが認められなかったため、調査では同一の層として掘削した。A層とB層は、各面で検出された遺構の時期との整合性から、整地にもなって形成された蓋然性が最も高いと考えられる。調査区内でも比較的低い部分にこれらの層が形成されている事から、耕地化にもなう平坦化が図られたとする事に大きな矛盾はないと考えられる。

この東半部の溝群も、ほぼ並行して掘削されている事、溝内の埋土がほぼ共通している事などから、同じ計画の下に掘削された事は推定されるが、今回の調査では性格などについて積極的な根拠は得られていない。

第3章 第2調査区の調査成果

第1節 遺構と遺物

小阪合遺跡第2調査区は、Y=-35,711mラインで分割した調査区の西側に当たる(図40)。T.P.+8.2~7.0mの範囲で6面の遺構面を検出した。当調査区は、第1調査区から延長するX=-152,360~-152,370mの範囲の大規模な攪乱部は存在するものの、埋設管による筋状の攪乱は僅少であったため、良好な状態で遺構を検出することができた。

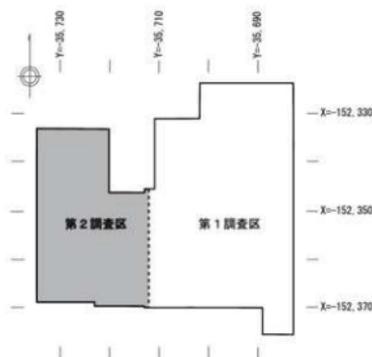


図40 第2調査区位置図(S=1/1,000)

第1面 [図6・写真図版15]

遺構面の高さはT.P.+8.1~8.2m。調査区中央(18I-3f地区)で柱穴を3基検出した。いずれの遺構も遺物が少なく、明確な時期決定は困難であるが、第1面の基盤となる1層(図5①層)の時期から、これらの遺構は12~13世紀以降に形成されたと考えられる。

当遺構面は、第1調査区第1面に対応する。

155 柱穴：平面は円形を呈しており、径約0.4m、深さ約0.25mを測る。埋土はオリーブ褐色2.5Y4/4礫まじり細粒砂。判別可能な土器は出土していない。

156 柱穴：平面は円形を呈しており、径約0.4m、深さ約0.3mを測る。埋土はオリーブ褐色2.5Y4/4礫まじり細粒砂。古墳時代~古代の須恵器破片が出土しているが、当遺構は1層を掘削して形成されていることから中世以後に機能したと考えられる。

157 柱穴：平面は円形を呈しており、径約0.45m、深さ約0.25mを測る。埋土はオリーブ褐色2.5Y4/3礫まじり細粒砂。13世紀頃の土師器皿の小片が出土している。

第2面 [図41・写真図版16]

遺構面の高さはT.P.+7.9~8.0m。調査区北半部中央(18I-3d・3e地区)と東半部(18I-2e・2f地区、18I-3e・3f地区の一部)が若干高くなっており、著しく土壌化していた。その周辺の低い部分では、ラミナがみられる褐色系の極細粒砂~粗粒砂で構成される砂層(図5⑤層)が堆積しており、その上部は土壌化していた(図5④層)。また、この砂層は第1調査区第2面の31流路の埋土と酷似している。溝・柱穴からは土器破片が数点出土しているが、時期を特定できるものは限られていた。いずれもオリーブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂を埋土とする。ここでは主要な遺構のみ詳述する。その他の遺構については表5に掲載した。

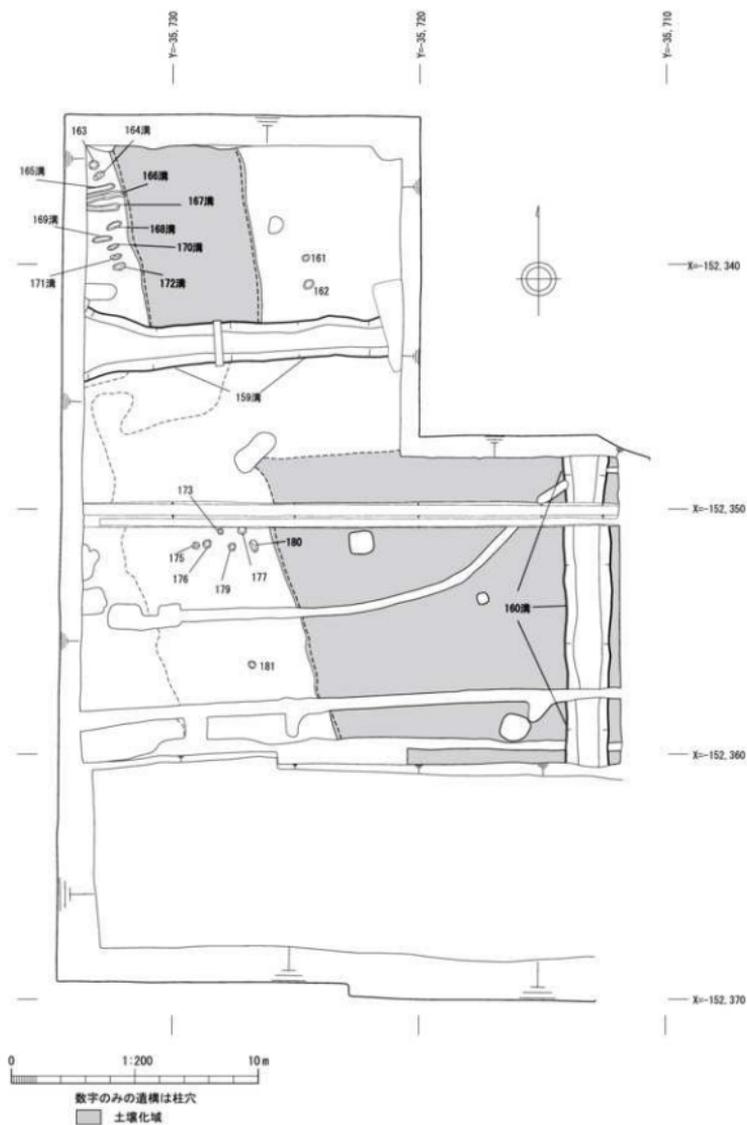


図41 第2調査区第2面

表5 第2調査区 第2面検出遺構

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	幅・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期 (出土遺物より判断)	備考
158	溝	*	*	*	*	1トレンチ 3:1 溝の残きか		
159	溝	18I-3e 18I-4e	12 + a	1.2 ~ 3	46	オリーブ褐色 2.5Y4/4 礫まじり細粒砂	古代末~中世	
160	溝	18I-2e ~ g	12.5 + a	1.8	32	オリーブ褐色 2.5Y4/4 礫まじり細粒砂		
161	柱穴	18I-3d	0.3	0.3	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
162	柱穴	18I-3e	0.5	0.45	7	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
163	柱穴	18I-4d	0.4	0.4	16	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
164	溝	18I-4d	0.5	0.3	19	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
165	溝	18I-4d	1.2 + a	0.3	4	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
166	溝	18I-4d	1.5 + a	0.3	7	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
167	溝	18I-4d	1.3 + a	0.3	4	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
168	溝	18I-4d	0.7	0.35	12	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
169	溝	18I-4d	0.8	0.3	6	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
170	溝	18I-4d	0.5	0.25	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
171	溝	18I-4d	0.5	0.25	11	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
172	溝	18I-4d 18I-4e	0.55	0.3	1	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
173	柱穴	18I-3f	0.25	0.25	7	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
175	柱穴	18I-3f	0.3	0.3	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
176	柱穴	18I-3f	0.35	0.3	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
177	柱穴	18I-3f	0.4	0.35	8	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
179	柱穴	18I-3f	0.3	0.2	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
180	柱穴	18I-3f	0.55	0.3	17	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		
181	柱穴	18I-3f	0.3	0.3	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルトまじり細粒砂		

159 溝：調査区北半部（18I-3e・4e 地区）で検出した、東西方向に延びる溝である（写真図版 17）。オリーブ褐色 2.5Y4/4 礫まじり細粒砂を埋土とする。検出長約 12 m、幅 1.2 ~ 3.0 m、深さ約 0.46 m を測る。12 世紀後半の瓦器碗などが出土している。

160 溝：調査区東端（18I-2e ~ 2g 地区）で検出した南北方向に延びる溝である（写真図版 17）。159 溝とはほぼ直角の位置関係にあり、埋土は 159 溝と同一である。検出長約 12.5 m、幅約 1.8 m、深さ約 0.32 m を測る。12 ~ 13 世紀の瓦器碗や土師器皿が出土している。

第3面 [図 42・写真図版 18]

第2面の基盤層である褐色系の砂層（図5④~⑨層）と、北半中央部（18I-3d・3e 地区）と東半部（18I-2e・2f 地区、18I-3e・3f 地区の一部）の土壌化域上面（図5③層）を除去し第3面とした。遺構面の高さは T.P.+7.7 ~ 7.9 m。第2面同様、北半部中央と東半部が若干高くなっており、著しく土壌化していた。遺構はこの区域に集中し、北半部では多くの鋤溝を、東半部では井戸・柱穴などの居住関連遺構をそれぞれ検出した。柱穴はある程度まとまって分布するが、建物などの復元には至らなかった。これらの柱穴からは土器細片が数点出土しているが、時期を特定できるものは限られていた。ただ、埋土の違いによって、オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂を埋土とするもの、黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルトを埋土とするもの、暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂を埋土とするものの3種類が認められた。

ここでは主要な遺構のみ詳述する。その他の遺構については表6~9に掲載した。



図42 第2調査区第3面

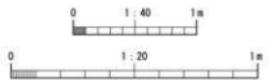
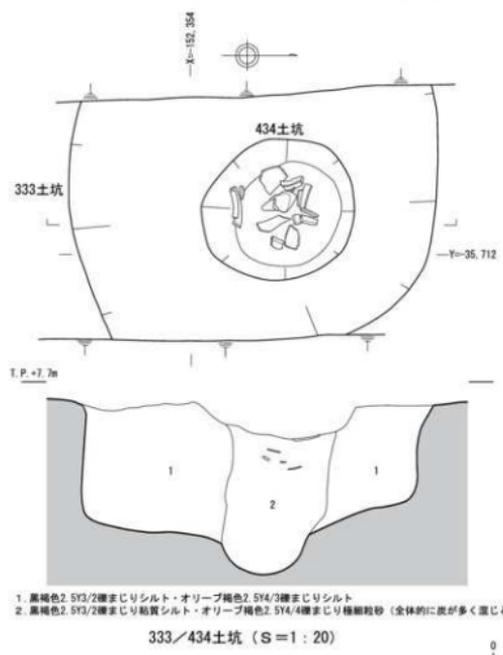
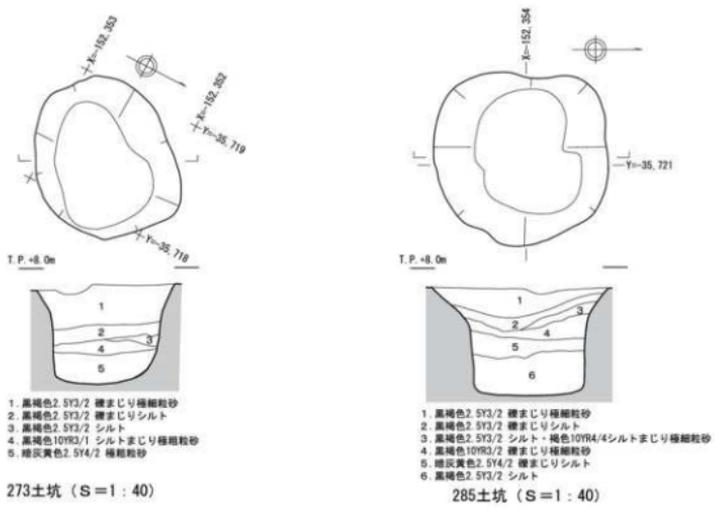


図43 第2調査区第3面 273・285・333/434土坑平・断面図

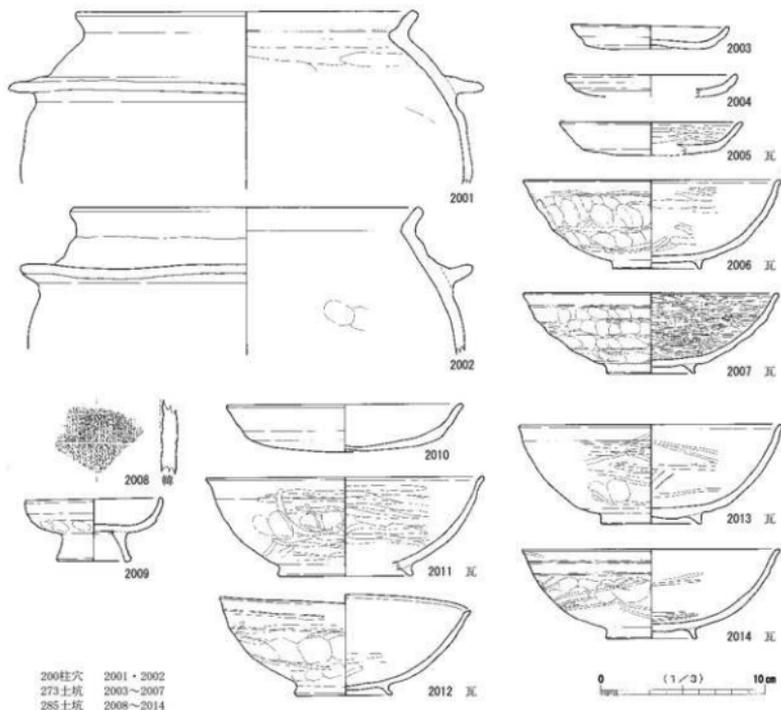


図44 第2調査区第3面 200柱穴、273・285土坑出土遺物

200 柱穴：調査区北部（18I-3d・4d地区）で検出した。平面は不整形形を呈し、径0.7～0.8m、深さ約0.6m。オリーブ褐色2.5Y4/3礫まじり細粒砂を埋土とする。12世紀後半の土師器羽釜が出土している（図44-2001・2002）。2001・2002ともに胴下から体部下半部には炭化物が、胴上から口縁には煤が付着するなど、使用痕跡がみられる。

239 土坑：調査区中央東端（18I-2f地区）で検出した。遺構の東側は160溝によって切られる。暗オリーブ褐色2.5Y3/3礫まじり細粒砂を埋土とし、東西1m以上、南北1m、深さ0.24mを測る。中世前半の土師器などが出土しているが、細片のため図化できなかった。

273 土坑：調査区中央（18I-2f地区）で検出した。平面は不整形形を呈し、径1.1～1.3m、深さ約0.8m。掘削は6層（図5㊸層）にまで達しており、井戸の可能性も考えられる（図43・写真図版18）。出土遺物は、すべて12世紀前半の所産（図44-2003～2007）。2003・2004は土師器皿である。口縁部には2段凹みのナデが施されており、京都編年V期（古）に比定できる。2005は瓦器皿。2006・2007は瓦器碗で、内面見込みには平行線状の暗文が施されている。

285 土坑：273土坑の南西に位置する（18I-3f地区）。平面は不整形形を呈し、径1.4～1.5m、深さ約0.9m。273土坑と同様、井戸の可能性が考えられる（図43・写真図版18）。出土遺物は、11世紀末～

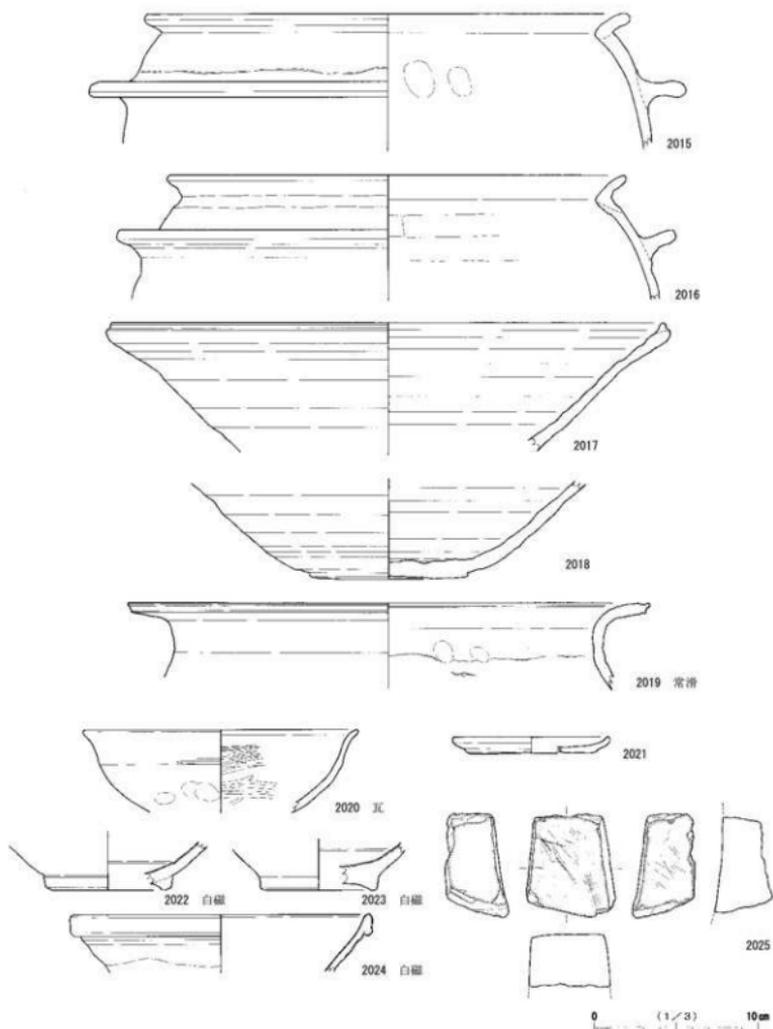


図45 第2調査区第3面 333/434土坑出土遺物

12世紀前半所産のものが主体となる(図44-2008~2014)。2008は韓式系土器の破片である。内面は剥落が著しく調整は不明瞭であった。外面には縄文タタキ、螺旋状沈線が施されている。当遺構の機能時に混入したものと考えられる。2009は土師器台付皿、2010は皿である。2011~2014は瓦器椀。296土坑:285土坑の南西約2mの地点に位置する(18I-3f地区)。黒褐色2.5Y3/2礫まじりシルトを埋

表6 第2調査区 第3面検出遺構(1)

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	短・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より判断)	備考
182	柱穴	18I-3d	0.45	0.35	9	暗灰黄色 25Y4/2 細～中粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
183	溝	18I-3d 18I-3e	6+a	0.4~0.55	6	暗灰黄色 25Y4/2 細～中粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
184	土坑	18I-3d	0.8	0.7	3	暗灰黄色 25Y4/2 細～中粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
185	溝	18I-3d 18I-3e	1.6+a	0.2	4	にぶい黄褐色 10YR4/3 細～中粒砂		
186	土坑	18I-3e	1.15	1	4	にぶい黄褐色 10YR4/3 細～中粒砂		
187	溝	18I-3d 18I-4d	5+a	0.3~0.5	6	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂	古墳～古代	
188	溝	18I-3d 18I-4d	5+a	0.3~0.45	7	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂	古墳～古代	
189	溝	18I-3d 18I-4d	4.8+a	0.3~0.5	4	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂		
190	溝	18I-3d 18I-4d	4.9+a	0.35~0.5	7	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂	古墳～古代	
191	溝	18I-3d 18I-4d	4.7+a	0.3~0.65	13	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂	古墳～古代	
192	溝	18I-3d 18I-3e	3.4+a	0.25~0.5	7	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂	古墳～古代	
193	溝	18I-3e	2.9+a	0.35~0.5	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂	古代か	
194	溝	18I-3e 18I-4e	4.6+a	0.45	9	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 雑まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)	平安	黒色土器A類
195	溝	18I-3e	3.2+a	0.3	7	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 雑まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)	古代～中世	
196	柱穴	18I-3d	0.4+a	0.5	12	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 雑まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
197	柱穴	18I-3d	0.4	0.35	24	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 雑まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
198	柱穴	18I-3d	0.45	0.35	19	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 雑まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
199	柱穴	18I-3d	0.2	0.2	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂		
200	柱穴	18I-3d 18I-4d	0.8	0.7	60	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂	中世(12世紀後半)	
201	柱穴	18I-4d	0.2	0.2	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		12世紀中頃の土器
202	柱穴	18I-4d	0.25	0.2	3	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
203	柱穴	18I-4d	0.25	0.25	9	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
204	柱穴	18I-4d	0.45	0.35	24	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 雑まじり細粒砂		
205	柱穴	18I-3d	0.3	0.25	16	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
206	柱穴	18I-3d	0.3	0.2	16	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)	平安か	黒色土器A類
207	柱穴	18I-3d	0.3	0.3	18	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
208	柱穴	18I-3d	0.35	0.3	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
209	柱穴	18I-3d	0.2	0.2	9	暗灰黄色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
210	柱穴	18I-3d	0.2	0.15	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
211	柱穴	18I-3d	0.4	0.3	25	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
212	柱穴	18I-3d 18I-4d	0.4	0.35	23	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂		
213	柱穴	18I-4d	0.5	0.4	20	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂		
214	柱穴	18I-3e	0.25	0.2	11	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂		
215	柱穴	18I-3e	0.3	0.3	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
216	柱穴	18I-3・4e	0.3	0.2	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		

表7 第2調査区 第3面検出遺構(2)

遺構 番号	遺構 番号	地区	長軸 (m)	短・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より判断)	備考
217	柱穴	181-3d	0.35	0.25	10	暗灰青色 25Y4/2 礫まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
222	土坑	181-3e	1.2 + e	1.5	3	暗褐色 10Y3/3 礫まじり細粒砂		
223	溝	181-2e 181-3e	10.3	0.5 - 0.9	18	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂		
224	土坑	181-2e	0.7	0.55	37	上部: 黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂 下部: 黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
225	柱穴	181-2e	0.3	0.3	7	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
226	柱穴	181-2e	0.5	0.3 + e	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
227	柱穴	181-2e	0.5	0.3 + e	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
228	柱穴	181-3e	0.4	0.3	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
229	柱穴	181-2・3e	0.4	0.4	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
230	柱穴	181-3e	0.45	0.35	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
231	土坑	181-3e	1	0.5 + e	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
232	柱穴	181-3e	0.2	0.2	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
233	土坑	181-3e	0.65	0.4 + e	7	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
234	柱穴	181-3e	0.3	0.4	13	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
235	柱穴	181-3e	0.45	0.35	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
236	柱穴	181-3e	0.3	0.3	9	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
237	柱穴	181-3e	1.3 + e	0.6 + e	4	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
238	溝	181-2f	2.3 + e	0.5	5	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂		
239	土坑	181-2f	1	1 + e	24	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
240	土坑	181-2f	0.7	0.6	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂	古代か	
241	柱穴	181-2f	0.35	0.25	0	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
242	柱穴	181-2f	0.45	0.4	16	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
243	柱穴	181-2f	0.4	0.4	16	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
244	柱穴	181-2f	0.4	0.25	20	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
245	柱穴	181-2f	0.4	0.3	18	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
246	柱穴	181-2f	0.5	0.3	16	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
247	柱穴	181-2f	0.35	0.35	28	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
248	柱穴	181-2f	0.2	0.2	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
249	柱穴	181-2f	0.4	0.35	9	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
250	柱穴	181-2f	0.35	0.3	19	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
251	柱穴	181-2f	0.4	0.35	17	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
252	柱穴	181-2f	0.25	0.25	9	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
253	柱穴	181-2f	0.4	0.3	18	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
254	柱穴	181-2f	0.4	0.4	20	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
255	土坑	181-2f	0.5	0.45	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
256	柱穴	181-2f	0.35	0.3	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
257	土坑	181-2f	0.8	0.25 - 0.4	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
258	柱穴	181-2f	0.3	0.3	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
259	柱穴	181-2f	0.25	0.2	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
260	柱穴	181-2f	0.4	0.3	12	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
261	柱穴	181-2f	0.2	0.2	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
262	柱穴	181-2f	0.25	0.25	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
263	柱穴	181-2f	0.3	0.3	11	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
264	柱穴	181-2f	0.25	0.25	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
265	柱穴	181-2f	0.2	0.2	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
266	柱穴	181-2f	0.35	0.3	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
267	柱穴	181-2f	0.4	0.3	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂～シルト		
268	柱穴	181-2f	0.6	0.55	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂～シルト		
269	柱穴	181-2f	0.25	0.25	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂～シルト		
270	柱穴	181-2f	0.35	0.3	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂～シルト		

表8 第2調査区 第3面検出遺構(3)

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	短・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より判断)	備考
271	柱穴	181-2㉔	0.45	0.4	14	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
272	柱穴	181-2㉔	0.45	0.4	18	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
273	土坑	181-2㉔	1.3	1.1	80	図43	平安末(12世紀前半)	
274	柱穴	181-2㉔	0.3	0.1 + e	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
275	柱穴	181-2㉔	0.3	0.25	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
276	柱穴	181-2㉔	0.25	0.25	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
277	柱穴	181-2㉔	0.3	0.3	12	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
278	土坑	181-2㉔ 181-3㉔	0.95	0.35	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
279	柱穴	181-3㉔	0.2	0.2	17	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
280	柱穴	181-2㉔	0.3	0.2	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
281	柱穴	181-2・3㉔	0.25	0.25	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
282	柱穴	18-3㉔	0.2	0.15	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
283	柱穴	181-2㉔	0.3	0.25	12	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
284	柱穴	181-2・3㉔	0.6	0.5	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
285	土坑	181-3㉔	1.5	1.4	90	図43	平安末 (11世紀末～12世紀前半)	
286	土坑	181-3㉔	0.75	0.6	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
287	柱穴	181-2㉔	0.35	0.3	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
288	土坑	181-2㉔	0.6	0.6	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
289	柱穴	181-2㉔	0.5	0.4	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
290	柱穴	181-2㉔	0.15	0.15	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
291	柱穴	181-2㉔	0.2	0.2	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
292	柱穴	181-3㉔	0.3	0.25	15	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
293	柱穴	181-3㉔	0.3	0.2	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
294	柱穴	181-3㉔	0.2	0.2	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
295	柱穴	181-3㉔	0.3	0.3	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
296	土坑	181-3㉔	1.5	1.1	20	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト	平安末～中世 (12～13世紀前半)	
297	柱穴	181-3㉔	0.6	0.45	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
298	土坑	181-3㉔	0.6	0.6	9	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
299	柱穴	181-3㉔	0.3	0.3	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
300	柱穴	181-3㉔	0.4	0.35	21	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
301	柱穴	181-3㉔	0.25	0.25	12	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
302	土坑	181-3㉔	1.4 + e	1.2	14	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
303	柱穴	181-3㉔	0.3	0.3	11	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
304	柱穴	181-3㉔	0.3	0.25	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
305	柱穴	181-3㉔	0.3	0.25	9	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
306	土坑	181-3㉔	0.7	0.8 + e	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
307	柱穴	181-3㉔	0.4	0.35	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
308	柱穴	181-2㉔ 181-3㉔	0.35	0.35	17	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
309	柱穴	181-2㉔	0.2	0.2	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
310	土坑	181-2㉔	0.85	0.5	17	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂	平安末～中世 (12～13世紀前半)	
311	柱穴	181-2㉔	0.35	0.35	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
312	溝	181-2・3㉔	2.5	0.2	16	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂		
313	土坑	181-3e	0.8	0.5	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり無細粒砂	222 土坑内	
314	柱穴	181-3e	0.5	0.4	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり無細粒砂	222 土坑内	
315	柱穴	181-2㉔	0.35	0.35	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂～シルト		
316	柱穴	181-2㉔	0.25	0.25	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂～シルト		
317	柱穴	181-2㉔	0.25	0.25	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂～シルト		
318	柱穴	181-3㉔	0.4	0.3	5	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり無細粒砂～シルト		
319	柱穴	181-3㉔	0.35	0.3	2	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		

表9 第2調査区 第3面検出遺構(4)

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	短・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より判断)	備考
320	柱穴	18I-2f	0.4	0.3	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
321	柱穴	18I-2f	0.35	0.3	22	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
322	柱穴	18I-2f	0.25	0.25	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
323	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
324	柱穴	18I-2f	0.35	0.2	2	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト	平安末～中世 (12～13世紀前半)	
325	柱穴	18I-2f	0.2	0.2	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
326	柱穴	18I-2f	0.25	0.2	2	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
327	柱穴	18I-2f	0.2	0.2	2	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
328	柱穴	18I-2f	0.3	0.1 + a	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
329	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
330	柱穴	18I-2f・g	0.35	0.35	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
332	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	24	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
333	土坑	18I-2f	1.1	0.75 + a	70	図 43	平安末～中世 (12～13世紀前半)	
434	土坑	18I-2f	0.6	0.6	70	図 43	平安末～中世 (11世紀末～12世紀後半)	333土坑内
334	柱穴	18I-2f	0.5	0.45	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		

土とし、長軸 1.5 m、短軸 1 m、深さ 0.2 m を測る。12～13 世紀前半の所産とみられる土師器などが出土しているが、細片のため図化できなかった。

333/434 土坑：調査区中央東端（18I-2f 地区）で検出した。平面は不整形を呈し、径 1.1 m、深さ約 0.7 m。中央部はさらに径 0.6 m、深さ約 0.7 m の筒状に掘り込まれる。この部分を 434 土坑とした。434 土坑内は褐色（2.5Y3/2～2.5Y4/4）のシルト～極細粒砂が筒状に堆積し、全体的に炭が多くまじる。本来は、曲物などを井筒とする井戸であった可能性が高い（図 43・写真図版 18）。

出土遺物は 12～13 世紀に属する（図 45-2015～2025）。2015・2016 は土師器羽釜である。2015 は 12 世紀後半～13 世紀前半のものともみられ、口縁内部や跗下に煤が付着している。2016 は 12 世紀後半の所産で、2015 同様、口縁周辺や跗下に煤が付着している。2017・2018 は東播磨系の須恵器鉢で、12 世紀中頃～後半の所産とみられる。内面下半から見込みにかけて使用による磨減が認められる。2019 は常滑産の甕である。12 世紀前半の所産とみられる。口縁端部内面には凹線が廻り、口縁内面や外面頸部下半に自然軸が付着している。2020 は瓦器碗。2021 は土師器皿で、口縁部には 2 段凹みナデが廻り、京都編年 V 期（中）～（新）の幅内に位置する。2022～2024 は白磁碗である。2022・2023 の畳付けは使用によるためか、磨減し平滑になっている。2025 は細い溝状の使用痕跡を残す砥石で、3 面が使用されている。

第4面〔図 46・写真図版 19〕

古墳時代～古代の遺物を包含する 4 層（図 5 ⑫～⑭層）を基盤とする。遺構面は T.P.+7.5～7.6 m にあり、第 3 面同様、調査区東半部（18I-2e・2f 地区、18I-3e・3f 地区の一部）は高いが、第 2・3 面と比べると土壌化は顕著でなくなる。北半部中央（18I-3d・3e 地区）では周囲より若干低くなり、褐色（10YR4/4）の細粒砂が堆積する。調査区全域から柱穴・土坑などの居住関連遺構を検出した。柱穴はある程度まとまって分布するが、建物などの復元には至らなかった。これらの柱穴からは土器細片が数点出土しているが、時期を特定できるものは限られていた。ただ、埋土の違いによって暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂を埋土とするもの、オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂～シルトを埋土とするもの、黒

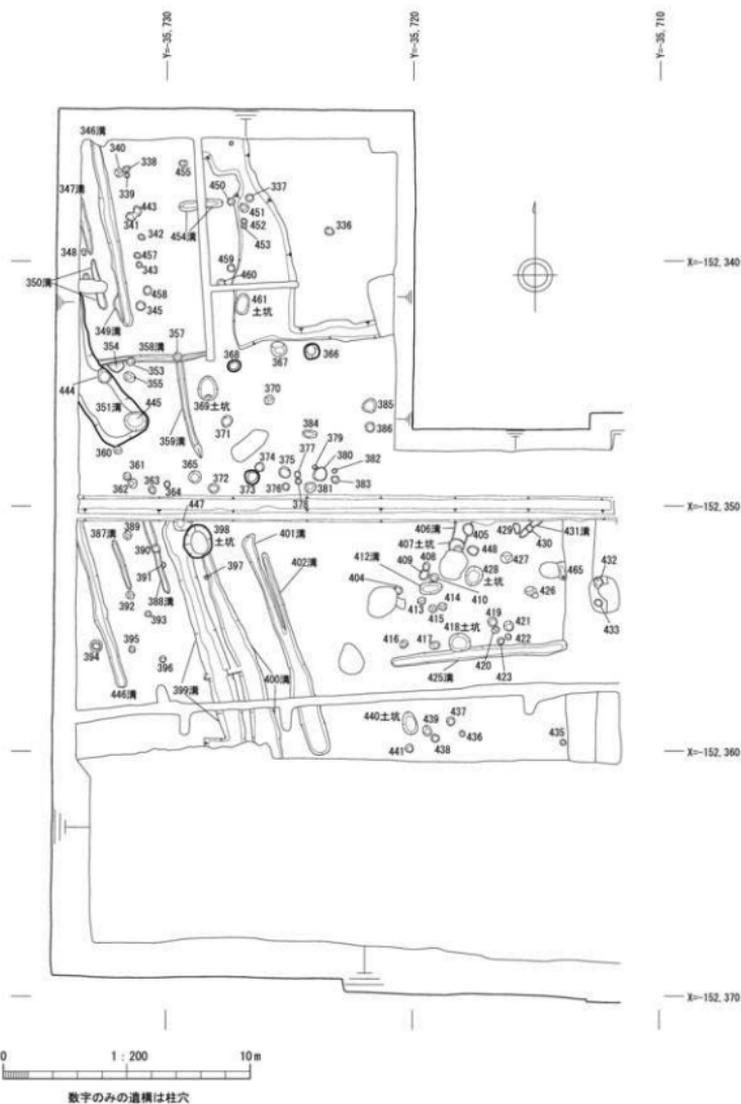
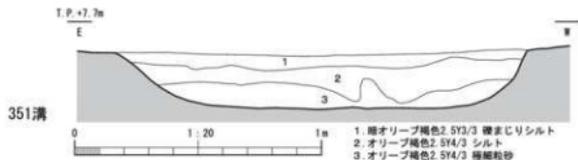
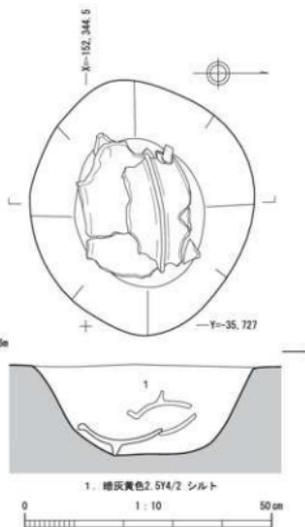


図46 第2調査区第4面



褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂～シルトを埋土とするもの、暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂を埋土とするものの4種類が認められた。また、当遺構面において中世前半頃に属する遺構を検出したが、これらの遺構は上位の遺構面に帰属するものである。その他の遺構については表 10～12 に掲載した。

351 溝：調査区中央西側（18I-4e 地区）で検出した。検出長 3.5 m、幅 2 m、深さ 0.22 m を測る（図 47）。土師器甕が出土しているが、風化・磨滅が著しく調整は不明瞭である。口縁部の形状から、平城宮Ⅲ～Ⅴの幅内で並行するものとみている。（図 48-2026・2027）。
 366 柱穴：調査区中央（18I-3e 地区）で検出した。隅丸方形を呈し、一辺 0.7 m、深さ 0.46 m を測る。暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂を埋土とする。柱痕跡は確認できなかった。12 世紀前半～中頃の瓦器椀が出土しており、内面見込みには平行線状の暗文が施されている。（図 48-2028）。



366柱穴

図47 第2調査区第4面 351溝断面図、366柱穴平・断面図

368 柱穴：366 柱穴のほぼ西約 3 m の地点（18I-3e 地区）で検出した。東西 0.5 m、南北 0.45 m、深さ 0.18 m を測る。埋土は暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト。遺構底部より 12 世紀後半の土師器羽釜が出土した（図 47-図 48-2029・2030）。

373 柱穴：368 柱穴の南約 5 m の地点（18I-3e 地区）に位置し、径約 0.6 m、深さ 0.2 m を測る。暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂を埋土とする。5～6 世紀の須恵器が出土した（図 48-2031～2035）。2031～2034 は杯身である。2031 は中村編年 I-1（TK73）、2032 は同編年 I-5（TK47）、2033・2034 は同編年 II-3（MT85）の所産とみられる。2035 は壺で、6 世紀代の所産と推測される。

398 土坑：調査区中央（18I-3f 地区）で検出した。不整形を呈し、東西 1.1 m、南北 1.35 m、深さ 0.5 m を測る。掘削は 6 層（図 5-29 層）にまで達しており、井戸の可能性も考えられる（図 49-写真図版 19）。

出土遺物は 12～13 世紀に属する（図 50-2036～2041）。2036・2038 は土師器皿、2037 は瓦器皿である。2036 は 12 世紀末～13 世紀初頭のものともみられる。体部外面に斜め方向の短い沈線が存在し、ユビオサエ時についた爪の痕跡と推測される。2039～2041 は瓦器椀。2039 は完存状態で出土した。内面見込みには格子状の暗文が施されており、12 世紀前半の所産とみられる。

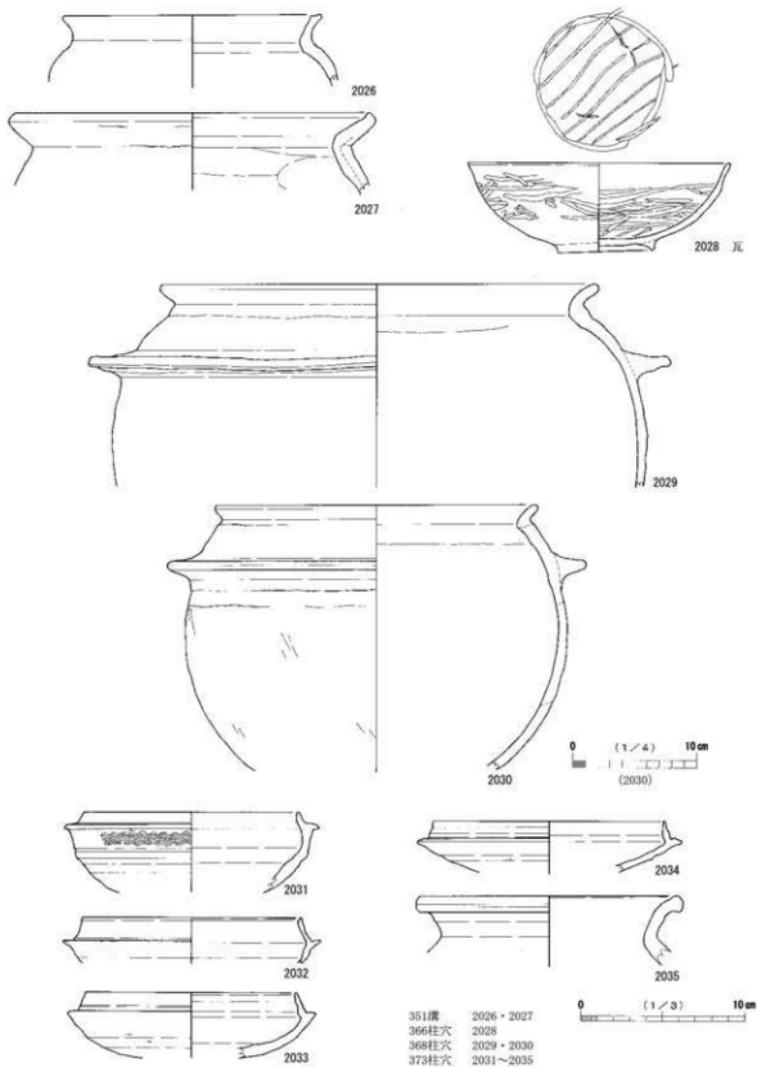


図48 第2調査区第4面 351溝、366・368・373柱穴出土遺物

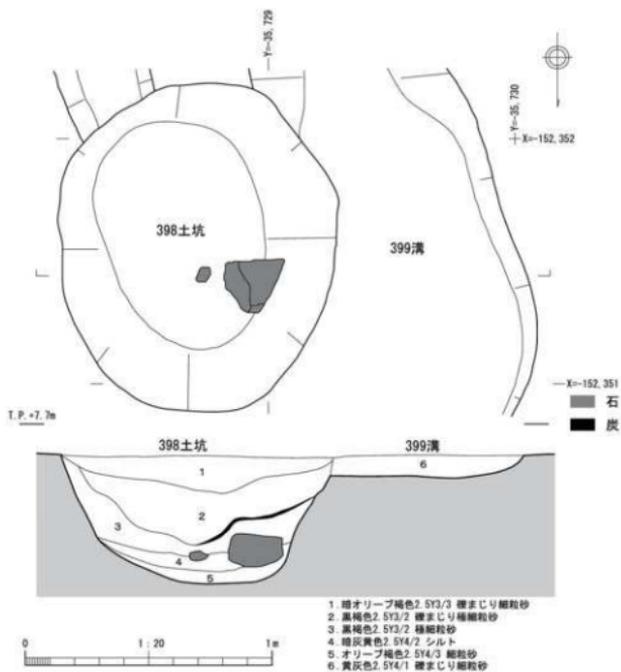


図49 第2調査区第4面 398土坑、399溝平・断面図

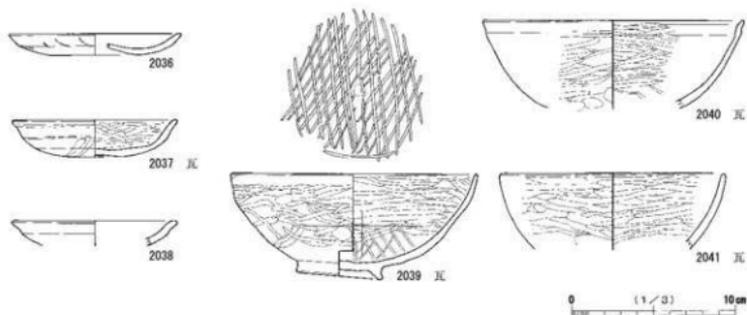


図50 第2調査区第4面 398土坑出土遺物

表 10 第2調査区 第4面検出遺構(1)

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	短・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より判断)	備考
326	柱穴	181-3d	0.4	0.3	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 雑まじり細粒砂		3面の遺構
327	柱穴	181-3d	0.4	0.35	15	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじりシルト		
328	柱穴	181-4d	0.3	0.3	6	黒褐色 2.5Y3/2 雑まじり細粒砂-シルト		
329	柱穴	181-4d	0.2	0.2	5	黒褐色 2.5Y3/2 雑まじり細粒砂-シルト		
340	柱穴	181-4d	0.4	0.35	13	黒褐色 2.5Y3/2 雑まじり細粒砂-シルト		
341	柱穴	181-4d	0.45	0.3	20	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 細粒砂-シルト		
342	柱穴	181-4d	0.4	0.25	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 細粒砂-シルト		
343	柱穴	181-4e	0.3	0.3	4	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 細粒砂-シルト		
345	柱穴	181-4e	0.45	0.4	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 細粒砂-シルト		
346	溝	181-4d 181-4e	7.5	0.4-0.6	10	上部 オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂-シルト 下部 暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂	古墳~古代	
347	溝	181-4d	1.8+a	0.3	6	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂-シルト		
348	柱穴	181-4d	0.3	0.3	14	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂-シルト		
349	溝	181-4e	1	0.3+a	3	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂-シルト	古代~中世	
350	溝	181-4e	2.1	0.4	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂-シルト		
351	溝	181-4e	3.5+a	2	22	同 47	奈良(8世紀後半)	
353	柱穴	181-4e	0.4	0.4	28	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂		
354	柱穴	181-4e	0.7	0.3+a	3	オリーブ褐色 2.5Y4/3 雑まじり細粒砂		
355	柱穴	181-4e	0.5	0.35	13	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
357	柱穴	181-3e	0.4	0.3	10	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
358	溝	181-3e 181-4e	4.3	0.3	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 雑まじり細粒砂		
359	溝	181-3e	4+a	0.3	8	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 雑まじり細粒砂		
360	柱穴	181-4e	0.4	0.3	20	暗灰青色 2.5Y4/2 細粒砂		
361	柱穴	181-4e	0.4	0.4	9	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
362	柱穴	181-4e	0.45	0.4	18	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
363	柱穴	181-4e	0.3	0.25	19	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
364	柱穴	181-3e 181-4e	0.3	0.3	13	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
365	柱穴	181-3e	0.5	0.5	24	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 雑まじり細粒砂		
366	柱穴	181-3e	0.7	0.7	46	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂	平安後半(12世紀前半~中頃)	
367	柱穴	181-3e	0.7	0.7	50	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
368	柱穴	181-3e	0.5	0.45	18	同 47	平安後半(12世紀後半)	
369	土坑	181-3e	1	0.4	4	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
370	柱穴	181-3e	0.45	0.35	10	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
371	柱穴	181-3e	0.5	0.4	6	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
372	柱穴	181-3e	0.4	0.3	10	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
373	柱穴	181-3e	0.6	0.6	20	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂	古墳中~後期(5~6世紀)	
374	柱穴	181-3e	0.45	0.4	14	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじりシルト		
375	柱穴	181-3e	0.55	0.45	20	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじりシルト		
376	柱穴	181-3e	0.3	0.3	18	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
377	柱穴	181-3e	0.3	0.3	5	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
378	柱穴	181-3e	0.25	0.25	5	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
379	柱穴	181-3e	0.2	0.2	7	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
380	柱穴	181-3e	0.6	0.5	9	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
381	柱穴	181-3e	0.5	0.4	12	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
382	柱穴	181-3e	0.3	0.3	11	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
383	柱穴	181-3e	0.35	0.35	5	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
384	柱穴	181-3e	0.6	0.3	13	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
385	柱穴	181-3e	0.6	0.55	10	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
386	柱穴	181-3e	0.45	0.45	7	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		
387	溝	181-4f	2	0.25	5	暗灰青色 2.5Y4/2 雑まじり細粒砂		

表 11 第2調査区 第4面検出遺構(2)

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	幅・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より判断)	備考
388	溝	181-4f	3+a	0.4	7	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじり細粒砂	古代～中世か	
389	柱穴	181-4f	0.3	0.3	20	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじり細粒砂		
390	柱穴	181-4f	0.4	0.35	8	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじり細粒砂	古代末～中世か	
391	柱穴	181-4f	0.25	0.2+a	3	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじり細粒砂		
392	柱穴	181-4f	0.35	0.3	4	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじりシルト		
393	柱穴	181-4f	0.3	0.3	12	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじり細粒砂		
394	柱穴	181-4f	0.35	0.35	16	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじり細粒砂		
395	柱穴	181-4f	0.3	0.3	12	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじり細粒砂		
396	柱穴	181-4f	0.3	0.25	13	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじり細粒砂		
397	柱穴	181-3f	0.2	0.2	8	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじり細粒砂		
398	土坑	181-3f	1.35	1.1	30	同 49	古代末～中世(12～13世紀)	
399	溝	181-3f	9.5+a	0.75～1	10	上部: 黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細砂 下部: 暗灰黄色 25Y4/2 礫まじりシルト		
400	溝	181-3f	8.5+a	0.45～1.15	10	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂		
401	溝	181-3f	9.3+a	0.35～1	9	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂		
402	溝	181-3f	8.5+a	0.3～1	10	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂		
405	柱穴	181-2f	0.5	0.45	6	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじりシルト		
406	溝	181-2f	0.75+a	0.6	5	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじりシルト		
407	土坑	181-2f	0.75	0.55	5	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじりシルト		
408	柱穴	181-2f	0.3	0.3	8	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
409	柱穴	181-2f	0.45	0.35	8	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
410	柱穴	181-2f	0.4	0.3	12	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
412	溝	181-2f	0.9	0.35	14	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじりシルト		
413	柱穴	181-2f	0.4	0.3	6	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
414	柱穴	181-2f	0.45	0.4	10	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
415	柱穴	181-2f	0.4	0.4	11	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
416	柱穴	181-3f	0.35	0.3	17	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
417	柱穴	181-2f	0.4	0.35	11	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
418	土坑	181-2f	0.9	0.7	17	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
419	柱穴	181-2f	0.45	0.4	27	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
420	柱穴	181-2f	0.3	0.3	20	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじりシルト		
421	柱穴	181-2f	0.45	0.3	15	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
422	柱穴	181-2f	0.25	0.25	16	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
423	柱穴	181-2f	0.3	0.3	6	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
425	溝	181-2-3f	7+a	0.5	8	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
426	柱穴	181-2f	0.45	0.35	10	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
427	柱穴	181-2f	0.5	0.45	23	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじりシルト		
428	土坑	181-2f	0.9	0.7	12	暗灰黄色 25Y4/2 礫まじりシルト		
429	柱穴	181-2f	0.5	0.3	4	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
430	柱穴	181-2f	0.3	0.3	3	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
431	溝	181-2f	1	0.3	3	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
432	柱穴	181-2f	0.4	0.4	14	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂	中世か	
433	柱穴	181-2f	0.35	0.3	3	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
435	柱穴	181-2f	0.3	0.3	10	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂	古代末～中世か	
436	柱穴	181-2f	0.25	0.2	23	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
437	柱穴	181-2f	0.35	0.35	28	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
438	柱穴	181-2f	0.3	0.3	1	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
439	柱穴	181-2f	0.5	0.35	14	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		
440	土坑	181-2f 181-3f	1	0.6	26	暗キリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり微細粒砂		

表 12 第2調査区 第4面検出遺構(3)

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	短・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より判断)	備考
441	柱穴	18I-3f	0.3	0.25	20	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
443	柱穴	18I-4d	0.4	0.3	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 細粒砂-シルト		
444	柱穴	18I-4e	0.6	0.5	32	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
445	柱穴	18I-4e	0.85	0.75	48	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
446	溝	18I-4f	6.5 + a	0.45	21	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古代末~中世か	
447	柱穴	18I-3f	0.7	0.4 + e	15	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂		
448	柱穴	18I-2f	0.5	0.4	4	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂	古代末~中世か	
450	柱穴	18I-3d	0.3	0.3	15	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
451	柱穴	18I-3d	0.4	0.35	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
452	柱穴	18I-3d	0.25	0.25	12	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
453	柱穴	18I-3d	0.25	0.2	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
454	溝	18I-3d	1.75	0.35	9	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
455	柱穴	18I-3d	0.4	0.3	16	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
457	柱穴	18I-4d	0.3	0.3	4	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルト		
458	柱穴	18I-4e	0.45	0.4	8	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルト		
459	柱穴	18I-3e	0.35	0.35	8	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
460	柱穴	18I-3e	0.4	0.2 + e	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
461	土坑	18I-3e	0.9	0.6	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
465	柱穴	18I-2f	0.8	0.3 + e	14	黒褐色 2.5Y3/2 シルト	古代末~中世か	

第5面〔図51・写真図版20〕

古墳時代の遺物を包含する5層(図5⑤⑥層)を基盤とする。遺構面の高さはT.P.+7.3~7.5m。調査区東半部(18I-2e・2f地区、18I-3e・3f地区の一部)では土壌化城が存続しており、この区域で検出した遺構は上位の遺構面で認識できなかったものである。北半中央(18I-3d・3e地区)は、周辺より0.1m~0.2m程度低くなり、やや粘性のあるシルトが堆積する。主な遺構は、Y=-35,720mラインより西側に集中し、土坑・溝などの居住関連遺構が多い。これらの大半は古墳時代に属する。柱穴は18I-3e地区にまとまって分布するが、掘立柱建物構成するような配置をとるものはなかった。これらの柱穴からは土器細片が数点出土しているが、時期を特定できるものは限られていた。ここでは主要な遺構のみ詳述する。その他の遺構については表13・14に掲載した。

462 柱穴：調査区北半部中央(18I-3e地区)で検出した。不整形円形を呈し、径約0.5m、深さ0.23mを測る。暗灰黄色 2.5Y4/2 シルトを埋土とする。原田編年庄内Ⅲ期所産の高杯が出土した(図52-2042)。杯部外面上半部はヘラミガキ、同下半部はヘラケズリ、杯部内面は横方向のち放射射のヘラミガキ、脚部外面はヘラミガキ、内面はナデが施されている。

463 柱穴：462柱穴の東側(18I-3e地区)で検出した。西端は462柱穴に切られているが平面は円形を呈すると推定される。南北0.7m、深さ0.21mを測り、暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルトを埋土とする。原田編年布留Ⅲ~Ⅳ期所産の高杯が出土したが、全体的に磨滅が著しく調整は不明瞭である(図52-2043)。

466 土坑：調査区北端(18I-3d地区)で検出した。東西1.8m、南北0.64m、深さ7cmを測る(図53)。北半分は掘溝に切られているため、平面形態は不明である。オリーブ褐色 2.5Y4/4 細粒砂を埋土とする。遺構上面より高杯が出土している(図54-2044・2045)。2044は原田編年布留Ⅲ~Ⅳ期の所産。体部外面にナデ、内面ハケメのちナデが認められるが、全体的に磨滅が著しく、調整は不明瞭である。2045は原田編年布留Ⅲ期の所産。体部外面上半部にはヨコナデ、同下半部にはハケメ、内面全体にはナデを施

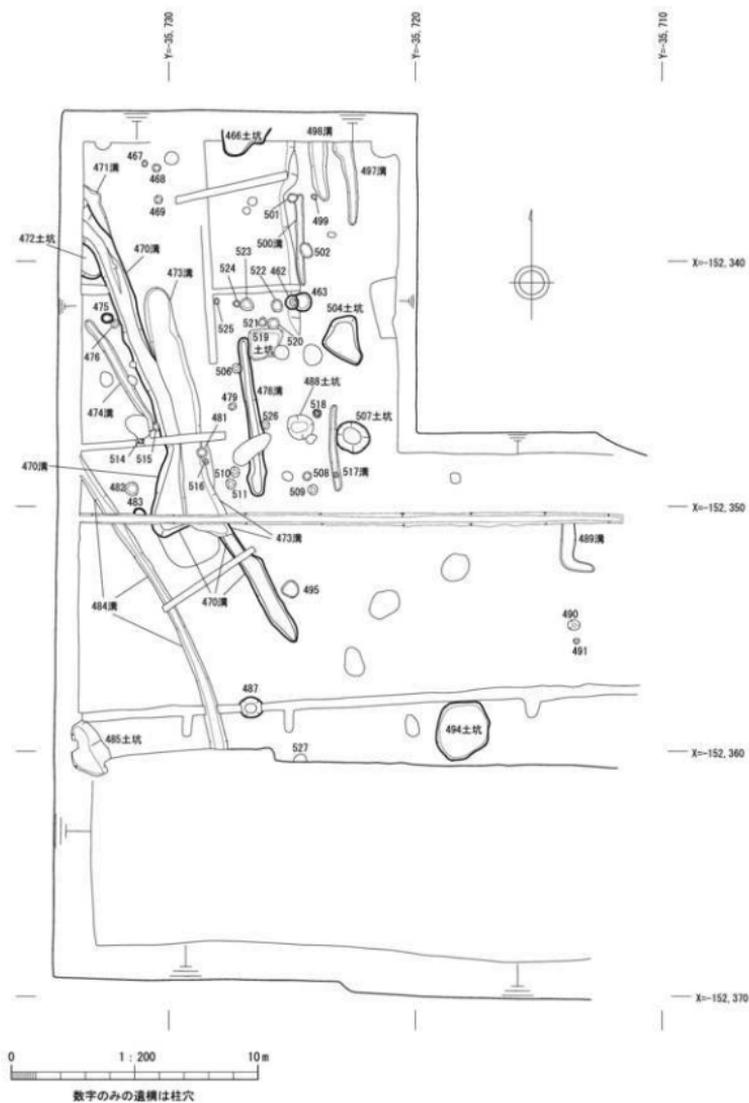


図51 第2調査区第5面

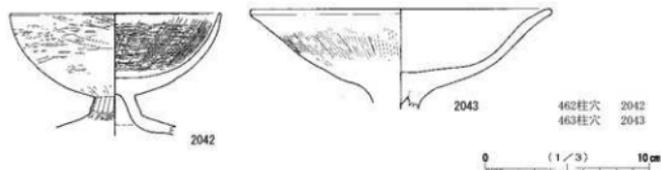


図52 第2調査区第5面 462・463柱穴出土遺物

し、また、脚筒部外面にはハケメ、内面にはヘラケズリ、脚裾部は内外面ともにヨコナダが施されている。

470 溝：調査区西部（18I-3e～f・4d～f地区）で検出した。検出長19m、幅0.6～1m、深さ0.23mを測る。東肩の一部などを473溝に切られる。オリーブ褐色2.5Y4/4シルトまじり細粒砂を埋土とする。出土遺物は古墳時代初頭および後期に属する（図57-2046～2051）。2046・2047ともに原田編年庄内Ⅱ期の所産で、胎土は生駒西麓産。2046は体部外面にタタキ、内部にハケメ・ヘラケズリが施されており、2047は口縁内面にハケメのちナダ、体部外面にタタキ、内面にヘラケズリが施されている。2048は原田編年庄内Ⅰ～Ⅱ期所産の小型鉢で、体部～底部にヘラケズリのちナダが施されており、口縁～頸部に黒色の付着物が認められる。2049は小型の器台で、原田編年庄内Ⅲ～布留Ⅰ期の幅内に位置する。杯部外面はヘラケズリのち横方向のヘラミガキ、同内面はヨコナダのち放射状のヘラミガキを加える。脚部外面は回転ヘラケズリのち回転ナダ、同内面上部にはシボリメが残る。2050は須恵器壺、2051は杯身である。双方ともに中村編年Ⅱ-2～3（TK10）、6世紀中頃の所産とみられる。

472 土坑：調査区西端（18I-4d・4e地区）で検出した。東側は470溝に切れ、西側は調査区外にあるため、平面形態は不明である。オリーブ褐色2.5Y4/4シルトまじり細粒砂を埋土とする。庄内式甕などの古式土師器（図57-2052～2055）が集積した状態で出土した（図55・写真図版21）。2052～2054は甕である。2052は原田編年庄内Ⅲ期に属し、生駒西麓産の胎土である。口縁内面にヨコナダのちハケメ。体部外面上半部にタタキ、同下半部にタタキのちハケメを加える。体部内面全体にはヘラケズリが施されている。2053は原田編年庄内Ⅰ～Ⅱ期の所産。口縁部にハケメ。体部外面上半部にタタキ、同下半部にタタキのちハケメを加える。体部内面上半部はハケメのちナダ、同下半部はナダを施す。2054は原田編年庄内Ⅲ期の所産。体部外面上半部にタタキのち粗いハケメを加える。同下半部はハケメ。体部内面全体はヘラケズリが施されており、底部付近に煤の付着が認められる。2055は原田編年庄内Ⅰ期の広口壺。頸部にヘラミガキ、体部内面の肩部にユビオサエが認められるが、全体的に磨減が著しく、調整は不明瞭である。

475 柱穴：472土坑の南側（18I-4e地区）で検出した。楕円形を呈し、長軸0.57m、短軸0.45m、深さ0.16mを測る。暗灰黄色2.5Y4/2極細粒砂を埋土とする。遺構底部より庄内式甕の破片や、完形の直口壺が出土した（図56・写真図版21）。直口壺は原田編年布留Ⅰ期の所産。磨減が著しく調整は不明瞭であるが、頸部外面に細かいミガキが確認できる。また、外面全体から口縁の内面に赤色顔料が塗布されている（図58-2056）。

478 溝：調査区中央をほぼ南北に伸びる（18I-3e地区）。幅0.5m、深さ0.15mを測る。暗灰黄色2.5Y4/2礫まじりシルトを埋土とする。6世紀代の須恵器が出土した（図58-2057～2059）。2057は杯蓋で、中村編年Ⅱ-4（TK43）に属するとみられ、胎土に含まれる黒色粒がナダ、ヘラケズリによって墨流し

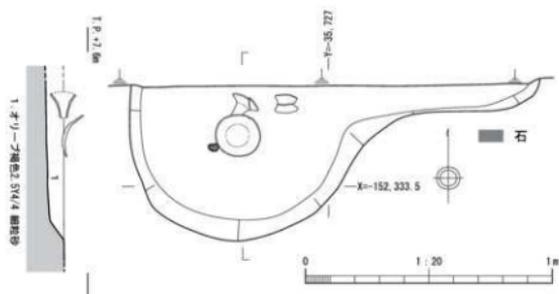


図53 第2調査区第5面 466土坑平・断面図

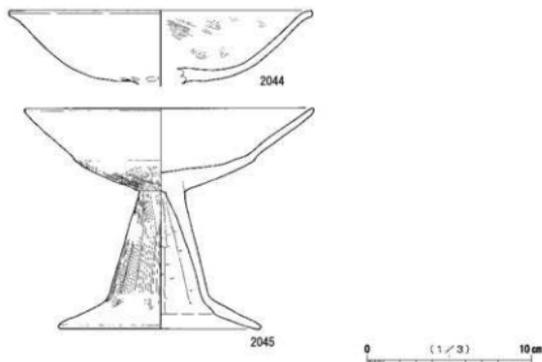


図54 第2調査区第5面 466土坑出土遺物

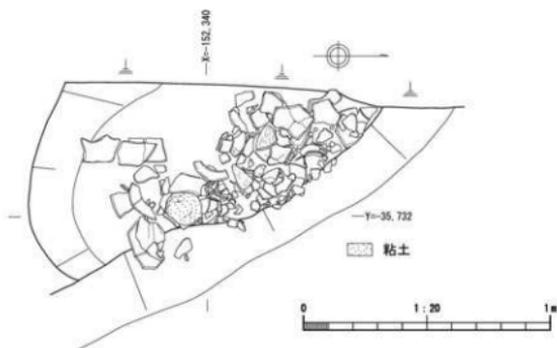
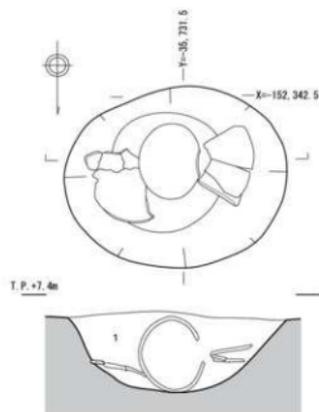
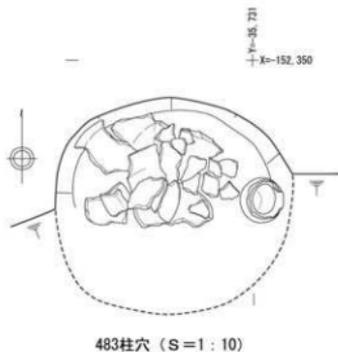


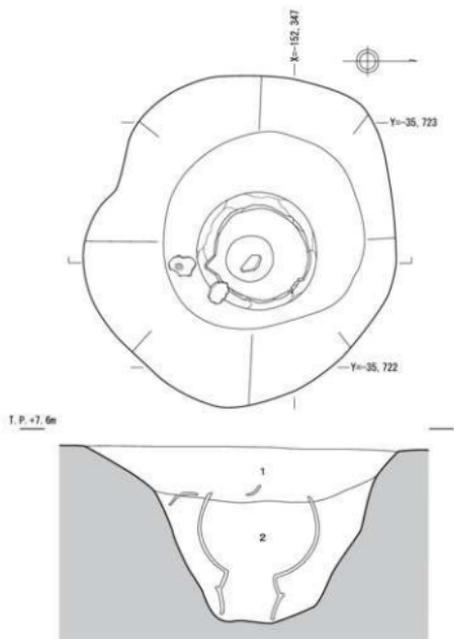
図55 第2調査区第5面 472土坑平面図



1. 2.5Y4/2 増灰黄色極細粒砂
475柱穴 (S=1:10)



483柱穴 (S=1:10)



1. オリーブ褐色2.5Y4/3 礫まじり極細砂
2. 増灰黄色2.5Y4/2 礫まじりシルト

507土坑 (S=1:20)

図56 第2調査区第5面 475柱穴平・断面図、483柱穴平面図、507土坑平・断面図

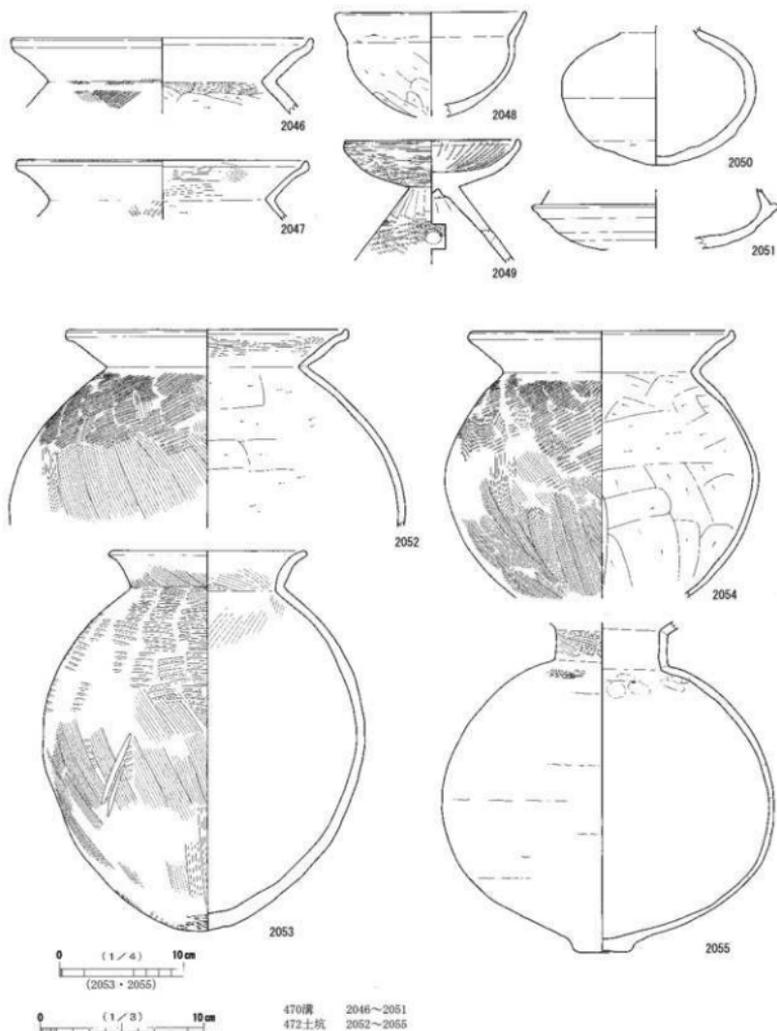


図57 第2調査区第5面 470溝、472土坑出土遺物

状態を呈する。2058は杯身で、中村編年Ⅱ-3 (MT85)に属する。2059は甕で、6世紀代の所産と考えられる。

483柱穴：調査区西西部中央(18I-4f地区)で検出した。南半分を側溝に切られるが円形を呈すると推定される。径0.49m、深さ0.2mを測り、オリーブ褐色2.5Y4/4シルトまじり細粒砂を埋土とする(図

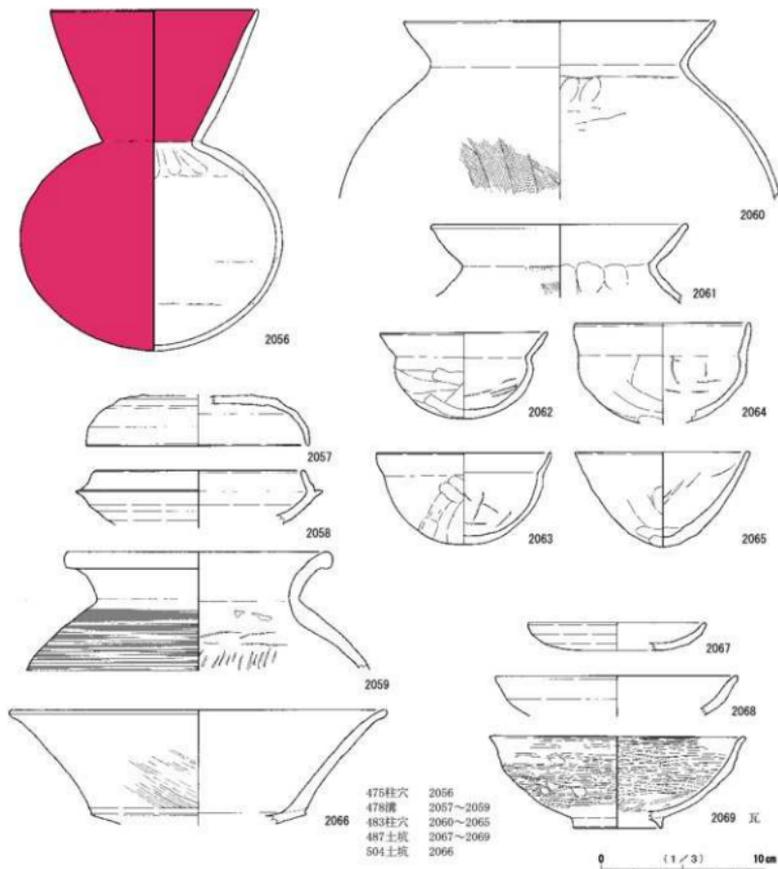


図58 第2調査区第5面 475・483柱穴、478溝、487・504土坑出土遺物

56・写真図版21)。遺構底部より庄内式甕やほぼ完形の小型鉢が出土した（図58-2060～2065）。2060は全体的に磨滅・剥落が著しく、調整は不明瞭であるが、体部外面に煤の付着が認められる。2061は原田編年布留Ⅰ期の所産と推定される甕である。体部外面にハケメのちナダ、同内面にヘラケズリのちナダが施されており、口縁に煤が付着している。2062～2065は小型鉢である。2062は原田編年庄内Ⅱ期の所産。2063は同庄内Ⅰ～Ⅱ期、2064は同庄内Ⅲ～布留Ⅰ期の幅内に位置するとみられる。2065は庄内期の所産である。2062・2064の体部内外面には、板状工具によるナダが施されている。2063・2065の外側面にはヘラケズリのちナダが加えられ、内面は板状工具によるナダが施されている。2062と2063は重なった状態で出土した。

504土坑：463柱穴の南東2mの地点(18I-3e地区)に位置する。長軸2m、短軸1.4mを測る。オリ-

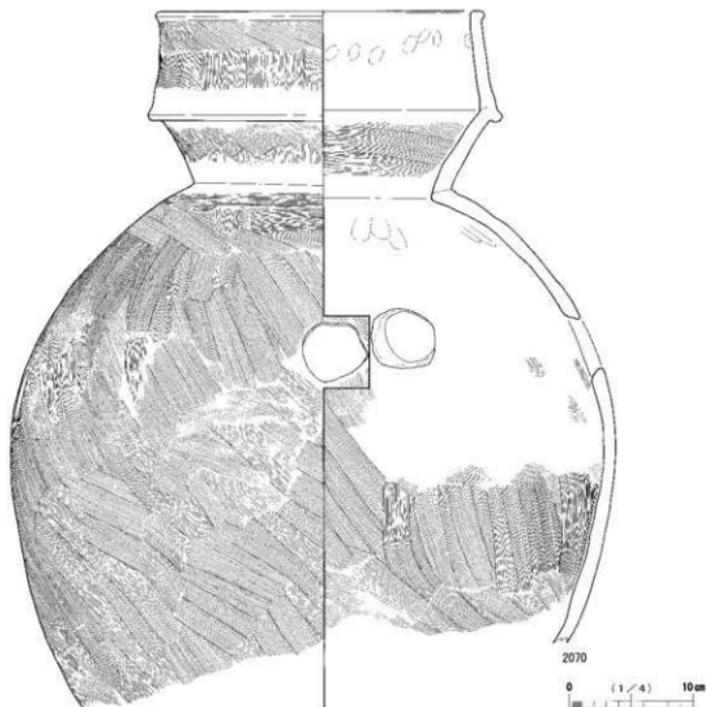


図59 第2調査区第5面 507土坑出土遺物

ブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂を埋土とする。遺構上面より高杯の杯部分が出土した(図58-2066)。2066は外面にハケメ、内面にナダが認められるが、全体的に磨減が著しく、調整は不明瞭であった。原田編年庄内I期の所産とみられる。また、遺構底部より、最大長約1.5m、最大幅約0.4m、最大厚約0.15mを測る石が出土した(写真図版21)。石の両端部に加工された痕跡および表面には幅2~3cmの工具痕があるが、用途は不明である。

507土坑：504土坑の南側で検出した(18I-3e地区)。不整形円形を呈し、東西1.35m、南北1.25m、深さ0.72mを測る(図56・写真図版21)。埋土は2層に大別され、上部はオリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂、下部は暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルトが堆積する。当遺構のほぼ中央に体部下半部を打ち欠いた讃岐系の複合口縁壺が逆位で据えられていた。体部上半部には焼成後穿孔の円孔が5箇所みられる。円孔の直径は3.2~5.3cm。口頸部外面にはハケメ、内面上部にはユビオサエ、同下半部にはハケメが施されている。また、体部外面全体、口縁・体部下半部内面にはハケメが施され、口縁内面上部および体部外面には黒斑が認められる。体部内面上部はユビオサエが確認できるが、器面の剥落のため調整が不明瞭である(図59-2070)。

487土坑：調査区南半部(18I-3f地区)で検出した。遺構上部に攪乱を受けるが、ほぼ円形を呈する。

表 13 第2調査区 第5面検出遺構(1)

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	短・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期 (出土遺物より判断)	備考
462	柱穴	18I - 3e	0.5	0.5	23	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト	古墳初期	
463	柱穴	18I - 3e	0.7	0.6 + a	21	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古墳前期	
466	土坑	18I - 3d	1.8	0.64	7	図 53	古墳前期	
467	柱穴	18I - 4d	0.3	0.2	7	オリーブ褐色 2.5Y4/4 細粒砂		
468	柱穴	18I - 4d	0.4	0.4	4	オリーブ褐色 2.5Y4/4 細粒砂		
469	柱穴	18I - 4d	0.35	0.35	16	オリーブ褐色 2.5Y4/4 細粒砂	古墳	
470	溝	18I - 4d・f 18I - 3e・f	19 + a	0.6 - 1.0	23	オリーブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳初期～後期	
471	溝	18I - 4d	2.5	0.6 + a	4 + a	オリーブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳	
472	土坑	18I - 4d・e	1.5 + a	0.8 + a	13	オリーブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳初期	
473	溝	18I - 3・4e 18I - 3f	10	1.2 - 1.7	8	オリーブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳小	
474	溝	18I - 4e	5	0.4	9	オリーブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳	
475	柱穴	18I - 4e	0.57	0.45	16	図 56	古墳前期	
476	柱穴	18I - 4e	0.35	0.35	14	暗灰黄色 2.5Y4/2 極細粒砂		
478	溝	18I - 3e	6.4	0.5	15	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古墳後期	
479	柱穴	18I - 3e	0.35	0.35	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
481	柱穴	18I - 3e	0.45	0.4	18	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古墳～古代	
482	柱穴	18I - 4e	0.6	0.5	23	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
483	柱穴	18I - 4f	0.49	0.25 + a	30	オリーブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳初期～前期	
484	溝	18I - 4e・f 18I - 3f	13	0.4 - 0.7	25	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古墳	
485	土坑	18I - 4f・g	1.5 + a	1.2 + a	73 + a	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		新しい時期の井戸か
487	土坑	18I - 3f	0.8	0.8 + a	52	(上部) 黒褐色 2.5Y3/2 極細粒砂 (下部) 黒褐色 2.5Y3/1 礫まじりシルト	古代末～中世 (12 - 13 世紀)	
488	土坑	18I - 3e	1.1	1	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂	古墳小	
489	溝	18I - 2f	1.8 + a	0.35 - 1.3	4	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじりシルト		
490	柱穴	18I - 2f	0.5	0.35	13	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじりシルト		
491	柱穴	18I - 2f	0.3	0.3	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
494	土坑	18I - 2f・g	2.3	2.1	16	オリーブ褐色 2.5Y4/4 極細粒砂		
495	柱穴	18I - 3f	0.75	0.7	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
497	溝	18I - 3d	3.5 + a	0.35 - 0.8	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	古墳小	
498	溝	18I - 3d	2.5 + a	0.5 - 0.8	11	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
499	柱穴	18I - 3d	0.25	0.25	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
500	溝	18I - 3d・e	3.7	0.35	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
501	柱穴	18I - 3d	0.45	0.4	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
502	柱穴	18I - 3d	0.7	0.5	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
504	土坑	18I - 3e	2	1.4	24	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	古墳初期	
506	柱穴	18I - 3e	0.4	0.4	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古墳小	
507	土坑	18I - 3e	1.35	1.25	72	図 56	古墳前期	
508	柱穴	18I - 3e	0.35	0.35	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
509	柱穴	18I - 3e	0.4	0.4	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
510	柱穴	18I - 3e	0.4	0.3	11	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂		
511	柱穴	18I - 3e	0.45	0.45	16	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂	古墳小	
514	柱穴	18I - 4e	0.3	0.3	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂	古墳小	
515	柱穴	18I - 4e	0.3	0.25	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
516	柱穴	18I - 3e	0.25	0.25	12	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルト		
517	溝	18I - 3e	3.5	0.35	4	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
518	柱穴	18I - 3e	0.4	0.4	8	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
519	土坑	18I - 3e	1.5	1 - 1.2	17	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂	古墳小	
520	柱穴	18I - 3e	0.5	0.5	9	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
521	柱穴	18I - 3e	0.4	0.35	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
522	柱穴	18I - 3e	0.5	0.45	8	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		

表14 第2調査区 第5面検出遺構(2)

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	短・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より判断)	備考
523	柱穴	18I-3e	0.5	0.45	12	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
524	柱穴	18I-3e	0.3	0.3	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
525	柱穴	18I-3e	0.25	0.25	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
526	柱穴	18I-3e	0.35	0.2 + e	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
527	柱穴	18I-3g	0.5	0.35 + e	28	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂	古墳か	

径 0.8 m、深さ 0.52 m を測る。埋土は 2 層に大別され、上部は黒褐色 2.5Y3/2 極細粒砂、下部は黒褐色 2.5Y3/1 礫まじりシルトが堆積する。出土遺物は 12～13 世紀の所産(図 58-2067～2069)。2067・2068 は土師器皿。2067 は口縁部に 2 段凹みナデが廻る。12 世紀後半の所産とみられる。2069 は瓦器椀。内面見込みに格子状の暗文が施される。12 世紀中頃～後半の所産であろう。

当遺構は、本来、上位の遺構面で検出するべきものであるが、攪乱の影響で認識できなかったものである。

494 土坑：調査区南端(18I-2f・2g 地区)で検出した。不整形を呈し、東西 2.1 m、南北 2.3 m、深さ 0.16 m を測る。オリーブ褐色 2.5Y4/4 極細粒砂を埋土とする。中世前半頃の土師器などの細片が出土したが、詳細な時期を特定するまでには至らなかった。上位の遺構面に帰属するものである。

第5-2面 [図60・写真図版22・23]

調査区東半部の土壌化した層(図5⑤層)、西半部の低い部分に堆積する粘土質シルト層(図5⑥層)を除去し、第5-2面とした。遺構面は T.P.+7.1～7.3 m にあり、遺構は調査区北半部東側(18I-3d 地区)に集中する。柱穴からは、中世前半頃の土師器細片が出土したが、詳細な時期を特定するまでには至らなかった。これらの柱穴については、上位の遺構面で認識できなかった遺構である。また、調査区中央(18I-3e・18I-4e 地区)では炭の薄層(図5⑦層)が堆積しており、この層に伴って庄内式甕などの古式土師器が出土した。ここでは主要な遺構のみ詳述する。その他の遺構については表15に掲載した。

541 土坑：調査区中央(18I-3f 地区)で検出した。北東-南西方向を長軸とする平面長楕円形の土坑で、長軸 3.2 m、短軸 1.1～1.8 m、深さ 0.26 m を測る(図61)。暗灰黄色 2.5Y5/2 シルトを埋土とする。複合口縁壺がほぼ完存状態で出土した(図62-2071・写真図版22)。2071 は形態から阿波系の複合口縁壺と推測される。口縁部外面には放射状、頸部には横方向のヘラミガキ、外面の体部上半部には細かい斜め方向のハケメ調整(11条/cm)のちジグザグ状のヘラミガキを加える。体部下半部～底部にかけては粗い縦方向のハケメ(8条/cm)が施され、内面の体部上半部はエビオサエ、体部下半部～底部にかけてヘラケズリが施される。また、体部外面下半部には黒斑が認められる。

540 土坑：調査区北半東部(18I-3e 地区)で検出した。不整形を呈し、東西 1.3 m、南北 1 m、深さ 0.3 m を測る。暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂を埋土とする。出土遺物は 12 世紀後半～13 世紀中頃に属する(図62-2072～2076)。2072～2075 は土師器皿。京都編年Ⅳ期の所産。2076 は瓦器椀。内面見込みに連結輪状の暗文が施される。

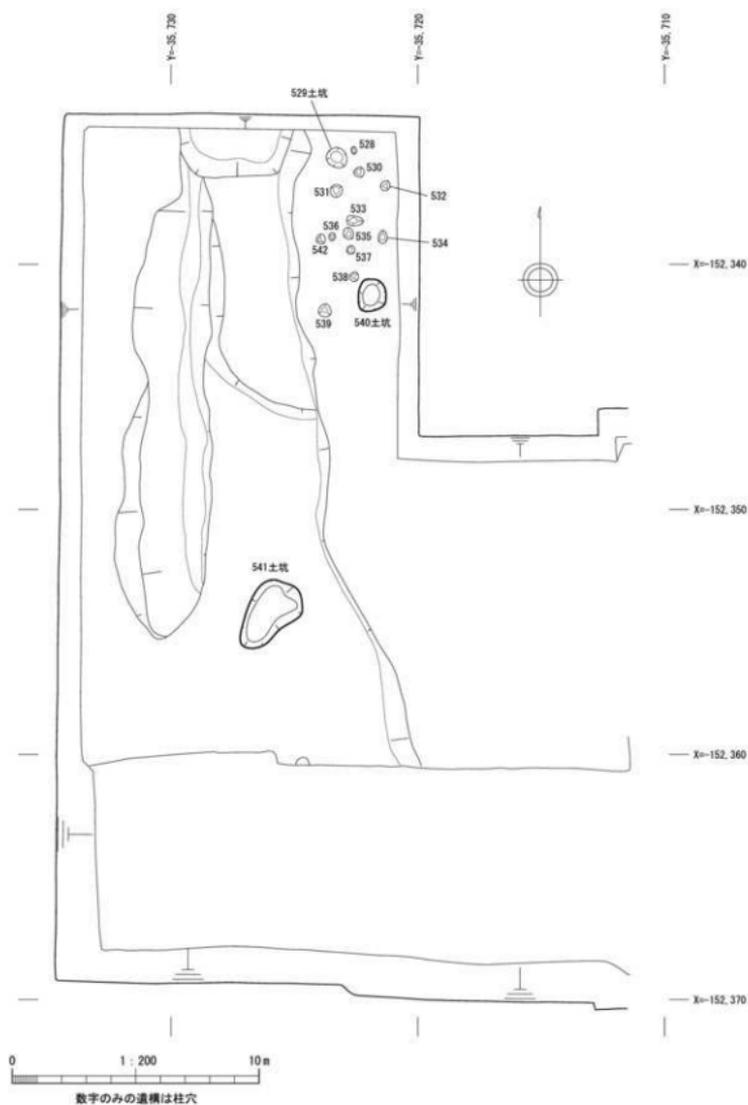


図60 第2調査区第5-2面

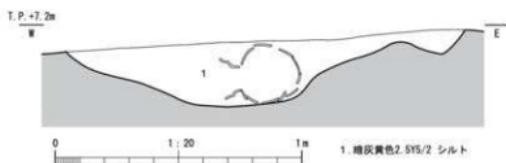


図61 第2調査区第5-2面 541土坑断面図

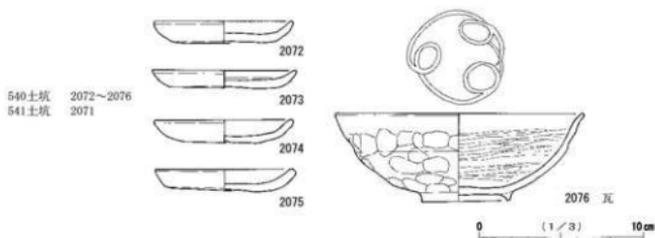


図62 第2調査区第5-2面 540・541土坑出土遺物

表15 第2調査区 第5-2面検出遺構(1)

遺構番号	遺構種類	地区	長軸(m)	短・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
528	柱穴	18I-3d	0.3	0.2	10	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂		
529	土坑	18I-3d	0.8	0.6	20	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂	古墳	
530	土坑	18I-3d	0.4	0.35	10	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂		
531	柱穴	18I-3d	0.5	0.45	10	ナリーブ褐色2.5Y4/3礫まじりシルト		
532	柱穴	18I-3d	0.45	0.4	10	ナリーブ褐色2.5Y4/3礫まじりシルト		
533	柱穴	18I-3d	0.7	0.35	14	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂		
534	柱穴	18I-3d	0.55	0.35	18	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂		
535	柱穴	18I-3d	0.35	0.35	15	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂		
536	柱穴	18I-3d	0.4	0.25	10	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂		
537	柱穴	18I-3d	0.4	0.35	9	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂		
538	柱穴	18I-3e	0.4	0.4	18	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂		
539	柱穴	18I-3e	0.5	0.4	10	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂		
540	土坑	18I-3e	1.3	1	30	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂	古代木~少骨 (12世紀後半~13世紀中頃)	
541	土坑	18I-3f	3.2	1.1~1.8	26	埋61	古墳	
542	柱穴	18I-3d	0.4	0.35	5	細灰黄色2.5Y4/2礫まじり細砂		

第5-2面土器群〔図63・写真図版23・27〕

先述のように、調査区中央(18I-3e・18I-4e地区)では、東西3m、南北6mの範囲にまとまって古式土師器が出土した(図64-2077~2087)。これらの土器は、炭の薄層(図5⑰層)上面で検出したことから、遺構に伴うものであると思われたが、掘り方などは見当たらなかった。

2077・2078・2083~2085は土師器壺である。2077は短頸壺か。斜上方に大きく開く口縁部をもつ。口縁端部は面取り状に四角くおさめ、外傾する平坦面を有する。V様式系の壺である。2078・2083・2084は直口壺。2078・2084は扁球形の体部である。2084は斜上方に直線的のびる口縁部をもつ。口縁端部は丸くおさめ、端部内面に微かな段を有する。2083は肩の張った体部をもち、斜上方に直線的のびる口縁部を有する。口縁端部はやや尖り気味におさめ。2078は原田編年庄内Ⅲ期、2083・2084は布留Ⅰ期の所産である。2085は大型の直口壺か。遺存状態は良好ではないが、器形は球形の体部で斜上方に向けて直線的に開く頸部を有する。2080・2081は庄内式甕である。両者は頸部内面の屈曲がシャープで、口縁端部は丸くおさめ。ともに生駒西麓産胎土である。原田編年庄内Ⅰ~Ⅱ期に位置付けられる。2082は高杯である。内外面ともに細かなヘラミガキを施し、杯部内面には放射状のヘラミガキが確認できる。原田編年庄内Ⅲ期に位置付けられる。2086は小型器台。脚部に4方向の円形透かし孔が外面側から穿孔される。全体的に磨滅が著しく、脚部は剥離が進んでいる。この剥離は2次焼成を受けて起きた可能性が高い。原田編年庄内Ⅲ~布留Ⅰ期の所産であろう。2087は大型鉢である。内側しながら立ち上がる体部に斜上方に短くのびる口縁部が付く。口縁端部は外傾する凹面を有する。全体的に磨滅が進み、調整は不明瞭である。原田編年布留Ⅰ期に位置付けられるものであろうか。

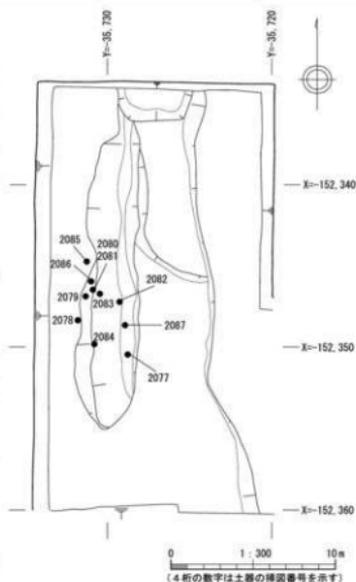


図63 第2調査区第5-2面 遺物出土地点

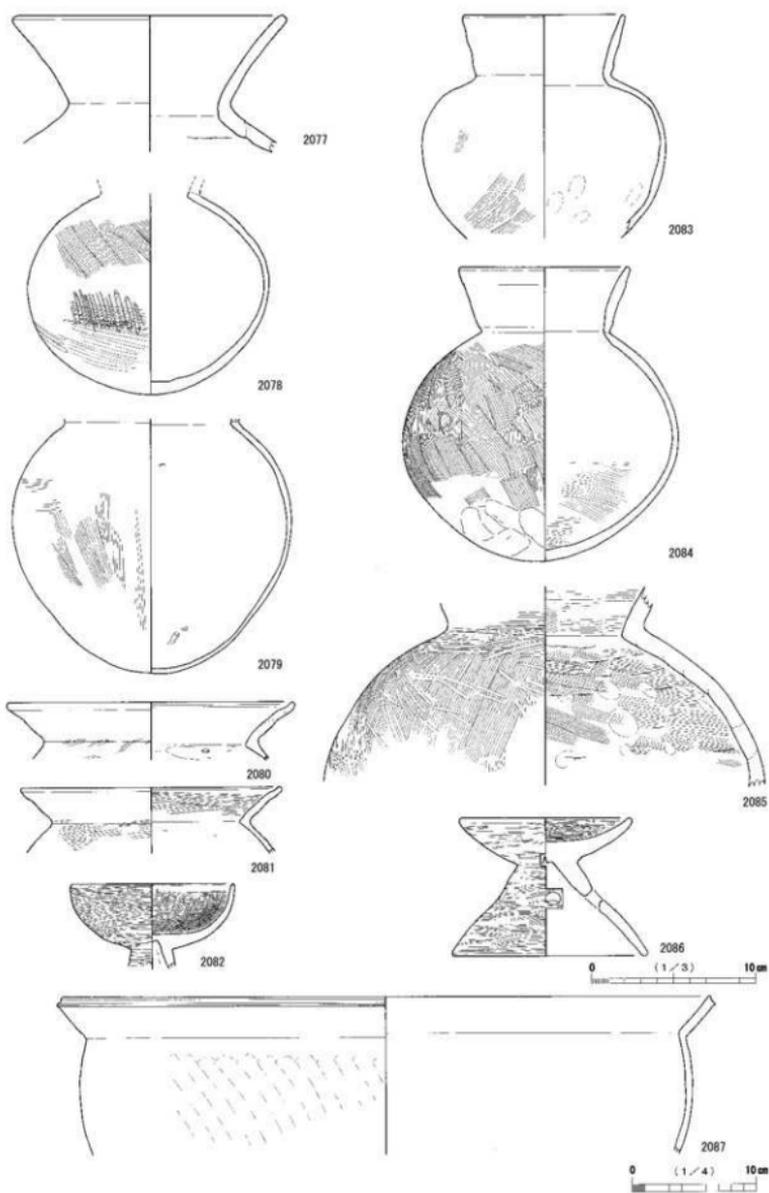


图64 第2调查区第5-2面 出土遗物

第2節 包含層出土遺物〔図65～67・写真図版29～34〕

第2調査区では5枚の遺物包含層を確認した。1～3層は平安～鎌倉時代の遺物を、4層は古墳時代～古代の遺物、5層は古式土師器を主体として包含している。

1～5層出土遺物〔図65～67・写真図版29～34〕

2088・2089は1層出土の石製品。2088は砥石である。2面の使用が確認できる。肌理は非常に細かく仕上げ砥であろう。凝灰質頁岩製と思われる。2089は硯である。縁刃には細い沈線が2条廻る。海部は逆ハート型を呈する。墨痕は確認できない。裏面には細く浅い線刻が刻まれる。

2090～2095・2131～2135（写真図版のみ）は2層出土遺物である。

2132は瓦器皿。内面には密なヘラミガキを、内面見込みには格子状暗文を施す。2133は瓦器椀である。口縁端部をやや尖り気味に仕上げる。内面は疎らなヘラミガキを施し、見込みには平行線状暗文を施す。体部外面はユビオサエが顕著にみられ、疎らなヘラミガキを施す。高台は断面三角形の貼付け高台。森島編年Ⅱ-1～2・12世紀前半～中頃の所産か。2134・2135は土師器皿である。2134は扁平な器形で、口縁端部は尖り気味に仕上げる。所謂「て」の字状口縁皿。京都編年Ⅳ期（古）・11世紀初頭の所産。2135は口縁部に2段凹みナデを施し、端部を尖り気味に仕上げる。底部外面はユビオサエが顕著である。京都編年Ⅴ期（新）・12世紀後半の所産。2091は土師器台付皿である。口縁部は2段凹みナデを施し、端部は内面を僅かに肥厚させ、外面は面取り状を呈する。体部は内彎気味に斜上方に立ち上がる。台（脚）端部は丸くおさめる。皿部の形態から類推すると京都編年Ⅴ期（新）・12世紀中～後葉の所産であろう。2090は東播系須恵器片口鉢。口縁端部は下方に僅かに拡張する。口縁外面には自然釉が付着。森田編年Ⅱ期第2段階・12世紀末～13世紀初頭に位置付けられる。2092・2131は緑釉陶器底部片である。2092は内外面に非常に濃い緑色の釉が掛けられる。但し、高台内は露胎である。高台は貼付け高台。素地はキメ細かく、にぶい橙色を呈し軟質である。2131は灰白色の淡い釉が掛かるが、遺存状態は悪く外面の一部にしか確認出来ない。素地はキメ細かく、灰白色を呈し軟質である。

2093は円盤状土製品である。直径2.3cm・厚さ0.4cmを測る。瓦器を転用したもの。2094は不明銅製品。板状の銅製品であり、片面は平坦で他面は僅かな凹凸が認められる。縁刃は全て破面となっており、2箇所研磨痕が観察できる。大きさの割に重量感があり、緑青の析出は少なく、髹も入らない。良質な銅の使用と確かな技術で铸造されたものであろう。2095は不明鉄製品。層状剥離が認められず、小塊になって崩壊が進行していることから铸造品と思われる。

2096～2102・2136（写真図版のみ）は3層出土遺物である。

2096は黒色土器A類椀である。底部から緩やかに内彎しながら外方に立ち上がり、体部中位やや上部から口縁部が緩やかに外反する。口縁端部は丸くおさめ、口縁内面には微かな段を有する。体部外面下半はユビオサエが顕著である。高台は高く、外方に開くように貼り付けられる。高台端部は丸くおさめる。森編年Ⅶ期・10世紀末頃の所産であろうか。2099は須恵器把手付捏鉢。円盤状の底部をもち、体部は直線的に斜上方にのびる。把手は底部と体部の接合点から大きく外反するように取り付くが、大半を欠落しその形態は不明である。把手接合部の脇に直線状のヘラ記号がある。外面全体的に自然釉が付着する。2097は土師器複合口縁壺。全体的に磨減が著しく調整は不明瞭。外反した頸部に取り付く口縁部は短く直線的に斜上方に立ち上がる。口縁端部は外側に肥厚させ、外傾する平坦面を有する。2098は

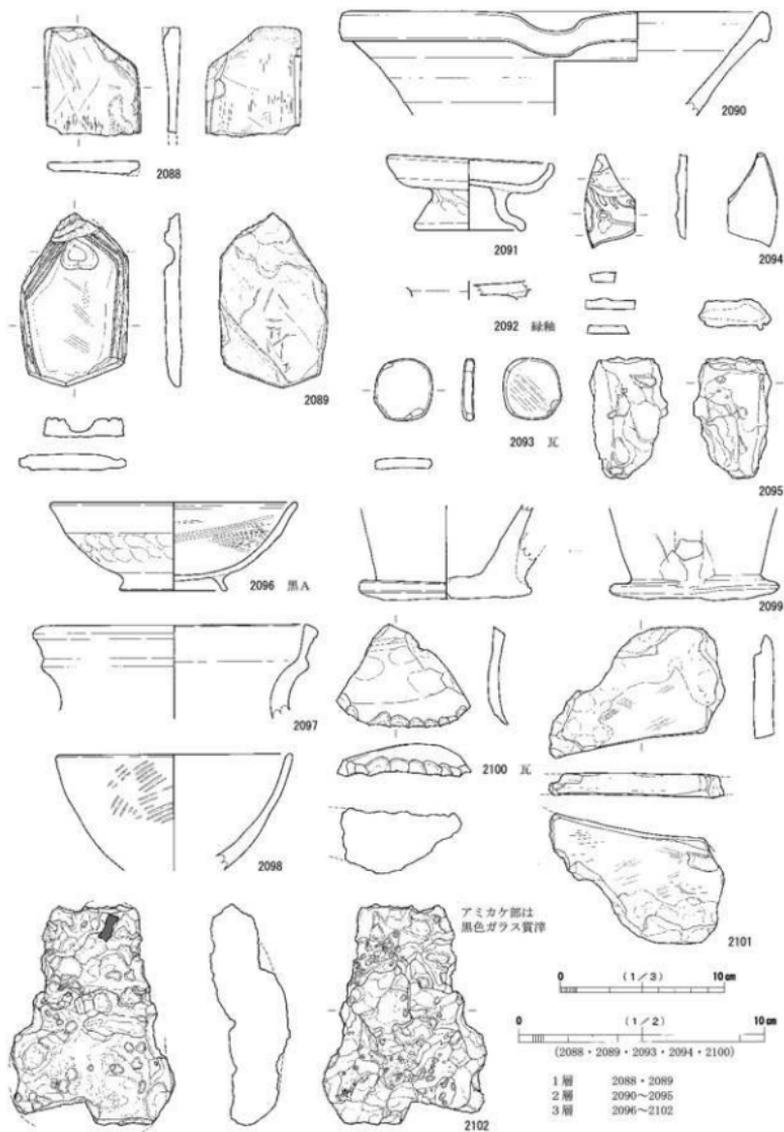


図65 第2調査区 1・2・3層出土遺物

V 様式鉢。内彎しながら斜上方に立ち上がる体部をもつ。口縁端部はやや尖り気味におさめ。生駒西麓産の胎土である。

2100 は平面三角形を呈する土製品である。瓦器碗体部片を転用する。1 側面に碗内面側から刃部調整状の剥離を行い、スクレイパー様に加工する。2101 は砥石である。3 面使用。肌理はやや粗く中砥であろうか。2102 は碗形滓。平面不整形を呈し、大きさの割に重量感がある。表面は直径 0.1 ～ 0.5cm の気孔が僅かに認められ、炭の噛み込みは確認出来ない。羽口先端部の溶融に由来すると考えられる黒色ガラス質滓の付着が一部に認められる。裏面は凹凸が著しく、気孔や炭の噛み込み、灰床粘土の付着などは観察できない。滓の状況や重量感から精錬鍛冶滓の可能性が考えられる。2136 は平瓦である。凸面は縄タタキ、凹面は強いナデを施し布目を完全にナデ消している。凹面には離れ砂が付着する。

2103 ～ 2127 は 4 層出土遺物である。2103 ～ 2123 は 4 層中でも上位から出土したものである。

2103 は須恵器杯蓋である。口縁部は高く、端部は内傾する段をもつ。天井部は平坦であるが体部は丸みを帯びる。また、稜は退化し僅かに突出する程度である。中村編年 I-4 ～ 5 (田辺編年 TK23 ～ 47)。2104 ～ 2108 は須恵器杯身。2104 は直立する口縁部をもち、端部は尖らせ気味におさめ。受け部は斜外方にのびる。中村編年 II-5 ～ 6 (田辺編年 TK43 ～ 209) の所産。2105 は内傾する口縁部を有し、端部は内傾する段をもつ。受け部は短く外反する。中村編年 I-5 (田辺編年 TK47) に位置付けられる。2106 ～ 2107 はいずれも内傾する口縁部をもち、端部は尖らせ気味におさめている。受け部は短く外反する。中村編年 II-3 (田辺編年 MT85) の所産であろう。2109・2110 は須恵器甕。2109 は外面及び底部内面に自然軸が付着。2110 は頸部と体部中位に波状文を施す。体部下半部はタタキを施す。外面肩部に自然軸が付着。底部外面には「×」字状のヘラ記号を有する。中村編年 II-4 ～ 5 (田辺編年 TK43)。2111・2112 は須恵器有蓋高杯脚部。2111 は 3 方向に長方形透かしを、2112 は 3 方向の円形透かしを有する。2113・2114 は土師器甕である。2113 は口縁部が外上方に向かって開く。口縁端部は内面を肥厚させ僅かに内傾する平坦面をもつ。布留式甕である。2114 は庄内式甕。頸部内面の屈曲はあまく、体部最大径は体部上位に位置する。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸くおさめ。原田編年庄内 I ～ II 期に位置付けられる。2115 ～ 2120 は土師器壺である。2115 は広口壺。口縁部は大きく外反し、口縁端部内面は内傾気味に積み上げられる。器壁は頸部以上が厚く作られる。全体的に磨滅が著しく詳細は不明である。讃岐系の広口壺であろう。原田編年布留 I 期頃の所産。2116 は直口壺である。球形の体部と直線的に斜外方にのびる口縁部をもつ。口縁端部は尖り気味におさめ。体部中位に黒斑がある。原田編年庄内 III ～ 布留 I 期に位置付けられる。2117 は小型丸底壺である。扁球形の体部で、口縁は欠損。体部外面に黒斑を有する。2118・2119 は複合口縁壺。2118 は「く」の字に屈曲する頸部に内傾する口縁部が取り付く。口縁端部内面を僅かに肥厚させ、丸くおさめ。全体的に器壁は厚く作られている。讃岐系の複合口縁壺であろう。2119 は山陰系の複合口縁壺と思われる。白色系の胎土である。口縁部は緩やかに外反し、端部は僅かに外方へ摘み出し、外傾する平坦面を有する。頸部は縦位のヘラミガキを施す。肩部外面にはヘラ描きによる波状文が 1 条廻る。原田編年布留 I 期の位置付けか。2120 は粘土帯を垂下させて複合口縁壺にしたもの。生駒西麓産に似た胎土をもつ。口縁外面上端部には円形浮文を、下端部には円形浮文と竹管文を施文する。原田編年庄内 III 期か。2121・2122 は土師器高杯。2121 は杯部の屈曲が丸みを帯び、口縁が杯底部から大きく外反しながらのびるもの。口縁端部は丸くおさめ。原田編年布留 III ～ IV 期の所産。2122 はほぼ水平のびた杯底部に斜上方にのびる口縁部が取り付く。杯底部と口縁接合部には段が形成されている。口縁端部は緩やかに外反する。原田編年庄内 I 期に位置

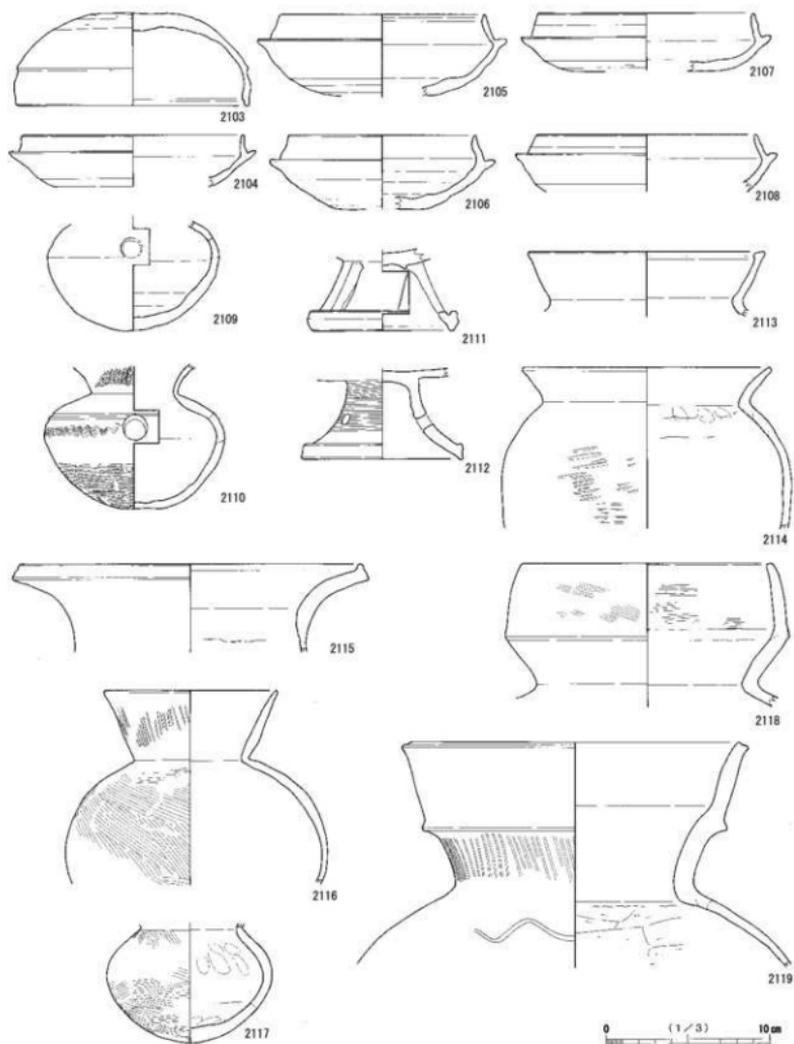


図66 第2調査区 4層出土遺物(1)

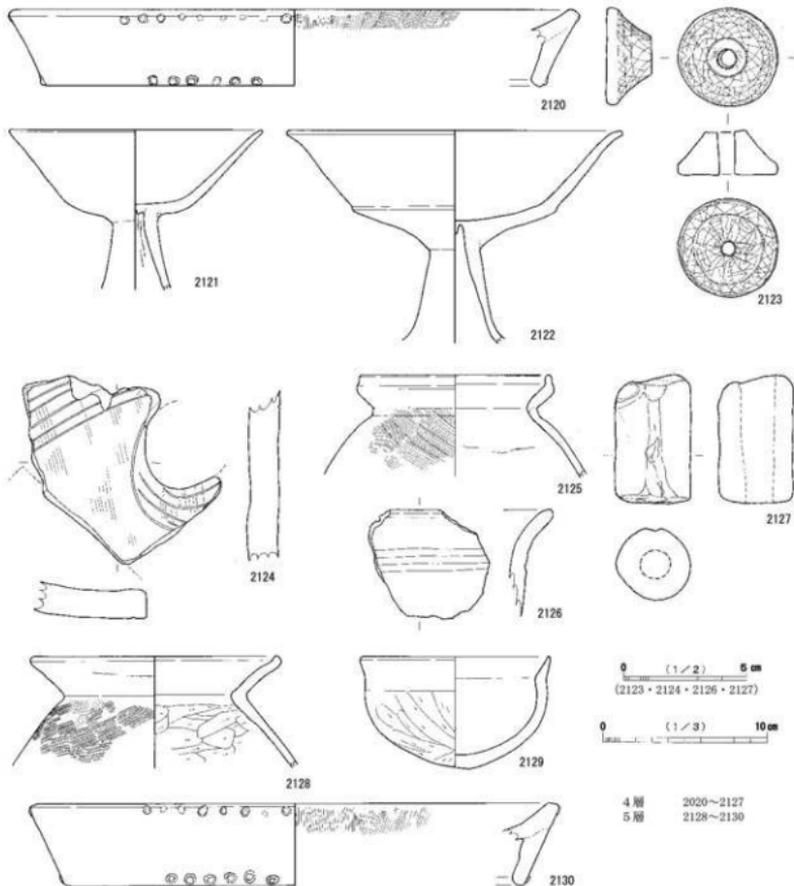


図67 第2調査区 4層出土遺物(2)、5層出土遺物

付けられよう。2125は近江系受口状口縁甕である。頸部は「く」の字に屈曲し、そこに内傾しながら短く立ち上がる口縁部が取り付く。口縁端部は丸くおさめている。2126は弥生前期甕である。如意形口縁で端部はやや尖り気味におさめる。頸部には2条のヘラ描き沈線文が廻る。磨滅が著しく調整は不明瞭。前期中段階の所産か。

2123は滑石製紡錘車。表面には螺旋状沈線を廻らせ、沈線間を鋸歯文で充填する。裏面は二重の圏線を廻らせ、圏線間に鋸歯文を、その内側に雑描文を線刻する。穿孔は表面側からの片面穿孔である。

2124は特殊器台形埴輪である。円形もしくは巴形透かし孔と三角形透かし孔をもつ。両者の間隔は非常に狭く、三角形透かし孔の周囲に通例認められる直条線文は表現されない。文様は巴もしくは円形

透かし孔の周囲を囲む位置と両透かし孔の上部に曲線単位が描かれる。前者は曲線単位の収斂する部位が表現されている。これらの曲線単位は5条のヘラ描き沈線で構成される。破片のため文様の復原は困難であるが、特殊器台形埴輪に特徴的な蕨手文とは曲線の巻きの向きが逆位をとるため同種の文様とは捉えにくく、特殊器台にみられる「の」字状の文様構成をとるものと思われる。全体的に磨減が著しく調整は不明瞭であるが、表面には微かに縦方向のハケメ（8条/cm）が認められる。僅かではあるが、ハケメ内には赤色顔料が遺存しているため、本来は全面的に塗布されていたものと思われる。胎土には多くの特殊器台に含有される角閃石は含まず、白色砂粒・金雲母・長石・石英などが多く含まれる。色調は浅黄色を呈し、断面は暗灰黄色である。

2127は土鉢である。丸棒に粘土を「の」字状に巻き付けて作成されたもの。重量は54.3gを測る。

2128～2130は5層出土遺物である。

2128は庄内式甕。頭部内面の屈曲は比較的シャープである。口縁端部はやや内傾気味に摘み上げている。生駒西麓産胎土である。原田編年庄内Ⅱ期に位置付けられる。2129は土師器鉢である。半球形の体部に短く上外方にのびる口縁部が取り付く。体部外面はヘラケズリを施す。原田編年庄内Ⅲ～布留Ⅰ期の所産であろう。2130は粘土帯を垂下させて複合口縁壺にしたもの。生駒西麓産に似た胎土をもつ。口縁外面上端部には円形浮文を、下端部には円形浮文と竹管文を施文する。接合しないが2120と同個体の可能性がある。原田編年庄内Ⅲ期か。

なお、今回、図化や写真掲載には至らなかったが、2～3層を中心に灰釉陶器片・黒色土器A・B類碗・白磁碗・輪羽口片・サスカイト剥片なども出土している。

第4章 まとめ

今回の調査では、第1調査区で4枚、第2調査区で6枚の遺構面を検出した。主な遺構は、15世紀を下限とする中世後半の溝群、12～13世紀および古墳時代初頭～後期の井戸・土坑・溝といった集落関連遺構である。しかし、調査においては遺構の検出が複雑、困難な状況であったため、同一面でも時期の異なる遺構を調査している可能性がある。そこで、出土遺物から時期を推定できる遺構を中心に当調査区の各時期の変遷を復元的にたどる。また、今回の調査地点に比較的近く、小阪合遺跡の中でもまとまった面積が調査された第1次調査〔平成9～10(1997～98)年度〕と第2次調査〔平成14(2002)年度〕調査の成果を参考とし、簡潔にまとめることとする。

【古墳時代】(図68)

第1次調査では調査地南東部(98-7区)を中心に、古墳時代初頭頃の竪穴住居2棟・掘立柱建物(倉)1棟・井戸1基を検出し、小規模集落の存在が指摘されている。今回の調査では、竪穴住居や掘立柱建物は検出されなかったが、土坑や第5-2面炭層に伴う土器群が検出されたことから、当地域まで集落域が広がっていた事が確認された。また、出土遺物中には古備の特殊器器形埴輪や四国系土器など他地域の遺物が出土しており、当地域が古墳時代初頭に重要な役割を担った事が改めて確認された。

第1調査区第4面、第2調査区第5面・5-2面において古墳時代中～後期の土坑・溝などが検出されたが遺構の密度は低く、集落域とする程の積極的な成果は得られていない。しかし、第1調査区A層・B層など中世包含層からは、古墳時代中～後期(TK208～MT10・15)の須恵器が多く出していることから、周辺に当該期の集落が存在するものと考えられる。

【古代】(図69)

第1次、第2次調査では、奈良時代の井戸や土坑、平安時代の掘立柱建物・井戸・土坑などを検出している。また、第1次調査で検出した自然河川からは、奈良時代後半～平安時代初頭を主体とした大量の土器や、和同開珎をはじめとする70枚もの皇朝銭が出土した。

今回の調査では、遺物量は少ないものの、第1調査区第3面・第4面、第2調査区第3面で平安時代前～後期に属する井戸・土坑・溝などを検出しており、前回調査地周辺を中心とする集落域が当調査区にまで及んでいたことが窺われる。

なお、注目すべき奈良時代の遺物として青谷式軒丸瓦(図35-1118)が挙げられる。青谷式軒瓦は大府府柏原市所在の青谷遺跡(竹原井頓宮比定地：平城宮から難波宮への行幸の際の宿泊施設)で確認された資料を標識とするものである。青谷式軒瓦は河内や摂津の寺院跡や官衙関連の遺跡を中心に分布することが明らかとなっており、小阪合遺跡の北西に位置する東郷廃寺で軒平瓦の出土が知られている。今回出土した軒丸瓦は、東郷廃寺との関連を強く示唆するものであり、調査地周辺に第1次報告書で指摘している同寺建立氏族宅が存在した可能性を補強する資料と言える。今後の調査で具体的な遺構の検出が期待される。

【中世前半】(図70)

第1次調査では、平安時代末から鎌倉時代初頭に属する耕作に伴う溝を、第2次調査では、井戸・土坑など集落関連遺構をそれぞれ検出した。

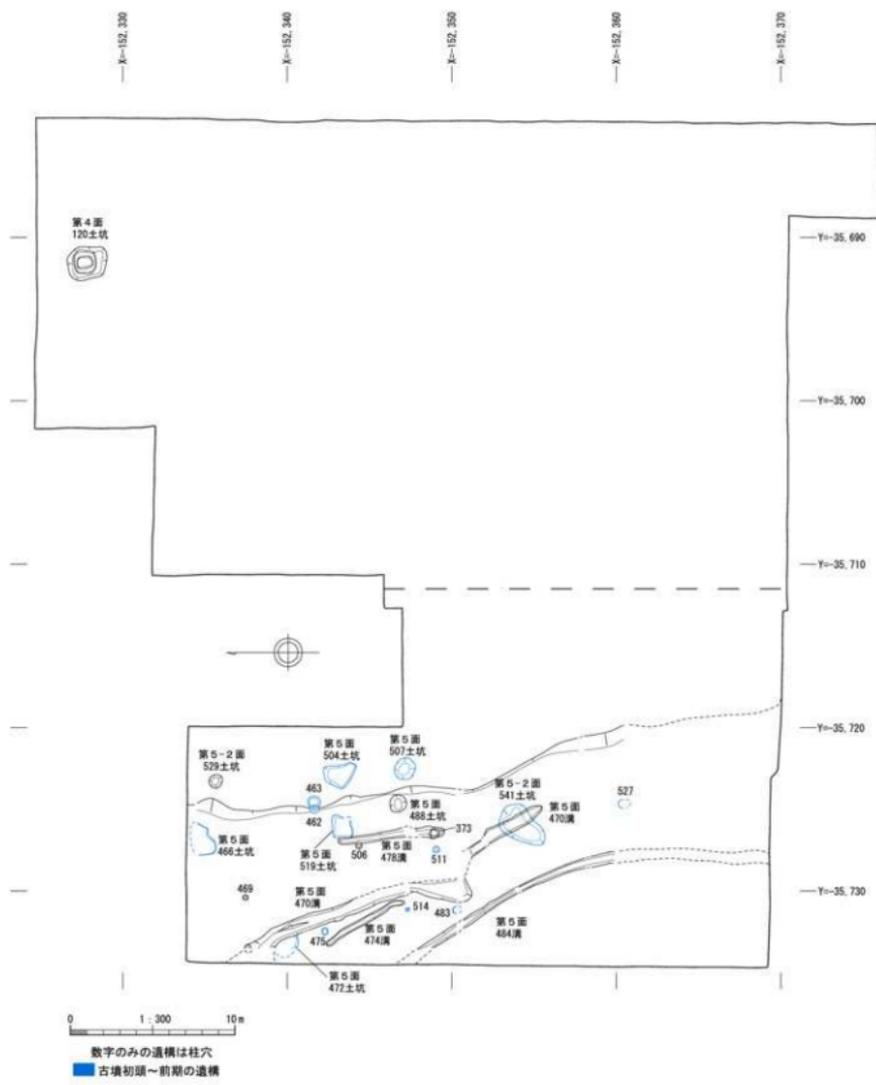


図68 古墳時代の小阪合遺跡

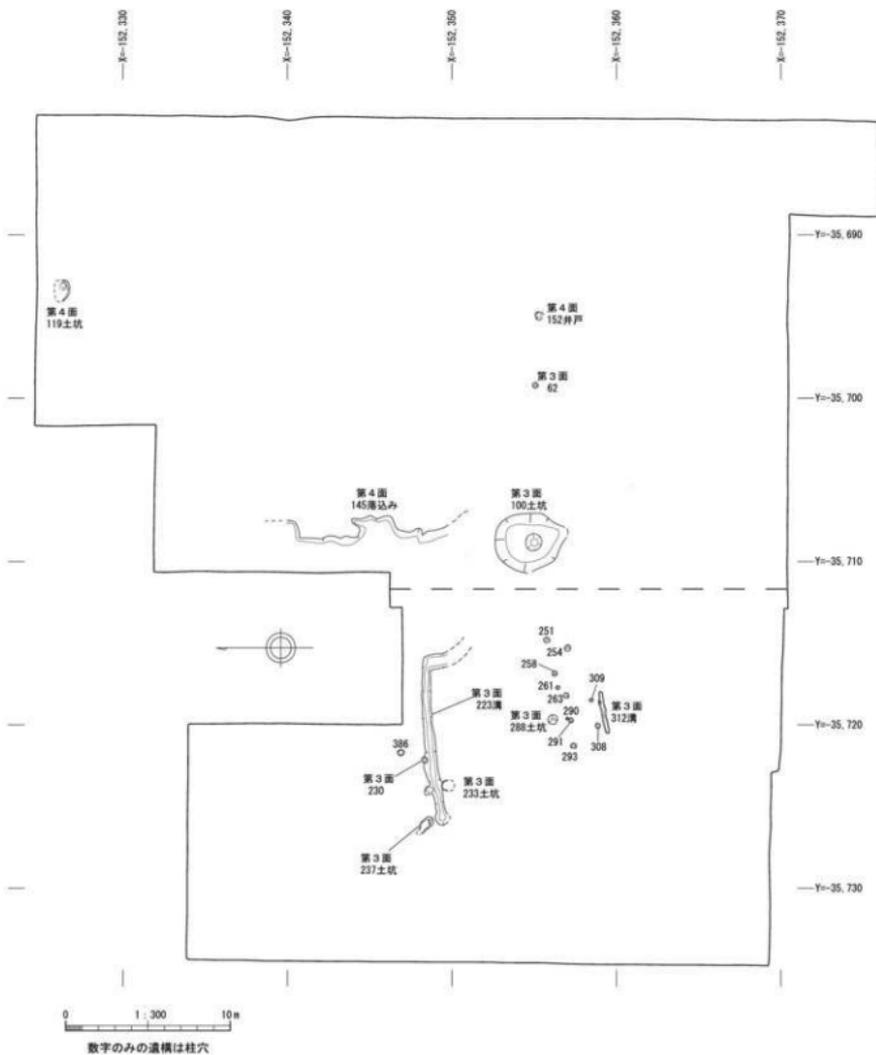


図69 古代の小阪合遺跡

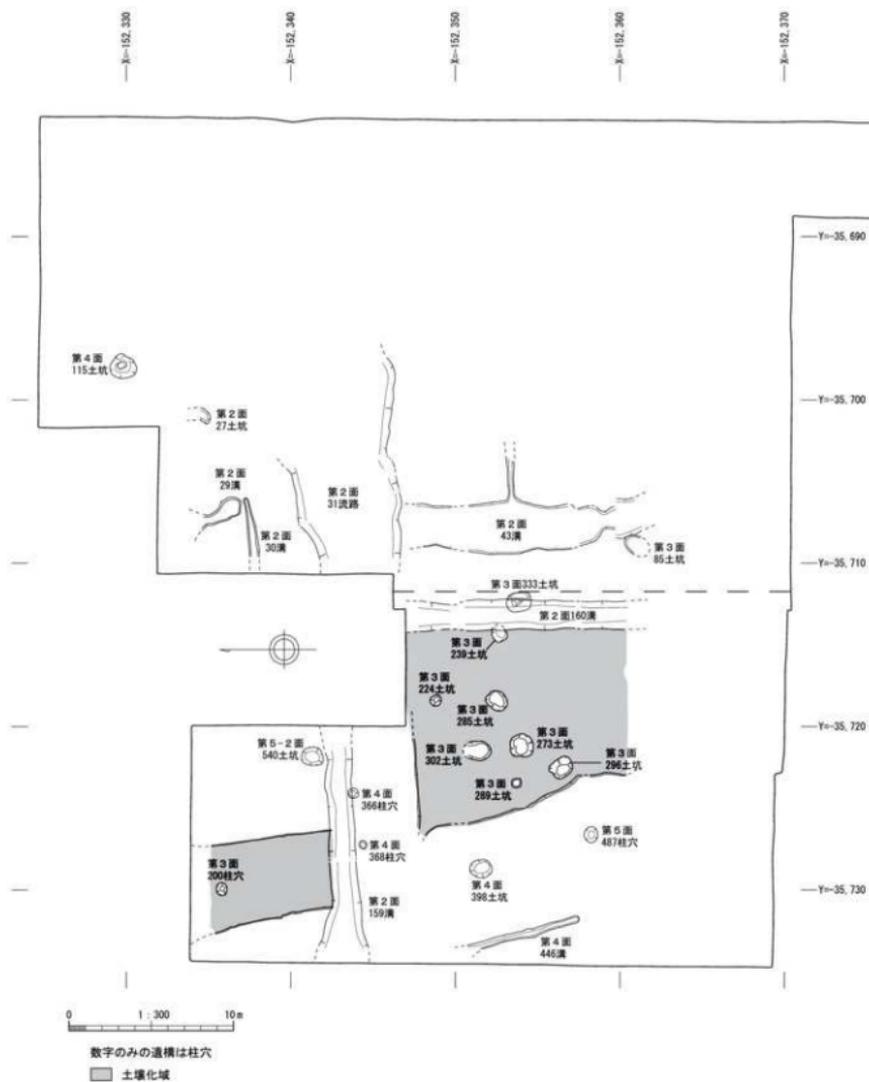


図70 中世前半の小阪合遺跡

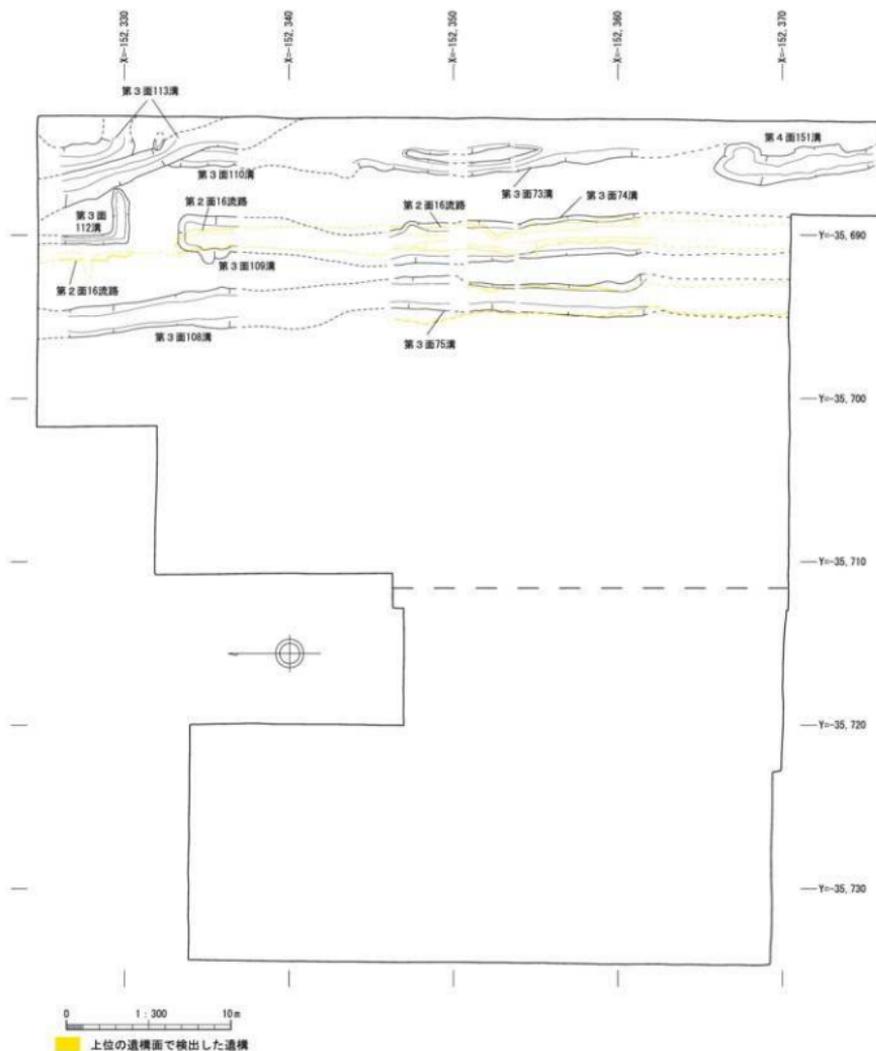


図71 中世後半の小阪合遺跡

今回の調査で検出した遺構の大半は12～13世紀のものであり、遺物も多く出土している。第2調査区東半部(18I-2e・2f地区、18I-3e・3f地区の一部)で検出した土坑などはこの時期に属するものが多い。前回調査地で検出した集落城の中心が当調査区に移動した可能性も考えられるが、周辺の調査の進展を待って判断せねばならない。

【中世後半】(図71)

第1次、第2次調査では、耕作に伴う小溝群を検出した程度で周辺地域が耕作地化された事を示唆する成果が得られている。

今回の調査では、第1調査区東半部で、73・110溝、74・109溝、75・108溝といった比較的大きな溝群を検出したが、集落関連の遺構は全く検出していない。また、この溝群が集落あるいは屋敷地を区画する溝という積極的な根拠も得られていないが、出土遺物の中に15世紀代を前後する瓦質土器(甕・播鉢・火鉢・羽釜)、土師器皿、常滑焼、備前焼等の土器・陶磁器が多くみられ、さらには、多くの瓦が含まれている点から周辺に瓦葺建物を含む居住域が存在していた事を示唆しているものと考えられよう。そして、その位置は、調査区西半部で該期の遺構・遺物が確認できなかった事実を鑑みれば、必然的に調査範囲外であった東側にも求められる。今後の調査成果に期待がもたれる。

〈参考文献〉

- 駒井正明編 2000 「八尾市若草町所在 小阪合遺跡 都市基盤整備公団八尾団地建替えに伴う発掘調査報告書」
(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第51集 (財)大阪府文化財調査研究センター
- 本間元樹編 2004 「八尾市 小阪合遺跡(その2) 八尾団地(建替)埋蔵文化財発掘調査(第2次)」
(財)大阪府文化財センター調査報告書第116集 (財)大阪府文化財センター
- 古閑正浩 2000 「7. 考察〔2〕 軒瓦からみた礎石建物SB43の造営過程とその背景」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第20集 大山崎町教育委員会
- 古閑正浩 2001 「畿内における青谷式軒瓦の生産と再利用」『考古学雑誌』第86巻第4号 日本考古学会

出土遺物觀察表

表 16 正十造物観察表

調査番号	図番	図名	出土位置・部位	計測値	採得率	口部形状	外部形状	底形・断面形状	色類	備考
1001	図16	灰青磁片身	第2層20柱次 断面13.3 高さ(4.0)	50 (体積) 断面2.9・ 高さ(3.6) 断面1.3・ 高さ0.5 断面大0.8 (厚径) 断面6.0	50 (体積)	図靴ナデ	図靴ナデ	外：図靴へラナズリ 内：図靴ナデ	外・内・底：灰白 N70	底面外縁に直線状のへらミが多少あり 中折線は1～2 IMT15～TK10 BC折手
1002	図16	灰青 磁片身 (複製品)	第2層43溝	断面5.0 高さ5.0	55	図靴ナデ	外：ユビヤエのちへらミガキ 内：へらミガキ	外：ヨコナデ (高台) ナデ (高台内) 内：ナデ・高文	内：灰 N60 外：灰 N60・灰 5Y6/1 底面高台1～2 1IC中環	方筒外折式複製 底縁及び縁口先明確に大溝 底は断面方形。断面図には不明な角部を呈す
1003	図16	灰青 磁片身	第2層43溝	口径9.9 断面5.5	100	ヨコナデ	外：ユビヤエのちへらミガキ 内：へらミガキ	外：ヨコナデ (高台) ナデ (高台内) 内：ナデ・高文	内：灰 N60 外：灰 N60・灰 5Y6/1 底面高台1～2 1IC中環	内面見込み部に非線形状破文 高台は斜付高台
1004	図16	灰青 磁片身	第2層43溝	口径9.9 断面5.5	100	ヨコナデ	外：ユビヤエのちへらミガキ 内：へらミガキ	外：ヨコナデ (高台) ナデ (高台内) 内：ナデ・高文	内：灰 N60 外：灰 N60 底面高台1～2 1IC中環	口部直径がナデより 断面高台V形 (図) ～ (中) 11C高台～1IC 中環
1005	図16	灰青 磁片身	第2層27土坑	口径16.7 断面15.4	100	外：ヨコナデのちへらミガキ 内：へらミガキ	外：ユビヤエのちへらミガキ 内：へらミガキ	外：ヨコナデ (高台) ナデ (高台内) 内：ナデ・高文	内：灰 N60 外：灰 N60 底面高台1～3～重1 1IC高台～重	見込み高台に平行線状破文
1006	図16	灰青 磁片身	第2層27土坑	口径(16.4) 断面(3.3)	25	外：ヨコナデのちへらミガキ 内：へらミガキ	外：ユビヤエのちへらミガキ 内：へらミガキ	内：灰 N60 外：灰 N60 底面高台1～3～重1 1IC高台～重	内：灰 N60 外：灰 N60 底面高台1～3～重1 1IC中環	断面高台V-2-3 15C中環
1007	図16	灰青土師器片身	第2層102溝	口径(6.7) 断面(6.7)	17	内：ハケナ	外：ハケナのちナデ 部分的にへらミガキ 内：ナデ・覆り目	内：灰白 N70	内：灰白 N70	断面高台V-2-3 15C中環
1008	図16	灰青土師器片身	第2層16溝	口径(5.8) 断面(7.2)	20	ヨコナデ	外：ハケナのちナデ 部分的にへらミガキ 内：ナデ・覆り目	内：灰白 N70	内：灰白 N70	断面高台V-2-3 15C中環
1009	図19	土師器片身	第3層60柱次	口径(11.4) 断面(3.0)	33	ヨコナデ	外：ユビヤエ	内：灰白 N70	内：灰白 N70	断面高台V-2-3 15C中環
1010	図19	土師器片身	第3層60柱次	口径(12.8) 断面(3.7) 高台径(5.2)	33	ヨコナデ	外：ユビヤエ	内：灰白 N70	内：灰白 N70	断面高台V-2-3 15C中環
1011	図19	黒色土師器片身	第3層62柱次 高台径7.9	口径14.7 断面6.1 高台径7.9	100	ヨコナデ	外：へらミガキ	内：灰白 N70	内：灰白 N70	断面高台V-2-3 15C中環
1012	図21	黒色土師器片身	第3層100土坑	口径15.3 断面6.0 高台径6.8	99	ヨコナデのちへらミガキ	へらミガキ	外：ヨコナデ (高台) へらミガキ (高台内) 内：へらミガキ	内：灰白 N70 外：灰白 N70 底面高台1～2 1IC中環	全体的に直線が直しく高台不明瞭 高台は斜付高台 10C高台～11C中環 底面高台直線 10C高台～11C中環
1013	図21	黒色土師器片身	第3層100土坑 高台径7.8	口径(15.6) 断面(5.7) 高台径7.8	40	ヨコナデ	へらミガキ	外：ヨコナデ (高台) ナデ (高台内) 内：へらミガキ	内：灰白 N70 外：灰白 N70 底面高台1～2 1IC中環	全体的に直線が直しく高台不明瞭 高台は斜付高台 11C高台 口部断面内面に1本の直線が直線 高台は斜付高台
1014	図21	灰青 磁片身	第3層100土坑	口径(16.0) 断面(5.5)	30	へらミガキ	へらミガキ	外：ヨコナデ (高台) ナデ (高台内) 内：へらミガキ	内：灰 N60 外：灰 N60 底面高台1～2 1IC中環	断面高台直線 11C高台 高台は斜付高台
1015	図21	灰青 磁片身	第3層100土坑	断面(2.4) 断面(5.6)	20 (高台)	外：ナデのちへらミガキ 内：へらミガキ	外：ヨコナデ (高台) ナデ (高台内) 内：へらミガキ・高文	内：灰白 N70 外：灰白 N70 底面高台1～2 1IC中環	内面見込み部に高文状破文 高台は斜付高台 断面高台1～2 1IC中環	断面高台直線 11C高台 高台は斜付高台
1016	図21	灰青 磁片身	第3層100土坑	口径9.0 断面2.0	60	ヨコナデ	外：ユビヤエ 内：ユビヤエのちナデ	内：灰白 N70 外：灰白 N70 底面高台1～2 1IC中環	内：灰白 N70 外：灰白 N70 底面高台1～2 1IC中環	断面高台直線 (高) ～方肩 (中) 10C高台～11C折手

選手番号	選手名	回数番号	距離	出走番号	計測値	獲得率	口頭部状態	身体状態	近部・顕微鏡	色調	備考
1017	選手名 頭領7	1017	土師高砂 第3回100土坑 距離6.8 最高(8.9)	40	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデのちユビオサエ	内・背：にがい塩 7.5YR7/3 外：新緑灰 7.5YR7/2	口頭部は「C」の形状口頭 新緑灰が厚い(注) 11C前半
1018	選手名 頭領7	1018	土師高砂 第3回100土坑 距離6.9	70	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ナデのちユビオサエ	内・背・腹：淡黄緑 7.5YR6/3	新緑灰が厚い(注) ~ (中) 11C前半一連	
1019	選手名 頭領7	1019	土師高砂 第3回104蒸込み 上層 距離(8.2)	25 (標準)	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内：淡黄 10YR6/4 外・背：黄 2.0Y5/2	頸部に赤の付け込みも認められ、凸部上に は部分白と閉成文も発生 本体的に厚皮が厚しく毛量不明瞭	
1020	選手名 頭領7	1020	土師高砂 第3回104蒸込み 上層 距離(13.4)	50 (標準)	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：ハケメのちナデ 内：ヨコナデ・ハミタガキ	内：黄 2.5YR6/6 外：背 5YR6/6	頸部腹面に黒付へうミガキ 原田成高が厚い	
1021	選手名 頭領7	1021	土師高砂 第3回104蒸込み 上層 距離(11.2)	23 (標準)	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：黒転ナデ(背腹上半部)・ 内：黒転ナデ(背腹下半部)	内：灰 N40 (口頭部)・灰 N60 背：灰 N20(中に赤味) 10YR4/4	中村謙幸1-3 (TK206) 5C中頃	
1022	選手名 頭領7	1022	土師高砂 第3回104蒸込み 上層 距離(12.0)	30	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：黒転ナデ(背腹上半部)・ 内：黒転ナデ(背腹下半部)	内：灰 N50 外・背：灰 N40	中村謙幸1-3 (TK206) 5C中頃	
1023	選手名 頭領7	1023	土師高砂 第3回104蒸込み 上層 距離(12.2)	20	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：黒転ナデ(背腹上半部)・ 内：黒転ナデ(背腹下半部)	内：背 灰 N40 外：灰 N50	中村謙幸1-3 (TK206) 5C中頃	
1024	選手名 頭領7	1024	土師高砂 第3回104蒸込み 下層 距離(11.8)	25	ヨコナデ	ナデ	ナデ	黒転ナデ	内：背 灰 N40 外：灰 N50 背：新灰 5YR4/1	中村謙幸1-3 (TK206) 5C中頃	
1025	選手名 頭領7	1025	土師高砂 第3回104蒸込み 上層 距離(11.0)	10	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内・背：にがい塩 5YR6/4 外：にがい塩 5YR5/4	口頭部内腹及び外部内面に自然皮が付着 外部中に1本の皮状文が認める	
1026	選手名 頭領7	1026	土師高砂 第3回104蒸込み 下層 距離(31.6)	6	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内：にがい塩 10YR4/1	中村謙幸1-3 (TK206) 5C中頃	
1027	選手名 頭領7	1027	土師高砂 第3回107溝 距離(12.0)	20	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：タタキ 内：ヨコナデ	内：にがい黄味 10YR7/3 外：灰白 2.5Y7/1 背：にがい塩 5YR7/4・ 灰黄 2.5Y7/2	黒付縞をV-2-3 15C中頃	
1028	選手名 頭領7	1028	土師高砂 第3回107溝 距離(4.6)	50	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：黒転ナデ(背腹上半部)・ 内：黒転ナデ(背腹下半部)	内：灰 N50 外・背：灰 N60	中村謙幸1-3 (TK206) 5C中頃	
1029	選手名 頭領7	1029	土師高砂 第3回107溝 距離(2.2)	50	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：黒転ナデ(背腹上半部)・ 内：黒転ナデ(背腹下半部)	内：背 灰 N60 外：灰 N60	中村謙幸1-3 (TK206) 5C中頃	
1030	選手名 頭領7	1030	土師高砂 第3回107溝 距離(5.9)	25	ヨコナデ	ナデ	ナデ	黒転ナデ	内：背 灰 N60 外：灰 N60	外腹に2本の凹線が走り、凹線間に1条(6条 1条位)の皮状文が認められる	
1031	選手名 頭領7	1031	土師高砂 第3回107溝 距離(5.1) 最高(8.6)	25 (標準)	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：黒転ナデ(背腹上半部)・ 内：黒転ナデ(背腹下半部)	内：背 灰 N60 外：灰 N60 背：にがい塩 7.5R6/3・ 灰白 N7/0	中村謙幸1-3 (TK206) 5C中頃	
1032	選手名 頭領7	1032	土師高砂 第3回107溝 距離(4.8)	20	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：黒転ナデ(背腹上半部)・ 内：黒転ナデ(背腹下半部)	内：背 灰 N60 外：灰 N60 背：にがい塩 5YR7/1・ 黄灰 2.5Y7/1	中村謙幸1-3 (TK206) 5C中頃	
1033	選手名 頭領7	1033	土師高砂 第3回107溝 距離(31.0) 最高(6.6)	10	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：タタキ 内：ハケメ	外：カキメ・黒転ナデ 内：黒転ナデ	中村謙幸1-3 (TK206) 5C中頃	
1033	選手名 頭領7	1033	土師高砂 第3回107溝 距離(5.4) 最高(6.4)	7	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：ハケメ 内：ハケメ	外：灰黄 2.5Y6/2 外：灰黄 2.5Y6/2・灰黄縞 10YR4/2	頸上はユビオサエ 外部腹に凸皮が付着	
1033	選手名 頭領7	1033	土師高砂 第3回107溝 距離(6.4)	7	ヨコナデ	ナデ	ナデ	外：ハケメ 内：ハケメ	背：にがい塩 5YR6/4	黒付縞をV-3-V-1 15C中頃一連手	

調査番号	図号	図名	出土位置・層位	計測値	検出率	口部形状	外部形状	底形・断面形状	色	備考
1004	図24	土師器 羽釜	第3層73溝	口径 (26.6) 底高 (4.8)	25	ナデ	外：ヨコナデ 内：ナデ		内：黒灰 7.5YR4/1 外：灰白 10YR6/2 底：黒灰 2.5Y4/1	口縁部は厚く返し口縁 外部は以下及び内面は縁が付着
1005	図24	瓦葺土師火鉢	第3層73溝	口径 (30.6) 底高 (5.9)	8	ヨコナデ	外：ナデ 内：ヨコナデ		内：灰白 10YR4/1 外：黒灰 10YR7/2・ 10YR7/3 底：灰白 10YR6/2・ 黒灰 2.5Y5/1	縁部1タイプ 口縁部外側に2本の肋付凸部を備え、 凸部間にスタンプ文を施す 15C代
1006	図24	瓦葺土師器鉢	第3層73溝	口径 (26.6) 底高 (6.0)	10	ヨコナデ	外：ヘラナズリ 内：ナデ・横リ目 縁ナデ		内：灰黄 2.5Y6/1 外：灰白 2.5Y9/2 底：灰白 9Y7/1	縁部縁部、V-4-V-1 14C後半-15C 初期
1007	図24	土師器 大甕	第3層73溝	口径 (29.0) 底高 (10.0)	25	縁ナデ			内：にがい黄 2.5YR5/3 外：黒灰 5YR4/1 底：灰黄 5YR5/2	口縁部一部外側に於いて自然釉が付着 14C後半
1008	図24	土師器 大甕	第3層73溝	口径 (26.6) 底高 (5.8) 底高 (32.0)	8 (産部)	縁ナデ			内：黒灰 5Y6/1 外：黒灰 10YR4/1 底：にがい黄 2.5YR5/3	内面に自然釉が付着
1009	図24	瓦葺土師器 折縁中皿	第3層73溝	口径 (24.8) 底高 (3.2)	8	口縁：ナデ、部分的に巻目が 残る 縁ナデ			内：外：横リ目 5Y4/3 内：にがい黄 7.5YR7/4	全面に施釉 内部内面にはスミと杖工具による刻文 が施され、外縁部は14C前半-中頃
1040	図24	瓦葺土師器 文 軒平瓦	第3層73溝						口：灰黄 5Y6/1 底：灰 5Y6/1	寛政時代か 15C代
1041	図24	瓦葺土師器 火鉢	第3層73溝	口径 (7.0)		外：ヘラミガキ 内：ヨコナデのちまばら5をへ ラミガキ			内：灰 15B9・ にがい黄 10YR6/3 外：灰 15B9-40 底：灰白 10YR6/1	縁部1タイプ 全体の厚みが薄く、縁部が厚く 外側に菱状スタンプ文を施す 14C前半
1042	図24	瓦葺土師器 甕	第3層73溝	口径 (7.9)		ヨコナデ			内：外：青灰 10B5/1 底：灰 15B9	外底全面及び口縁部内面に自然釉が付着 常陸橋年表4a-66型式か 15C後半55年頃-1564年頃
1043	図24	瓦葺土師器 甕	第3層73溝	口径 (3.0) 底高 (16.2)	40 (高台)				内：横リ目 5Y7/1 外：横リ目 5Y7/1 内：横リ目 5Y7/1 底：灰白 15B9	縁部縁部付着 高台内は施釉、それ以外は施釉 内面及び外面には凹状刻文を施す 発行部は凹状によるものが確認し、半周に全 周が凹状か
1044	図24	土師器 大甕	第3層73溝	口径 (11.3) 底高 (3.1)	15	ヨコナデ			内：にがい黄 5YR4/3 外：黒灰 7.5YR3/6	全面に施釉 縁部縁部付着
1045	図25	土師器 甕	第3層73溝	口径7.9 底高13.6 底径4.1	100	ヨコナデ			内：にがい黄 10YR7/4 外：にがい黄 10YR6/4	縁部縁部付着 (注) 15C中頃
1046	図25	土師器 甕	第3層73溝	口径 (7.9) 底高13.5 底径3.9	25	ヨコナデ	外：ユビ有サエ		内：灰黄 5Y6/3 外：黒：にがい黄 10YR7/4	縁部縁部付着 (注) 15C中頃
1047	図25	土師器 甕	第3層73溝	口径 (7.8) 底高13.2 底径3.4	30	ヨコナデ			内：にがい黄 7.5YR7/4 外：黒 2.5YR6/6 底：にがい黄 7.5YR7/2	縁部縁部付着 15C中頃-16C 初期
1048	図25	土師器 甕	第3層73溝	口径 (7.4) 底高 (11.9) 底径 (4.0)	40	ヨコナデ	外：ユビ有サエ・ナデ		内：灰黄 5Y6/3 外：黒：黒黄 10YR6/4	縁部縁部付着 (注) 14C末-15C初期

器番号	器名	器種	出土位置・層位	計測値	検出率	口部形状	体部形状	底部・脚部形状	色票	備考	
1040	器20	土師器類	第3層73溝	口径6.0 器高1.7	70	ヨコナデ		ナデ	内：L・J・白 7.5YR7/4 外：L・J・白黄 10YR7/4	京都府京田原(注) 15C中葉	
1050	器25	須恵系灰土器	第3層73溝	口径(12.8) 器高4.4	10	図板ナデ	外：図板ヘラケズリ 内：図板ナデ	外：図板ヘラケズリ 内：図板ナデ	内：底 NS0 外：底 NS0 内：底 黄灰 6B/1 外：底 黄灰 6B/1	中村藩年1-3 (TK208) 8C中頃	
1051	器25	土師器類	第3層73溝	口径4.8 器高16.9	75	外：ヨコナデ 内：ヘラケのもヨコナデ	外：ヘラケ 内：ヘラケのもナデ・ユビオエ (体部上半部)・ハケメ(体部下半部)	ハケメ	内：L・J・白 7.5YR6/3 外：黄灰 5YR6/3 底：赤 10R6/1	平塚藩年Ⅴ-Ⅷ 8C後半	
1052	器25	須恵系土器	第3層73溝	口径(18.3) 器高(4.6)	20	図板ナデ			内：黄灰 5YR6/3 外：黄灰 5YR6/3 底：赤 10R6/1	高台は製付得意品であるが、かなり濃化したもの。 内側面一部分が腐食にかけて遺物を残す等 底島藩年Ⅴ-2 13C第3段半葉	
1053	器25	瓦器類	第3層74溝	口径(19.8) 器高4.4 高台径(3.4)	20	図板ナデ	外：ユビオエ・ナデ 内：ナデ・黄文	外：ヨコナデ(黄台)・ナデ 内：ナデ・黄文	内：底 NS0-40 外：底 NS0-10 底：底 NS0		
1054	器25	土師器類	第3層74溝	口径(30.0) 器高(7.9)	5	ヨコナデ	ナデ		内：底 2.5YR7/8 外：底 5YR7/6 底：底 2.5YR7/8・黄黄緑 7.5YR7/2	13C前半か	
1055	器25	瓦質土師器類	第3層100溝	口径(34.4) 器高(4.9)	10	図板ナデ	外：ヘラケズリ 内：ハケメ	外：ヨコナデ 内：ナデ	内：底 NS0・底白 2.5YR7/1 外：黄灰 2.5YR7/1	御前藩年Ⅴ-4-V-1 14C後半→15C初葉	
1056	器25	須恵系灰土器	第3層100溝	口径(11.8) 器高4.4 底径(4.6)	20	図板ナデ	外：図板ヘラケズリ 内：図板ナデ	外：図板ヘラケズリ 内：図板ナデ	内：外・底 NS0 外：黄灰 2.5YR7/1	体部外面にXの字状のヘラケ跡あり 中村藩年Ⅴ-2 (TK110) 9C前半葉	
1057	器25	瓦器類	第3層100溝	口径(13.0) 器高4.9 高台径(3.0)	20	図板ナデ	外：ナデ 内：黄文	外：ヨコナデ(黄台)・ナデ 内：ナデ・黄文	内：外・底 NS0 外：底 NS0 底：底 NS0	高台は製付得意品であるが、かなり濃化した 底島藩年Ⅴ-2 13C第3段半葉	
1058	器25	瓦質土師器	第3層112溝	口径(28.6) 器高(4.9)	5	ヨコナデ	外：タタキ 内：ナデ		内：外・底 5YR/1 底：底白 5Y7/1	御前藩年Ⅴ-4-U-2 15C後半→16C初葉	
1059	器25	土師器類	第3層113溝	口径(21.9) 器高(7.1)	5	ヨコナデ	外：ユビオエ・ナデ 内：ヘラケズリ		内：L・J・白黄 10YR6/3 外：黄灰 7.5YR4/1・ 底黄 10YR5/2	13C初葉	
1060	器26	瓦質土師火鉢	第3層113溝	器高(19.0) 底径(31.2)	27(遺跡)		ヨコナデ	外：黄いナデ 内：ヨコナデ	内：底 NS0 外：底 NS0 底：底白 2.5YR7/1	器型タイプ 体部外面にXの字状の跡が凸部が凸部 15C前半か	
1061	器26	不明焼製品	第3層113溝	底(11.6) 器高2.2 重量353.6					器型が異なると思われることから製造品 と考えられる		
1062	器26	瓦質器類	第3層113溝	底(14.2) 器高・厚1.9					器型が深く作られ、赤褐色面片には横 0.2-0.3cmの断面「山」の字状を呈する4本の 溝が長軸に平行するように存在する		
1063	器26	半泥瓦器類	第3層113溝			凹盤：ナデ	凸盤：黄いナデか	黄黄緑：ナデ	凹盤：底 NS0 凸盤：底 NS0 底：底 NS0	器型が異なり出して、器型半片状の跡を有する製造 品と考えられている (→3055・底径1.5cm)の赤 黄黄緑は赤	
1064	器26	巴文軒瓦瓦	第3層113溝						凹盤：底 NS0 凸盤：底 NS0 底：底 NS0	凹盤に黄文が付く(他方の黄文は欠落 のため不明)	

調査号	図号	図名	出土位置・部位	計測値	検出率	口部形状	体部形状	底部・胴部形状	色部	備考
1005	図26	原厚文軒平瓦	第3区画110溝	口径(13.0) 底径(8.2) 厚高(1.6)	50	ヨコナデ		外：悪いナデ・ユビナデ 内：ナデ	口・心：灰 N50 内：灰 5YR7 原厚文は確認できるが中心部には不明	
1006	図30	土師器器	第4区画115土坑	口径(16.6) 底径(4.4)	13	外：皿状ヘラケズリ(体部下半部)			内・外：にがい土 7.5YR7/4 原厚文 5YR6/6	
1007	図30	白磁焼	第4区画115土坑	口径15.2 底径5.6 厚高5.2	100	ヨコナデのちへらミガキ	外：ユビナデのちへらミガキ 内：へらミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ナデ (高台内) 内：ナデのちへらミガキ・ナデ	白磁焼/高台 体部外周下半部以外は高焼	
1008	図30	瓦葺器	第4区画115土坑	口径15.1 底径5.2 厚高5.2	100	ヨコナデのちへらミガキ	外：ユビナデのちへらミガキ・高台 内：へらミガキ	内：灰 N40 外：灰 N50-40 底径部 5YR1-3 15C中焼	高台は製作付高台 内周は高台部に若干枚焼文 底径部 5YR1-3 15C中焼	
1009	図30	瓦葺器	第4区画115土坑	口径15.1 底径5.2 厚高5.2	100	ヨコナデのちへらミガキ	外：ユビナデのちへらミガキ・高台 内：へらミガキ	内：灰 N40 外：灰 N50 底径部 5YR1-3 15C中焼	高台は製作付高台 内周は高台部に若干枚焼文 底径部 5YR1-3 15C中焼	
1070	図30	原厚文軒平瓦	第4区画118土坑	口径(13.9) 底径(8.4)	100 (確認以下)	皿状ナデ		皿状ナデ	外・内：灰 5Y4/1 底径部 5YR1-3 15C中焼	口部は原厚文・体部は原厚文 底径部は原厚文・高台は原厚文 底径部 5YR1-3 15C中焼
1071	図30	原厚文軒平瓦	第4区画120土坑	口径(5.7) 底径(1.6)	25 (原厚文部)	皿状ナデ		皿状ナデ	内：灰 N50 外：灰 N40 底径部 5YR1-3 15C中焼	40方向に多少形成かあり 中村編年1-3 (TK208) 5C中焼
1072	図30	原厚文軒平瓦	第4区画120土坑 下層	口径(4.3) 底径(1.6)	14	皿状ナデ		皿状ナデ	内：灰 N40 外：灰 N50 底径部 5YR1-3 15C中焼	全体的に磨耗が著しい 外面に多少焼文1条が残る
1073	図30	原厚文軒平瓦	第4区画120土坑	口径(5.7) 底径(1.6)	9	皿状ナデ		皿状ナデ	外・内：灰 N50 底径部 5YR1-3 15C中焼	外面に多少焼文1条が残る
1074	図30	原厚文軒平瓦	第4区画120土坑	口径(4.9) 底径(1.6)	6	皿状ナデ	外：皿状ナデ・皿状ヘラケズリ 内：皿状ナデ	外：灰 N50 内：灰 N40 底径部 5YR1-3 15C中焼	外・内：灰 N50 底径部 5YR1-3 15C中焼	外面に多少焼文1条が残る
1075	図30	原厚文軒平瓦	第4区画120土坑	口径(4.9) 底径(1.6)	33	皿状ナデ	外：皿状ナデ・皿状ヘラケズリ 内：皿状ナデ	外：灰 N50 内：灰 N40 底径部 5YR1-3 15C中焼	外・内：灰 N50 底径部 5YR1-3 15C中焼	外面に多少焼文1条が残る
1076	図30	原厚文軒平瓦	第4区画120土坑	口径(12.6) 底径(4.7)	14	皿状ナデ	外：皿状ナデ・皿状ヘラケズリ 内：皿状ナデ	外：灰 N50 内：灰 N40 底径部 5YR1-3 15C中焼	外・内：灰 N50 底径部 5YR1-3 15C中焼	口部は原厚文・体部は原厚文 底径部は原厚文・高台は原厚文 底径部 5YR1-3 15C中焼
1077	図30	平づく土師器 小鉢	第4区画120土坑	口径17.5x5.0 底径5.2	100	ナデ	外：ユビナデ	ナデ	内・外：にがい土 7.5YR6/4	生野原遺跡出土
1078	図31	瓦葺器	第4区画152井戸	口径(12.9) 底径(12.5) 厚高2.0	50 100(体部)	ナデ		ナデ	内：灰 N50 外：にがい土 2.5YR6/4 底径部 5YR1-3 15C中焼	井戸内から出土 平城宮 8C後半
1079	図31	瓦葺器	第4区画152井戸	口径(28.6) 底径(8.5)	25	ヨコナデ	外：ハケミ(7.5YR6/4) 内：ハケミ(12.5YR6/4)		内・外：にがい土 2.5YR6/4	井戸内から出土 平城宮 8C後半
1080	図31	瓦葺器	第4区画152井戸	口径28.6 底径(21.5)	50	ヨコナデ	外：ハケミ(12.5YR6/4) 内：ハケミ(7.5YR6/4)		内・外：にがい土 2.5YR6/4	井戸内から出土 平城宮 8C後半
1081	図31	瓦葺器	第4区画152井戸	口径27.4 底径(20.6)	83	外：ヨコナデ 内：ハケミのヨコナデ	外：ハケミ 内：ユビナデ		内・外：灰 5YR6/8 外：灰 N50 底径部 5YR1-3 15C中焼	体部下半部以下を打った生野原に散見 平城宮 8C中焼
1082	図31	瓦葺器	第4区画161溝	口径(26.6) 底径(8.5)	5	外：へらケズリ 内：ヨコナデのちへらミガキ	外：へらケズリ 内：ヨコナデのちへらミガキ		内：灰白 N7/0 外：灰 N40 底径部 5YR1-3 15C中焼	体部下半部以下を打った生野原に散見 平城宮 8C中焼

調査番号	図番	図名	出土環境・部位	計測値	検出率	口部形状	外部形状	底部・胴部形状	色調	備考
1085	図32	写真 図様33	有孔戸蓋 (石製品)	直径5.0 厚さ1.2 重量11.2					オレンジ色 2.50Y6/1	表面にも彫刻の痕・印痕が残る 外面には彫刻の痕跡が 見られるが、片面側では彫刻に欠損し 残存している 底辺直線
1084	図32	写真 図様10	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	総高(6.3) 底高(3.7) 底径5.6	40(胴部) 67(高径)	図柄ナズナ	外：ヘラクレスリ(高径内)		内・外：灰白 7.5Y7/2(細) 底：灰黒色 5Y6/1 内：灰白 7.5Y7/2(細) 外：灰白 7.5Y7/2(細)・ 灰黒 7.5Y6/2(高径内) 内・外：灰 黒50 底：灰白 10Y6/1	高径は新出し高径 裏付は使用のため分層線 跡はあまりガラス 化していない 底径は約10cm 14C末～16C後半 遺跡3タイプには基本形を呈する 口部には本に若干の欠損あり 胴部外縁には本の取付穴の跡を認められ、凸 部跡には竹製文十円形印文(痕跡)を認す 15C代
1086	図32	写真 土器大鉢	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	総高(7.1)		ナズナ			黒	口部外部内面に1本の法線が通る 内部内面に法線が複数ある 平直度 8C中頃
1087	図32	写真 土器鉢	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	口径6.6 総高3.5 底径2.0	50	ヨコナズ	外：ヨコナズ 内：ヨコナズ・黒文	外：ヘラクレスリ・ユビヤエ 内：ナズナ・黒文	内・外・底：黒 2.5Y6/3	
1088	図32	写真 図様10	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	口径6.4 総高5.0 底径2.0	100	図柄ナズ	図柄ナズ		内：灰 黒50 外：灰白 N7/0～黒 N2/0	中村編年1～2 (TK216) 5C前半
1089	図32	遺跡層の高径鉢	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	口径(11.8) 総高(6.1) 底径(6.8)	29	図柄ナズ	外：図柄ナズ・図柄ヘラクレスリ 内：図柄ナズ	図柄ナズ	内：灰 黒50 外・底：灰ナリーブ 5Y6/2	22号内形共通しあり 中村編年1～3 (TK10～TK6) 6C中頃
1090	図32	写真 図様10	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	口径(22.0) 総高(6.0)	7	外：ヨコナズ(口部部)・ヘラ クレスリ(胴部) 内：ヘラメのヨコナズ(口 部部)・ナズ(胴部)			内・外・底 5Y6/6 底：灰黒 2.5Y7/2	阿波赤漆食口磁器(黒谷川里式少)
1091	図32	埴輪少	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	口径(5.6) 底径(3.6) 最大径3.2 重量59.4					内：こいぬ 7.5Y6/4 外：こいぬ 黒 10Y7/3 底：灰黒 2.5Y6/2	断面(口)の字状のタガ?が1個残る
1092	図32	写真 図様34	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	口径(6.0) 底径(3.0) 最大径(3.0) 重量70.3					外：こいぬ 黒 10Y7/3 内：黒 2.5Y6/2と黒 7.5Y7/6 の縞模様	2個使用 タガは黒い、仕上げ最少 底は石炭灰山出製少
1093	図32	写真 図様33	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	口径(6.0) 底径(3.1) 最大径(3.0) 重量107.5					外：こいぬ 黒 10Y7/3 内：灰白 2.5Y6/2と黒 7.5Y7/6 の縞模様	3個使用 タガは黒い、仕上げ最少 底は石炭灰山出製少
1094	図32	写真 図様33	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	口径(5.3～3.5) 底径(1.0～1.4) 重量107.5	100				外：こいぬ 黒 7.5Y7/3 内：暗赤黒 2.5Y6/6	丸押し転土を「の」の字状に垂き付けて作成
1095	図32	写真 図様32	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	口径(6.7) 底径(6.2) 最大径3.0		ナズナ			内：こいぬ 7.5Y7/6 外：こいぬ 黒 10Y7/4 底：黒 7.5Y7/6	外縁に縞模様文を施せる
1096	図32	写真 土器土器	東中部中位後半 遺物包各層 (Ⅷ層)	口径(3.0) 底径(3.0) 重量17.7		外：タタキ 内：ナズ			内・外・底 5Y7/6 底：灰 5Y6/1	製成式土器 外面のタタキは輪子目タタキ

器番号	器名	器種	出土位置・部位	計測値	検出率	口部形状	外部形状	底形・脚付形状	色類	備考
1113	器36	土師器鉢	東半部中位部 遺物包巻層 (1区 (中))	口径 (26.8) 底径 (6.7)	25	ヨコナデ	外：ユビオウエ・ナデ 内：ヨコナデ		内：黒 5YR6/4 外：黒 5YR7/6 にかい 5YR7/6 10YR2/4	平縁蓋蓋→V形付 6C前半
1114	器35	須恵器行徳	東半部中位部 遺物包巻層 層高5.4	口径 (19.2)	47	圓形ナデ	圓形ナデ	外：圓形ヘラケズリ 内：圓形ナデ	内：黒 10Y5/1 外・底：灰 7.5Y6/1	中村橋土1-2 (TK216) 5C中頃
1115	器36	須恵器科身	東半部中位部 遺物包巻層 層高5.0	口径12.8 底径5.0	100	圓形ナデ	圓形ナデ	外：圓形ヘラケズリ 内：圓形ナデ	内：灰白 5Y7/1 外：灰 6M0 底：灰白 5Y6/1	黒色色へラケズリによって黒染し表に広がる動土
1116	器36	須恵器船台	東半部中位部 遺物包巻層 層高 (26.0)	口径 (19.2) 底径 (6.8)	12 (脚部部)	圓形ナデ	圓形ナデ	圓形ナデ	内・外：褐色灰 5P8/1 外：灰 6M0 底：灰 6M0	67°向に北方傾斜かしあり 外縁に68°の底辺文が重なる 6C中頃
1117	器35	須恵器有蓋高杯	東半部中位部 遺物包巻層 層高15.6	口径 (19.0) 底径15.6	36 (脚部部)	圓形ナデ	圓形ナデ	外：圓形ナデ 内：カキム・ナデ	外縁に68°の底辺文が重なる 脚弁の形に存在しない部分が確認できる 器台が斜交	中村橋土1-2→3 (TK10) か 6C前半～後半
1118	器35	須恵器蓋文 軒瓦瓦	東半部中位部 遺物包巻層 層高10.2	口径 (10.2) 底径 (4.7)		瓦蓋面：ヘラケズリ		瓦蓋面：ナデ	瓦蓋面：灰白 5Y7/1 瓦蓋文：灰白 5Y6/1 底：灰白 2.5Y7/1	外縁に68°の底辺文が重なる 脚弁の形に存在しない部分が確認できる 器台が斜交
1119	器35	外紀笠形蓋文 軒瓦瓦	東半部中位部 遺物包巻層 層高10.2	口径 (10.2) 底径 (4.7)		凸縁：ナデ、部分的に敷目が 残る	凸縁：ナデ		凸縁：灰 5Y6/1 底：灰 2.5Y6/1	器台が斜交
1120	器36	須恵器土師	東半部中位部 遺物包巻層 層高5.1	口径 (6.7) 底径 (1.7)		外：タタキ 内：ナデ	外：タタキ 内：ナデ		内：黒 10YR6/6 外：黒 10YR6/3 底：黒 2.5YR5/6	外縁のタタキは濃染文タタキを施す 内縁に2本の底辺文が重なる
1121	器35	須恵器土師	東半部中位部 遺物包巻層 層高 (7.1)	口径 (6.8) 底径 (1.2)		外：タタキ 内：ナデ	外：タタキ 内：ナデ		内：黒 10YR6/6 外：にかい赤黒 5YR5/3 底：黒赤黒 2.5YR5/6	外縁のタタキは上層に濃染文タタキを、下層に格子目タタキを施す 内縁に2本の底辺文が重なる
1122	器36	須恵器石臼 (石製品)	東半部中位部 遺物包巻層 層高9.9 層高25.0	口径 (25.1) 底径9.9	50				器台は凹形 器台は凹形	器台は凹形
1123	器36	須恵器土師器鉢	東半部中位部 遺物包巻層 層高11.5	口径7.5 底径4.5	100	ヨコナデ	ヨコナデ	外：ナデ 内：ヨコナデ	内：黒 10YR6/4 外：にかい青黒 10YR7/4	平縁蓋半部 (中) ~ (脚) 15C前半
1124	器36	須恵器瓦	東半部中位部 遺物包巻層 層高5.8	口径11.0 底径5.8	65	ヨコナデ	外：ユビオウエ・ナデ 内：ヨコナデ	外：ユビオウエ・ナデ 内：ヨコナデ	内：灰 6M0 底：灰白 5Y7/1	黒色色蓋蓋→4 14C前半
1125	器36	須恵器瓦	東半部中位部 遺物包巻層 層高7.7	口径11.5 底径7.7	97	ヨコナデ	外：ユビオウエ・ナデ 内：ヨコナデ	外：ユビオウエ・ナデ 内：ヨコナデ・樽文	内：灰白 7.5Y6/1 外・外：褐色灰 5P8/1 底白 7.5Y6/1	内縁に68°の底辺文が重なる 器台が斜交→4 14C前半
1126	器36	須恵器土師蓋	東半部中位部 遺物包巻層 層高 (7.3)	口径 (26.2) 底径 (7.3)	11	ヨコナデ	外：タタキ 内：ハケム		内・外：褐色灰 2.5Y6/2 にかい 2.5Y6/3 底：黒 5YR7/6	脚部部V→2→3 15C中頃
1127	器36	須恵器科身	東半部中位部 遺物包巻層 層高12.4	口径12.4 底径5.2	98	圓形ナデ	圓形ナデ	外：圓形ヘラケズリ 内：圓形ナデ	外・外・底：黄灰 2.0Y6/1	中村橋土1-3 (TK208) 5C中頃
1128	器36	須恵器科身	東半部中位部 遺物包巻層 層高11.3 底径6.8	口径11.3 底径6.8	90	圓形ナデ	圓形ナデ	外：圓形ヘラケズリ 内：圓形ナデ	内：黒：灰白 6M0 外：灰白 10Y6/1	中村橋土1-3 (TK208) 5C中頃
1129	器36	須恵器科身	東半部中位部 遺物包巻層 層高10.5 底径5.3	口径10.5 底径5.3	90	圓形ナデ	圓形ナデ	外：圓形ヘラケズリ 内：圓形ナデ	内：黒 2.5Y3/1 外：にかい青黒 10YR7/6 底：10Y6/1 底：灰 10Y4/1	中村橋土1-2→3 (TK216-208) 5C前半 ～後半

図番	図名	出士位置・方位	計測値	埋存率	口部形状	体部形状	底形・胴部形状	色類	備考
1145	図27 土師瓶広口蓋	3層	口径 (14.0) 器高 (18.0)	33	ヨコナデ (口縁破断) 外：ヨコナデのちへらミガキ 内：ハケメのちへらミガキ	外：ハケメのちへらミガキ 内：ハケメのちへらミガキ 底ナシ (体部下半部)	内：にんがい質 外：黒 底：にんがい質 器高 10FR5/3	体部内面に嵌工工具痕が残る 体部底面全体が凹み部が付着 底面全体が凹み部が付着 底面全体が凹み部が付着	
1146	図27 土師瓶広口蓋	3層	口径14.0 器高 (4.9)	100	内：ヨコナデ	内：ヨコナデ	外：黒 底：黒 器高 10YR6/1	全体の扁平・磨滅が著しく程度不明確	
1147	図27 土師瓶 横合口部蓋	3層	口径 (18.0) 器高 (7.8)	20	ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底ナシ (体部下部)	外：黒 底：黒 器高 10YR6/2	山崎瓦葺合口部蓋	
1148	図27 土師瓶 横合口部蓋	3層	口径 (17.0) 器高 (8.7)	23	ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底ナシ (体部下部)	内：にんがい質 外：黒 底：黒 器高 10YR7/4	横合口部蓋 小形全蓋跡 (その1) 出土層不明	
1149	図27 土師瓶鉢	3層	口径14.2 器高5.4	70	外：ハケメのちへらミガキ 内：ヨコナデ	外：ハケメのちへらミガキ 内：ヨコナデ	内：赤褐色 外：にんがい質 底：赤褐色 器高 5YR5/8 器高 2.5YR6/5	原田磁土名器 1層	
1150	図27 芽玉 小壺	3層	口径 (6.0) 器高 (5.9)	10 100 (器底以下)	ヨコナデ	外：ナデ 内：黒いナデ	内：にんがい質 外：黒 底：黒 器高 10YR6/4 器高 10YR6/4	原田磁土名器 1層	
1151	図28 土師瓶蓋	4層	口径 (11.2) 器高 (12.7)	100 (器底以下)	ヨコナデ (器底)	外：タタキ (体部上半部) 内：ハケメ (体部下半部) 外：ハケメ (体部下半部) 内：ハケメ (体部下半部)	内：赤褐色 外：黒 底：赤褐色 器高 7.5YR7/2	横合口部蓋の穿孔が断断あり (体部外縁から)	
1152	図28 土師瓶蓋	4層	口径 (14.2) 器高17.3	50	ヨコナデ	外：タタキ (体部上半部) 内：ハケメ (体部下半部) 外：タタキ (体部上半部) 内：ハケメ (体部下半部)	内：にんがい質 外：黒 底：黒 器高 10YR6/4 器高 10YR6/2	体部内面に磨滅跡あり (体部外縁から) 生駒瓦葺合口部蓋 原田磁土名器 1層	
1153	図28 芽玉 土師瓶蓋	4層	口径14.4 器高16.4	50	ヨコナデ	外：タタキ (体部上半部) 内：ハケメ (体部下半部) 外：タタキ (体部上半部) 内：ハケメ (体部下半部)	内：黒 外：黒 底：黒 器高 5YR7/6 器高 5YR7/6	原田磁土名器 1層	
1154	図28 芽玉 土師瓶大形鉢	4層	口径 (30.8) 器高22.2	40	ヨコナデ	外：ハケメ (体部上半部) 内：ハケメのちへらミガキ (体部下半部) 外：ハケメ 内：ハケメ	内：にんがい質 外：黒 底：黒 器高 7.5YR6/4	口縁部に凹み部 体部内面に磨滅跡 生駒瓦葺合口部蓋 全体の扁平・磨滅が著しく程度不明確	
1155	図28 土師瓶広口蓋	4層	口径 (18.3) 器高 (8.3)	50	ハケメ (器底)	外：ハケメのちへらミガキ 内：ハケメのちへらミガキ	外：黒 底：黒 器高 10YR6/2	原田磁土名器 1層	
1156	図28 土師瓶蓋	4層	口径 (14.1) 器高 (17.4)	60	ヨコナデ	外：ハケメ (体部上半部) 内：ハケメ (体部下半部) 外：ハケメ (体部上半部) 内：ハケメ (体部下半部)	内：赤褐色 外：黒 底：赤褐色 器高 5YR7/6 器高 5YR7/6	原田磁土名器 1層	
1157	図28 芽玉 土師瓶蓋	4層	口径13.1 器高17.7	80	ヨコナデ	外：ハケメ (体部上半部) 内：ハケメ (体部下半部) 外：ハケメ (体部上半部) 内：ハケメ (体部下半部)	内：赤褐色 外：黒 底：赤褐色 器高 5YR6/8 器高 5YR6/8	原田磁土名器 1層	
1158	図28 土師瓶 小型丸蓋	4層	口径 (10.6)	50	外：ヨコナデ 内：ハケメのちへらミガキ	外：ハケメのちへらミガキ 内：ハケメのちへらミガキ	内：黒 外：黒 底：黒 器高 2.5YR6/8	外縁に全体の凹み部が著しく程度不明確	
1159	図29 芽玉 土師瓶 平縁形土師蓋	4層	口径18.2 器高17.5	90	外：ハケメ 内：ハケメのちへらミガキ	外：ハケメのちへらミガキ 内：ハケメのちへらミガキ	内：黒 外：黒 底：黒 器高 7.5YR6/4 器高 7.5YR6/3	蓋の凹み部及び体部内面に磨滅あり 底ナシ	
1160	図29 土師瓶蓋	4層	口径 (14.0) 器高 (4.3)	13	ヨコナデ	内：ハケメ	内：にんがい質 外：黒 底：黒 器高 7.5YR6/4 器高 7.5YR7/2	下部に凹み部が著しく程度不明確 下部に凹み部が著しく程度不明確 下部に凹み部が著しく程度不明確 下部に凹み部が著しく程度不明確	

型番	型番	図番	出土環境・部位	計測値	保存率	口部状態	内部状態	形状	色	備考
1161	図39	土師器類	4層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	高さ(0.4) 底径(0.0)	100(底面)		外:タタキ(体上半部)・ ナデ(体下半部) 内:タタキ(体上半部)・ ナデ(体下半部)	ナデ	内:におい煙 7.5PR64 外:におい煙 7.5PR64・ におい煙 5.9PR58 底:無色無味 5.9PR58	下層部トレンテ出土 原田番号正内1層
1162	図39	土師器類 小型瓦葺器	4層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径11.4 高さ57.7	90	外:ヨコナデ 内:ハワメのちナデ	外:ハナケ(体上半部)・ ヘラクズリ(体下半部)・ 内:ナデ(体上半部)・ ヘラクズリ(体下半部)	ヘラクズリ	内:無味煙 5.9PR71・ 灰白 7.5PR62 外:無味煙 7.5PR71・ におい煙 10.9PR74 底:におい煙 7.5PR63	下層部トレンテ出土 口部・体上半部外周及び内部に黒色付 着物あり 原田番号正内1層
1163	図39	瓦葺器	東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径(26.2) 高さ0.0		ヨコナデ	外:ヘラクズリのちナデ 内:ヨコナデ	ヨコナデ	内:灰 7.5S/1 外:灰 N40 底:灰白 7.5Y71	駒形番号V-39-V-1 15C中世~16C初期
1164	図39	瓦葺器	東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]			ヨコナデ	外:ヘラクズリのちナデ 内:覆り内(底面)	ヨコナデ	内:無味煙 N30 外:灰 N40 底:におい煙 2.9PR/3	駒形番号V-44-V-1 14C後半~15C初期
1165	図39	瓦葺器	東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径11.2 高さ27.7	100	ヨコナデ	外:ユビオサエ・ナデ 内:ヨコナデ・ヘラクズリ	外:不透明煙 内:ナデ・ヘラクズリ	内:灰白 5.7Y/1 外:灰 N50・灰白 5.7Y/1	駒形番号V-44-V-1 14C後半
1166	図39	瓦葺器	1層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径10.4 高さ20.0 底径6.5	64	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ・ヘラクズリ	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ・ヘラクズリ	外:灰 N50 内:灰 N50 底:灰白 N50	内:灰 N50 外:灰 N50 底:灰白 N50	内周及び内部に黒子状焼文
1167	図39	瓦葺器	1層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径10.4 高さ19.9 底径4.5	100	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ・ヘラクズリ	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ・ヘラクズリ	外:灰 N40・灰 N50 内:灰 N40 底:灰白 N50	内周及び内部に平行線状焼文	
1168	図39	瓦葺器	1層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径9.7 高さ22.2 底径8.0	96	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ・ヘラクズリ	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ・ヘラクズリ	外:ヘラクズリ 内:ナデ・焼文	内:灰 N50 外:灰 N50 底:灰白 N50	内周及び内部に平行線状焼文
1169	図39	瓦葺器	1層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径15.5 高さ16.5	50	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ・ヘラクズリ	外:ユビオサエ・ヘラクズリ 内:ヘラクズリ	外:ヨコナデ(底面)・ ナデ(底面内) 内:ナデ	内:無味煙 N30 外:無味煙 N40 底:灰白 N50	高台は彫付付高台 駒形番号1-2 12C前半~1後半
1170	図39	瓦葺器	1層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径14.6 高さ26.0 底径8.2	75	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ・ヘラクズリ	外:ユビオサエ・ヘラクズリ 内:ヘラクズリ	外:ヨコナデ(底面)・ ナデ(底面内) 内:ナデ・焼文	内:外:灰 N50・灰白 7.5Y71 底:灰白 10.9Y71	内周及び内部に黒子状焼文 高台は彫付付高台 全体的に黒色著しく底面不明瞭 駒形番号1-2 12C前半~1後半
1171	図39	土師器類	1層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径6.4 高さ1.2 底径0.0	67	ヨコナデ		ナデ	内:無味煙 N30 外:におい煙 7.5PR74 底:灰 7.5PR64	駒形番号V層(中)~(層) 13C後半
1172	図39	土師器類	1層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径13.6 高さ13.6 底径5.5	69	ヨコナデ	ユビオサエ・ヨコナデ	ナデ	内:におい煙 7.5PR74 外:無味煙 7.5PR76	口部径込みナデ 駒形番号V層(古) 11C末~12C初期
1173	図39	土師器類	1層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径6.5 高さ2.4 底径4.4	69	ヨコナデ	ヨコナデ	外:無味煙 内:ナデ・焼文	内:新灰 5.9B/1 外:新灰 10.9B/1 底:灰 2.5Y72	口部径は底径を抜いていない 外周に黒色焼付付着 駒形番号第1層抄 11C後半~12C前半
1174	図39	瓦葺器	2層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径6.5 高さ2.4 底径4.4	69	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ・ヘラクズリ	外:ナデ・ユビオサエ 内:ヘラクズリ	外:ヨコナデ(底面)・ ナデ(底面内) 内:ナデ	内:灰 N50・灰白 N50 外:灰 N50 底:灰白 N50	高台は彫付付高台 全体的に黒色著しく底面不明瞭 駒形番号1-39-V-1 12C後半
1175	図39	瓦葺器	2層 東中層中世後半 遺物倉庫 [1層]	口径(16.4)器 高さ器6.2	42	ヨコナデ	外:ユビオサエ・ヘラクズリ 内:ヘラクズリ	外:ヨコナデ(底面)・ ナデ(底面内) 内:ナデ	内:灰 N50 外:灰 N40 底:灰白 7.3B/1	

登録番号	品名	出土木場・部位	計測値	検出率	口部部位置	体部部位置	形状・断面形状	色票	備考
1176	写真 図様12	瓦葺 2層	口径 (16.0) 断面高(6.0) 断面長(6.0)	100	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ・ハウミガキ	外：ユビヤサエ・ハウミガキ 内：ハウミガキ	外：ヨコナデ (高台)・ ナデ (高台内) 内：ナデ・塙文	内：灰 N40 外：灰 N50・灰 N60 断面長1～1.2 10C部手～中端	内面込み部より断面寸法 体部部のみより断面寸法を比較すると 断面長がほぼ等しい 断面長が1～1.2 10C部手～中端
1177	写真 図様13	土葺 3層	口径6.6 断面高1.6	56	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	内・外：にがい泥 7.0YR7/4 断面長1.0 10YR7/0	本体部に高低が著しく断面寸法不明 断面長1.0 (中) 10C部手～10C部手
1178	写真 図様13	土葺 3層	口径10.0 断面高3.8	100	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	内・外：にがい泥 7.0YR7/4 断面長1.0 10YR7/0	本体部に高低が著しく断面寸法不明 断面長1.0 (中) 10C部手～10C部手
1179	写真 図様13	土葺 3層	口径 (14.0) 断面長 (6.0)	50	ヨコナデ	ヨコナデ	外：ユビヤサエ・ナデ 内：ナデ	内・外：黒褐色 10YR6/4 断面長1.0 10YR6/4	本体部に高低が著しく断面寸法不明 断面長1.0 (中) 10C部手～10C部手
2001	図44	土葺 築3層2008次	口径 (20.4) 断面高 (10.5)	63	外：ヨコナデ 内：ナデ	外：ナデ 内：ハウミガキのちナデ	外：ナデ 内：ハウミガキ	内：黒 7.5YR7/6 外：黒 7.5YR7/4 (体部上半部)・ にがい泥 5YR5/4 (体部下半部) 断面長1.0 10YR6/0	下～体部下半部に高低が、上半～口部 に高低が著しい 断面長1.0 10YR6/0
2002	図44	土葺 築3層2008次	口径 (21.0) 断面高 (8.9)	19	外：ヨコナデ 内：ナデ	外：ヨコナデ 内：ナデ・ユビヤサエ	ナデ	内：黒 7.5YR5/2 断面長1.0 10YR6/0	下～体部下半部に高低が、上半～口部 に高低が著しい 断面長1.0 10YR6/0
2003	写真 図様24	土葺 築3層273土坑	口径6.4 断面高1.5 断面長6.0	86	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	内：にがい泥 10YR7/4 断面長1.0 10YR7/0	口部部のみナデ 断面長1.0 10YR7/0
2004	図44	土葺 築3層273土坑	口径 (10.4) 断面高 (1.4) 断面長 (5.4)	17	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	内：黒 7.5YR7/6 断面長1.0 10YR6/0	口部部のみナデ 断面長1.0 10YR6/0
2005	図44	瓦葺 築3層273土坑	口径 (11.0) 断面高 (1.5) 断面長 (5.4)	8	外：ヨコナデ 内：ハウミガキ	外：ハウミガキ	外：ユビヤサエのちナデ 内：ハウミガキ	内：灰 N50 外：灰 N50 断面長1.0 N50	断面長1.0 N50
2006	写真 図様24	瓦葺 築3層273土坑	口径 (16.0) 断面高5.4 断面長5.4	75 100 (高台)	外：黒いヨコナデ 内：ハウミガキ	外：ユビヤサエのちハウミガキ 内：ハウミガキ	外：ヨコナデ (高台)・ ナデ (高台内) 内：ハウミガキ	内：灰 N50 外：灰 N50 断面長1.0 N50	断面長1.0 N50
2007	図44	瓦葺 築3層273土坑	口径 (15.4) 断面高5.9 断面長 (5.4)	50	外：黒いヨコナデ 内：ハウミガキ	外：ユビヤサエのちナデ・部分ナデ 内：ハウミガキ	外：ヨコナデ (高台)・ ナデ (高台内) 内：ナデ・塙文	内：灰 N40 外：灰 N50 断面長1.0 N50	内面込み部より断面寸法を比較すると 断面長がほぼ等しい 断面長が1～1.10C部手
2008	写真 図様32	構式土葺	口径 (6.5) 断面高 (0.5) 断面長 (6.0)	10	外：ナデ 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	内・外・断：赤 10R6/6	断面長1.0 N50
2009	図44	土葺 築3層285土坑	口径 (6.2) 断面高4.4	61	ヨコナデ	外：ユビヤサエのちナデ 内：ナデ	ヨコナデ (高台)・ナデ (高台内)	内・外：黒 7.5YR7/6 断面長1.0 10YR6/4	断面長1.0 N50
2010	写真 図様24	土葺 築3層285土坑	口径 (14.2) 断面高2.8 断面長 (8.0)	25	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	内：黒灰 10YR6/4 (口部一体) 断面長1.0 10YR6/3 (体部) 断面長1.0 10YR6/3	断面長1.0 N50
2011	図44	瓦葺 築3層285土坑	口径 (6.0) 断面高1.7 断面長 (7.8)	14	外：黒いヨコナデ 内：ハウミガキ	外：ユビヤサエのちハウミガキ 内：ハウミガキ	外：ヨコナデ (高台) 内：ナデ	内：灰 N40 外：黒灰 N30 断面長1.0 N50	断面長1.0 N50
2012	写真 図様24	瓦葺 築3層285土坑	口径 (5.2) 断面高1.1 断面長5.9	60	外：黒いヨコナデ 内：ハウミガキのちナデ	外：ユビヤサエのちハウミガキ 内：ハウミガキのちナデ	外：ヨコナデ (高台)・ナデ 内：ナデ	内・外：黒灰 N30 断面長1.0 N50	断面長1.0 N50

発注番号	図番	図名	出土位置・部位	計測値	採寸率	口部形状	体部形状	底部・胴部形状	色類	備考
2013	図44	瓦葺機	駒込遺跡205土坑 高台(6.2)	口径(16.0) 底径(6.2)	9 100(高台)	外：狭いヨコナデ 内：ヨコナデ	外：へらミガキ(体部上半部)・ エビヤエのちへらミガキ(体部 下半部) 内：へらミガキのみナデ	外：ヨコナデ(高台)・ ヘラミガキのみナデ 内：ヘラミガキのみナデ	内：灰 N60 外：灰 N60 底：灰 N60	内面は大部分に平行線状文 底面はミ～11C後半
2014	図44	瓦葺機	駒込遺跡205土坑 高台(6.4)	口径(16.8) 底径(6.4)	30	外：狭いヨコナデ 内：へらミガキのみナデ	外：エビヤエのちへらミガキ (体部上半部) 内：へらミガキのみナデ	外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ナデ・横文	内：灰 N40 外：灰 N40 底：灰 N40	内面は大部分に平行線状文 底面はミ～13Cミ～11C末～12C前半
2015	図45	土師器引鉢	駒込遺跡333/ 424土坑	口径(56.2) 底径(8.2)		外：ヨコナデ 内：ナデ	外：ヨコナデ・エビヤエ 内：ナデ・エビヤエ	内：灰 5YR7/6 外：灰 5YR7/6 底：灰 2.5YR6/6	駒込遺跡333土坑内 外面に横が付着 内面は灰が付着 底面は灰が付着 12C後半	
2016	図45	土師器引鉢	駒込遺跡434土坑 高台(7.5)	口径(27.6) 底径(7.5)	13	外：狭いヨコナデ 内：ナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	内：灰白 N70 外：灰白 5YR6/3 底：灰白 5YR6/3	駒込遺跡333土坑内 外面に横が付着 内面は灰が付着 底面は灰が付着 12C後半	
2017	図45	須恵器鉢	駒込遺跡333/ 424土坑	口径(35.4) 底径(7.3)	18	図形ナデ	外：図形ナデ(体部上半部)・ 内：図形ナデ(体部下半部) ケリのある図形ナデ(体部下半部)	内：灰白 N70 外：灰白 5YR6/1(口縁部)・ 5YR6/3(体部) 底：灰白 7.5Y7/1	内面下半部・外面による磨減がみられる 裏面は高台部第1期第1段階か 裏面は高台部第1期第1段階か 12C中～後半	
2018	図45	須恵器鉢	駒込遺跡434土坑 高台(9.6)	底径(6.0) 底径(9.6)	36(底縁)	図形ナデ	図形ナデ(狭い・体部外縁部下部 は半縁部か)	内：灰 N60 外：灰 N60 底：灰白 N70	内面下半部～外縁部及び底縁部には磨減による磨減がみられる 裏面は高台部第1期第1段階か 裏面は高台部第1期第1段階か 12C中～後半	
2019	図45	常滑焼	駒込遺跡333/ 424土坑	口径(21.6) 底径(4.5)	10	図形ナデ	図形ナデ	内：黒灰 10YR7/4 外：にこい色 5YR4/3 底：黒灰 2.5Y6/1～黒灰 2.5Y7/3	口縁部内面には凹線が磨り、上縁を引き出したような形を呈する 口縁部内面・胴部外縁下半部に自然磨(オリーブ黄 5Y6/4)が付着 底面は自然磨(黄褐色)が付着 12C前半	
2020	図45	瓦葺機	駒込遺跡333土坑	口径(16.6) 底径(5.0)	4	外：ヨコナデ 内：へらミガキ	外：エビヤエのみナデ 内：へらミガキ	内：灰 N60 外：灰 N60 底：灰白 N60	小外のため傾きが強い 底面はミ～13Cミ～11C末～12C前半	
2021	図45	土師器皿	駒込遺跡333土坑 高台(5.8)	口径(9.4) 底径(5.8)	8	ヨコナデ		内：にこい色 7.5YR6/4 外：黒 10YR6/4	口縁部ヨコナデ 底面は高台部第1期第1段階か 12C後半	
2022	図45	白磁碗	駒込遺跡434土坑 高台(7.6)	底径(3.0) 高台径(7.6)	26(高台)		外：図形ナデ(タケノコ状)	内：灰白 7.5Y7/1 外：灰白 7.5Y6/1 底：灰白 N70	内面は黒釉・外面は黒釉 内面は黒釉・外面は黒釉 黒釉は大部分に剥落している 底面は高台部第1期第1段階か 12C後半	
2023	図45	白磁碗	駒込遺跡434土坑 高台(7.0)	底径(2.8) 高台径(7.0)	33(高台)		外：図形ナデ(狭い・体部外縁部 下部は半縁部か)	内：灰白 10Y7/1 外：灰白 7.5Y7/1 底：灰白 N60	内面は黒釉・外面は黒釉 黒釉は大部分に剥落している 底面は高台部第1期第1段階か 12C後半	
2024	図45	白磁碗	駒込遺跡434土坑 高台(3.5)	口径(18) 底径(3.5)	13			内：灰白 7.5Y7/1 外：灰白 7.5Y7/1 底：灰白 N60	内外ともに黒釉・面は大部分に剥落している 底面は高台部第1期第1段階か 12C後半	
2025	図45	瓦葺機	駒込遺跡434土坑 高台(9.4)	口径(9.3) 底径(9.4) 厚(3.5) 重(154.3)				内：黒 7.5Y7/1 外：黒 7.5Y7/1 底：灰白 N60	3面が使用されている 全体的に黒化・磨減が強く(高台部)磨 平はミ～V発行 8C後半	
2026	図48	土師器鉢	駒込遺跡301溝	口径(16.6) 底径(4.0)	14	ヨコナデ	内：ナデか	内：黒黄 7.5YR6/3(口縁部)・ 灰白 10YR6/2(胴部以下) 外：黒黄 5YR6/4 底：灰白 10YR6/2	内面は黒釉・外面は黒釉 黒釉は大部分に剥落している 底面は高台部第1期第1段階か 12C後半	
2027	図48	土師器鉢	駒込遺跡301溝	口径(21.4) 底径(5.0)	13	ヨコナデ	外：ナデ 内：ナデ			

国産番号	国産番号	国産名	出土木質・部位	計測値	採寸率	口頭部状態	体部状態	形状・刻印状態	色票	備考
2076	02	写真 図説26	瓦葺機 土葺機	口径16.0 断面高4.4 底径4.0	100	ヨコナデ	外：ユビオサエ 内：ヘラミガキ	外：ヨコナデ (高台)・ナデ (流石内) 内：ナデ・埴文	内：灰白 5Y7/1・灰 N6/0 外：黒 4N3/0・灰白 N7/0 断面高1.2～1.3 1.25中継一様半	全体的に灰化が著しく、断面不平整 内面中心部に流石輪郭が明瞭 断面高が異なる
2077	04	土葺機口葺	土葺機 土葺機	口径 (14.6) 断面高 (8.3)	44		外：ハケメ・ナデ (体部上半部)・ 内：ハケメ・ナデ (体部下半部)	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 V型断面
2078	04	土葺機口葺	土葺機 土葺機	断面径 (6.1) 断面高 (13.2)	100 (体部)		外：ハケメ 内：ハケメ	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 断面高が異なる
2079	04	土葺機	土葺機 土葺機	断面高 (14.5)	33 (体部)		外：ハケメ・ナデ (体部上半部) 内：ナデ	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 断面高が異なる
2080	04	土葺機	土葺機 土葺機	口径 (17.1) 断面高 (3.5)	20		外：ハケメ 内：ナデ	外：ハケメ 内：ナデ	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 断面高が異なる
2081	04	土葺機	土葺機 土葺機	口径 (19.6) 断面高 (4.0)	30		外：ハケメ 内：ハケメ	外：ハケメ 内：ナデ	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 断面高が異なる
2082	04	写真 図説27	土葺機高坪	口径69.8 断面高 (5.2)	80		ヘラミガキ	外：ヘラミガキ 内：ナデ	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 断面高が異なる
2083	04	土葺機口葺	土葺機 土葺機	口径 (9.6) 断面高 (19.6)	17	ヨコナデ	外：ヨコナデ (体部上半部)・ ハケメの5ナデ (体部下半部) 内：ナデの5ナデ	外：ヘラミガキ 内：ナデ	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 断面高が異なる
2084	04	写真 図説27	土葺機口葺	口径10.2 断面高17.9	95	ヨコナデ	外：ハケメ 内：ナデ	外：ナデ 内：ハケメ	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 断面高が異なる
2085	04	土葺機 土葺機 大型土葺機口葺	土葺機 土葺機	断面高 (12.1)	100 (断面) 67 (体部上半部)	外：ヘラミガキ 内：ハケメ	外：ハケメの5部分にヘラミガキ 内：ハケメの5ナデ	外：ヘラミガキ 内：ナデ	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 断面高が異なる
2086	04	写真 図説27	土葺機小笠形	口径10.2 断面高4 断面高 (11.5)	83		ヘラミガキ	外：ヘラミガキ 内：ナデ	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 断面高が異なる
2087	04	土葺機大型	土葺機 土葺機	口径 (50.6) 断面高 (12.9)	15	ヨコナデ	外：ハケメ 内：ナデ	外：ヘラミガキ 内：ナデ	内：黒 5YR7/6 断面：灰白 5YR1・黒 5YR7/8	全体的に断面が著しく、断面不平整 断面高が異なる
2088	05	写真 図説34	礎石 (石製品)	長 (4.5) 幅 (4.8) 断面高15.5				外：黒 2.5YR6 断面：灰白 7.5YR7/4	断面高が異なる 断面：灰白 7.5YR7/4	断面高が異なる 断面：灰白 7.5YR7/4

建物番号	図号	団地番号	図名	出土位置・層位	計測値	検出率	口部位置	外部位置	形状・開口位置	色質	備考
2102	図05		砂層	3層	長 (13.5) 幅 (3.9) 厚さ 0.0						埋藏物 4 メタル等なし 断面には直径0.1~0.5cmの黒丸が僅かに認められる。下部には流るからで、上部は凹凸が大きい。開口部縁と考えられる黒色ガラス質物の付着がみられる。断面は凹凸が強く、黒丸はほとんど認められない。黒の塊み小片、灰黒色の付着なども観察できる。
2103	図06		須原層砂層	4層	口径 (14.0) 高さ 0.9	9	図靴ナズ	外：図靴ヘラクスリ 内：図靴ナズ		内：灰白 N7/0 外：灰 5Y4/1 断：灰白 N6/0・灰 5Y4/1	中村図号Ⅰ-4~5 (TK25~47) か 50後半~60初期
2104	図06		須原層砂層	4層	口径 (13.4) 高さ (3.1)	5	図靴ナズ	外：図靴ヘラクスリのみナズ 内：図靴ナズ		内：灰 N6/0 外：ネリノール灰 2.50Y6/1 断：灰白 N7/0	中村Ⅰ-9~6 (TK43~209) か 60中~70後半
2105	図06	芥真 図底30	須原層砂層	4層	口径 (12.4) 高さ (4.9) 厚さ (6.0)	33	図靴ナズ	図靴ナズ		内：灰区 5PB6/1 外：灰区 5PB6/1 (口縁部)・ 灰 3Y6/1 断：ネリノール灰 2.50Y6/1	中村図号Ⅰ-5 (TK47) 60中~60初期
2106	図06		須原層砂層	4層	口径 (11.4) 高さ (5.6)	33	図靴ナズ	図靴ナズ		内：灰 5Y6/1 外：灰白 5Y7/1	黒色の図靴ナズ等の陶器によって流注し灰にひびくが、外ナズ 中村図号Ⅰ-3 (MT85) 60後半
2107	図06		須原層砂層	4層	口径 (13.2) 高さ (3.5) 厚さ (8.2)	2	図靴ナズ	図靴ヘラクスリ 内：ナズ		内：灰 N6/0 外：灰 N6/0 断：灰 N6/0	黒色の図靴ナズ等の陶器によって流注し灰にひびくが、外ナズ 中村図号Ⅰ-3 (MT85) 60後半
2108	図06		須原層砂層	4層	口径 (13.2) 高さ (3.5)	11	図靴ナズ	外：図靴ヘラクスリのみナズ 内：図靴ナズ		内：灰 7.0Y6/1 外：灰 7.5N/1	中村図号Ⅰ-3 (MT85) 60後半
2109	図06		須原層砂層	4層	高さ (6.6)	75 (体部)	図靴ナズ	図靴ナズ		内：灰 7.50Y6/1 外：焼オーブ灰 50Y3/1 断：焼灰灰 5N4/1	外周及び底部内面には黒鉛付着
2110	図06	芥真 図底30	須原層砂層	4層	高さ (6.8)	100 (体部以下)	図靴ナズ	図靴ナズ		外：灰 10Y6/1 断：灰 7.5B/1	注：口は外かからの穿孔。 底部外周に「X」の穿孔のへう記号あり外周部に黒鉛付着 中村図号Ⅰ-4~5 (TK43) か 60後半~70前半
2111	図06	芥真 図底30	須原層砂層	4層	高さ (4.9) 直径 0.4	67 (体部部)	図靴ナズ	図靴ナズ		内：焼灰 5YR6/1 (体部)・ 灰 N6/0 (体部) 断：灰 2.5YR6/2	32方向に矢方形穿孔し (底部外周から) あり
2112	図06	芥真 図底31	須原層砂層	4層	口径 (13.2) 高さ (5.5)	40 (体部部)	図靴ナズ	図靴ナズ・カキメ		内：灰区 5YR6/1 (体部)・ 灰 5YR6/1 (体部) にひびく。 外：焼灰 7.5YR6/1・灰 N4/0 断：灰 N6/0・にひびく赤黒 5YR6/4	32方向に円形穿孔し (底部外周から) あり
2113	図06		土師器層	4層	口径 (14.2) 高さ (3.9)	17				内：にひびく黒色 10YR7/3 外：にひびく黒 7.5YR6/4 断：灰黒焼 10YR6/2	全体的に黒色が濃く、黒色不明瞭 須原層砂層
2114	図06		土師器層	4層	口径 (14.8) 高さ (9.6)	23 (体部以下)	ナズか	外：ナズ (体部上半部)・ タタキのみナズ (体部下半部) 内：ナズ・ヒビク赤黒 10YR7/3・ 灰 2.5Y4/1		内：灰白 10YR6/2 (口縁部)・ 外：灰黒 10YR6/1 (体部) 断：にひびく赤黒 10YR6/3 外：にひびく赤黒 10YR7/3・ 灰 2.5Y4/1	全体的に黒色が濃く、黒色不明瞭 須原層砂層内1~1層

調査番号	図号	図名	出土位置・方位	計測値	持ち手	口部形状	体部形状	底形・胴部形状	色票	備考
2115	図06	土師器口蓋	4層	口径 (50.0) 器高 (5.4)	20	ヨコナデ			内・外：にがい埴 7.5YR7/4 底：黒灰質 2.5Y4/2	全体的に磨減が著しく磨滅不明瞭 磨滅劣化口蓋か 原田墓年在內主一層少
2116	図06	写真 図録31	4層	口径10.4 器高 (11.8)	100	外：ヨコナデ・ヘラミガキ 内：ハケメ	外：ハケメ		内：写真埴 7.5YR6/4 外：黒 2.5YR6/6 底：黒灰 2.5Y6/1	体部中央に磨滅多り 内底に磨滅が著しく磨滅不明瞭 原田墓年在內主一層一層目
2117	図06	土師器 小型丸蓋	4層	器高 (7.2)	100 (特製)		外：ハケメのみナデ (体部上半部) 内：ハケメ (体部下半部) 内：ユビカサエ	外：ハケメ 内：ユビカサエ	内：灰白 10YR8/2 外：灰白 10YR6/2・黒埴 2.5Y6/1 底：にがい埴埴 10YR7/4	体部外底に磨滅あり
2118	図06	土師器 聯合口蓋	4層	口径 (14.8) 器高 (8.7)	11	外：ヨコナデ (口縁部)・ヨコナデ (口蓋部)・ヨコナデ (口蓋部) 内：ハケメ (口縁部)・ナデ (口蓋部)	外：ヨコナデ (口縁部)・ヨコナデ (口蓋部)・ヨコナデ (口蓋部) 内：ハケメ (口縁部)・ナデ (口蓋部)		内・外：にがい埴 7.5YR6/3 外：黒 5YR7/6 底：にがい埴埴 10YR7/4・黒灰 2.5Y7/1	全体的に磨減が著しく磨滅不明瞭 東四国系管口蓋
2119	図06	土師器 聯合口蓋	4層	口径 (19.8) 器高 (13.7)	50	外：ヨコナデ (口縁)・ヨコナデ (口蓋) ナデのちヘラミガキ (口蓋)	内：ヘラミガキ		内・外：灰白 10YR8/1 底：灰白 10YR6/1・黒灰 2.5Y6/1	全体的に磨減が著しく磨滅不明瞭 胴部にヘラ化工具による流紋文が1条走る 山陽系管口蓋
2120	図07	土師器 聯合口蓋	4層	口径 (33.4) 器高 (4.7)	10	外：ヨコナデ 内：ハケメ			内：にがい埴埴 10YR6/3 外・外：にがい埴埴 10YR5/4 底質 10YR5/2	生駒系管口蓋 口部外縁上端には円形浮文を、下部には円形浮文 (羽文・羽文)・十竹管文を施す 原田墓年在內主層少
2121	図07	土師器高片	4層	口径 (18.2) 器高 (9.7)	13		内：シボリメ		内・外：にがい埴 7.5YR7/4 底：にがい埴 7.5YR7/4・黒灰質 10YR5/2	全体的に磨減が著しく磨滅不明瞭 原田墓年在內主層一層目
2122	図07	土師器高片	4層	口径 (50.0) 器高 (12.9)	14				内・外：黒 5YR7/6 底：黒灰 2.5Y4/1	全体的に磨減が著しく磨滅不明瞭 原田墓年在內主層目
2123	図07	写真 図録23	4層	口径4.0 器高1.7 孔径0.6-0.7 重量94.9	100				青石製 表面：磨滅次第を知らず、上部隅を磨滅文で充満する 底面：一部の磨滅を知らず、磨滅部には磨滅文を、その内面には磨滅文を磨滅する	
2124	図07	写真 図録30	4層	口径 (7.7) 器高 (0.0) 器高11.2			外：ナデハク (68.0cm) 内：ナデカ		内・外：黒 2.5Y7/3 底：黒灰質 2.5Y4/2	風化・磨滅が著しく磨滅不明瞭 ハケメに彩色顔料が保存しているため本来円形に磨滅が著しくしたと推定がなされる 5層の土層による磨滅文がみられる 粘土には角閃石が含まれます、白色砂粒・黒石・石膏・赤鉄質などがみられる
2125	図07	土師器	4層	口径 (11.2) 器高 (6.2)	8	ヨコナデ	外：ハケメ 内：ナデカ		内：にがい埴 7.5YR7/4 外・底：にがい埴 9YR7/4	全体的に磨減が著しく磨滅不明瞭 近江系管口蓋 原田墓年在內主層
2126	図07	熟土器	4層						内・外：にがい埴 7.5YR7/4 底：にがい埴 7.5YR7/3	全体的に磨減が著しく磨滅不明瞭 5層の土層が走る 熟土器

登録番号	図号	図名	出土遺構・部位	計測値	残存率	口部形状	外部形状	底部・脚部形状	色質	備考
2127	図07	写真 図説03	土層 (土製品)	長5.3 幅・厚 (3.0) 厚1.6 重量44.5	100				外：黒 5YR6/0 内：にがい黄褐色 10YR5/0 外：黒 10YR6/4 底：黄灰 2.5Y6/1	丸紐に瓶土を「の」の字状に巻き付けて作成
2128	図07	写真 図説21	土器片	口径4.8 脚高(6.8)	75	ヨコナデ	外：タタキのちハケメ 内：ヘラケズリ		内：にがい黄 7.5YR7/4 外：にがい黄 7.5YR7/4 + 2.5YR6/6 底：にがい黄 7.5YR6/4	全体的に磨減が著しく、口縁部不明瞭 全体外にねが付着 動物屎痕著明 原田編年表内Ⅲ期
2129	図07	写真 図説31	土器器身	口径(11.2) 脚高6.8	30 (個体以下)	ヨコナデ	外：ヘラケズリ 内：ナデ	外：ヘラケズリ 内：ナデ	原田編年表内Ⅲ期～Ⅳ期Ⅰ期	動物屎痕に包み封土
2130	図07	土器器身 複合口縁部	土器器身 複合口縁部	口径(30.8) 脚高(5.0)	13	ヨコナデ 内：ハケメ	外：ヨコナデ 内：ハケメ		内：暗黄 10YR5/0 外：黒；にがい黄褐色 10YR5/4	口縁部外縁上縁には内出流文を、下部には円形流文(胡荽・胡荽)・十竹管文を施す 原田編年表内Ⅲ期
2131	写真 図説29	神鏡輪	神鏡輪	口径10.0 脚高2.5	44	ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヘラケズリ	外：ナデ・増文	内：外；灰 N6/0	輪は色裏が非常に淡く、外面の一部にしか磨減しない 裏面はキズ・細かく、軟質 至底磨少
2132	写真 図説29	瓦器皿	瓦器皿	口径10.0 脚高2.5	44	ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヘラケズリ	外：ナデ・増文 内：ヨコナデ(高台)・ ナデ(成台内) 外：ナデ・増文	内：灰 N6/0 外：灰 M4/0 底：灰白 7.5Y7/1	内面及込み部に平行線状増文 内面及込み部に平行線状増文 底面磨少Ⅰ-1-2 12C部Ⅲ-中腹
2133	写真 図説29	瓦器瓶	瓦器瓶	口径(14.6) 脚高5.2	20	ヨコナデ	外：ユビヤサエのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ	外：ナデ・ユビヤサエ 内：ナデ・ユビヤサエ	口縁部は「て」の字状口縁 全体的に磨減が著しく、口縁不明瞭 動物屎痕著明(底) 11C部	
2134	写真 図説29	土器器皿	土器器皿	口径(10.6) 脚高(1.4)	56	ヨコナデ		外：ナデ・ユビヤサエ 内：ナデ・ユビヤサエ	内：淡黄褐色 10YR6/4	
2135	写真 図説29	土器器皿	土器器皿	口径4.4 脚高2.0	67	ヨコナデ		外：ユビヤサエ 内：ナデ・ユビヤサエ	内：にがい黄褐色 10YR7/4 外：にがい黄褐色 10YR7/0	口縁部段積みナデ 原田編年表Ⅲ期(底) 12C部
2136	写真 図説30	平瓦	平瓦	長(9.3) 厚2.0		凸面：磨タタキ	凹面：強いナデ・磨れ砂付着			凹面の色目は緑黄で、ナデ消しと考えらる
2137	写真 図説33	乳土製品	乳土製品 脚高312溝	長(5.0) 幅(3.5) 厚0.6 重量0.7			裏：ナデ 底：ナデ		裏：黒 5YR7/0 底：黒 5YR7/0	土器器皿を包み出した土製品 裏乳土層から 乳土層は認められ認められる

※計測値の単位はcm・g () 付き数値は原形後・() 付き数値は残存値

写 真 图 版



第1面 (北東から)



第1面 (171-9h地区) (北東から)



第2面 (北東から)



第2面 (南東から)



第2面 (17I-9h地区)

(北東から)



第2面20柱穴（東から）



第2面27土坑（北から）



B層遺物出土状況（西から）



第3面（北東から）



第3面62柱穴（東から）



第3面100土坑（南から）



第3面109溝断面（南から）



第3面113溝断面（南西から）



第4面 (北東から)



第4面119土坑 (西から)



第4面115土坑断面 (南から)



第4面152井戸 (南から)



4層土器 (1152) 出土状況 (南から)



4層土器 (1153) 出土状況 (北から)



4層土器 (1154) 出土状況 (東から)



4層土器 (1157) 出土状況 (南から)



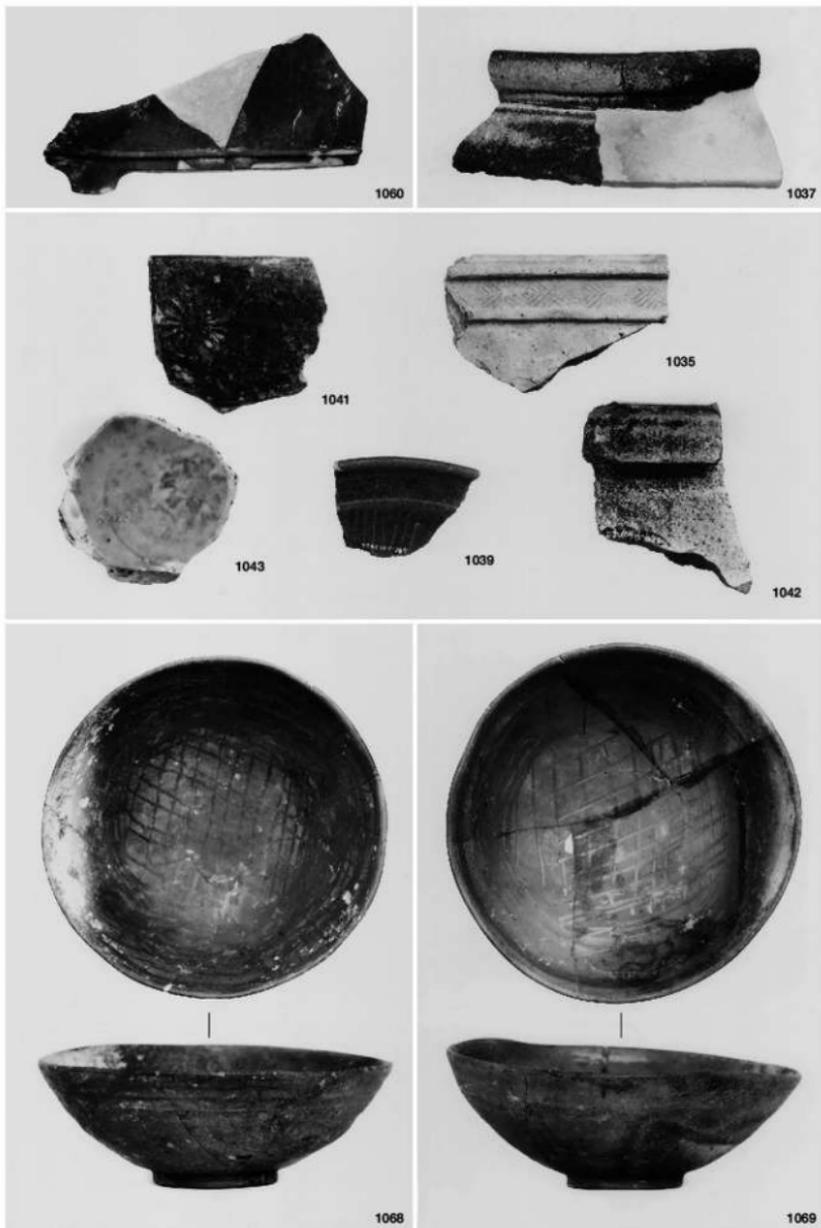
4層土器 (1158) 出土状況 (南から)



4層土器 (1159) 出土状況 (南から)



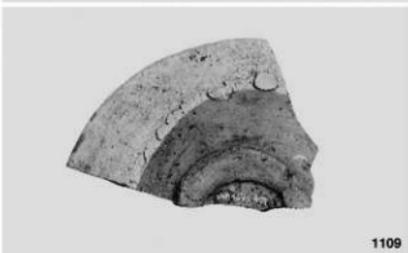
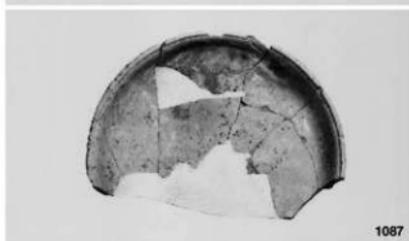
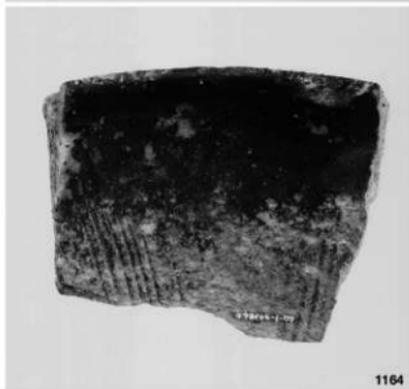
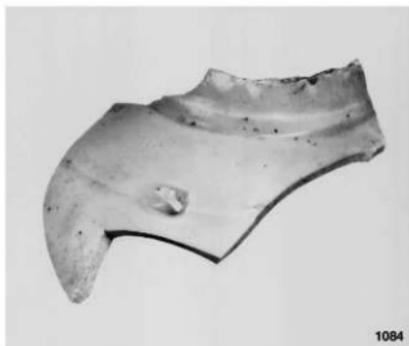
第2・3面遺構出土土器・鉄製品・木製品



第3・4面遺構出土土器



第4面遺構出土土器

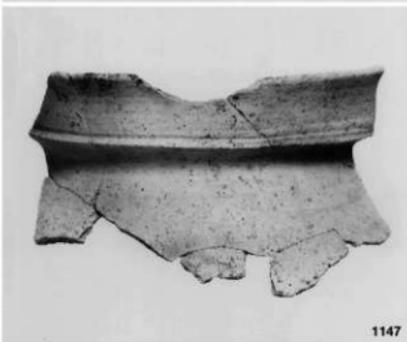


東半部中世後半遺物包含層 (A・B層) 出土土器



東半部中世後半遺物包含層（B層）出土土器









第1面（南東から）



第1面（北から）



第2面（南東から）



第2面（北から）



第2面159溝 (北東から)



第2面160溝 (北西から)



第2面159溝断面 (東から)



第2面160溝断面 (南から)



第3面 (南東から)



第3面273土坑断面 (北東から)



第3面285土坑断面 (西から)



第3面434土坑 (東から)



第3面333/434土坑断面 (東から)



第4面（北から）



第4面398土坑断面（北から）



第5面 (南東から)



第5面 (北から)



第5面472土坑（北東から）



第5面475柱穴（東から）



第5面483柱穴（北西から）



第5面504土坑（北東から）



第5面507土坑（北東から）



第5面507土坑（北西から）



第5-2面 (18I-3d地区) (東から)



第5-2面541土坑 (南西から)



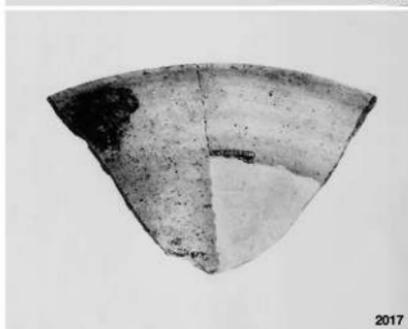
第5-2面 (北から)



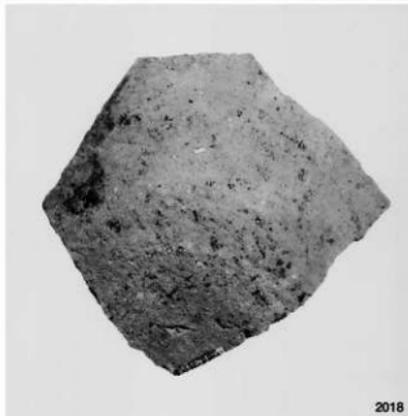
第5-2面土器群① (南から)



第5-2面土器群② (西から)



第3面遺構出土土器

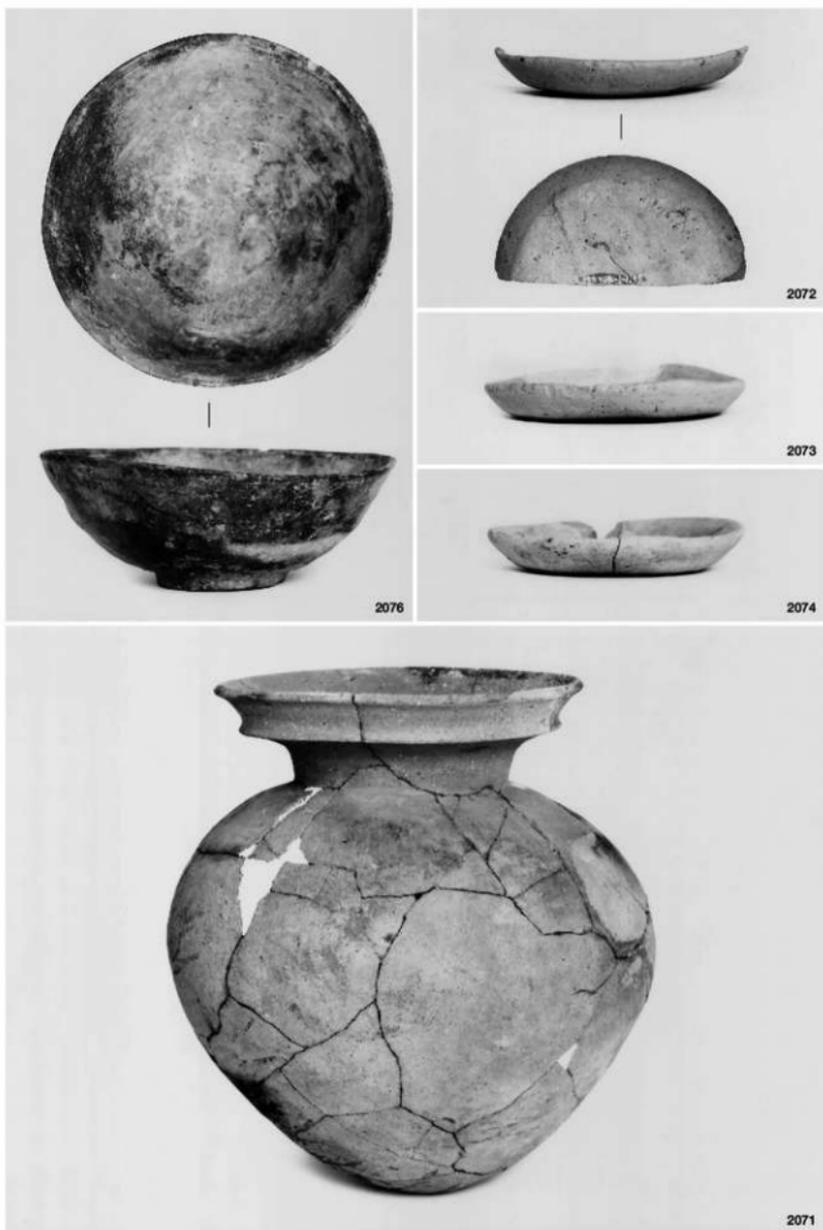




第5面遺構出土土器



第 5・5-2 面遺構出土土器



第5-2面遺構出土土器





2097



2124



2099



2105



2096



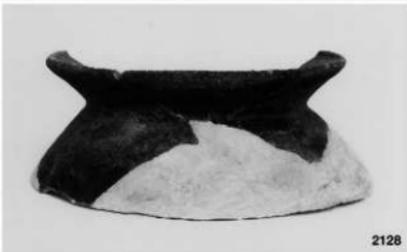
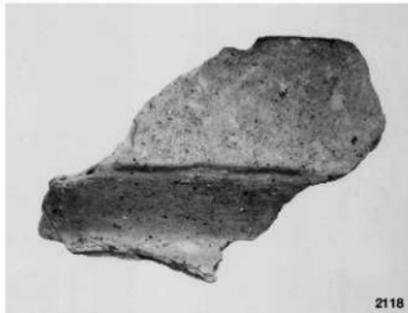
2110

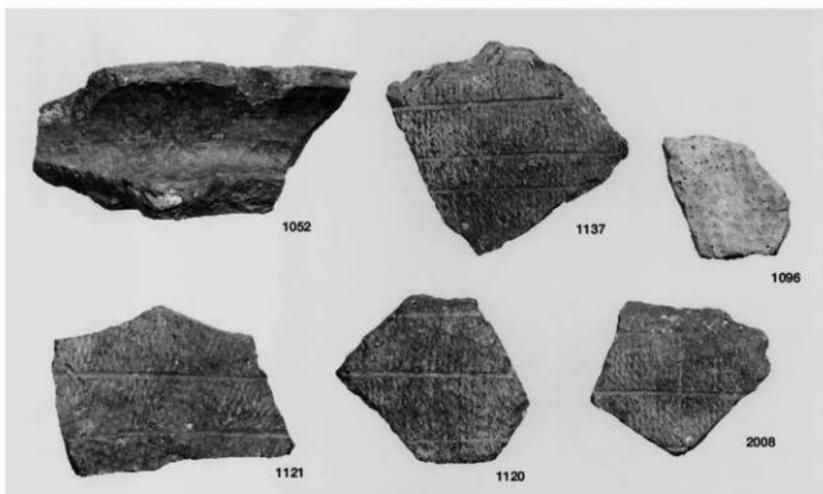


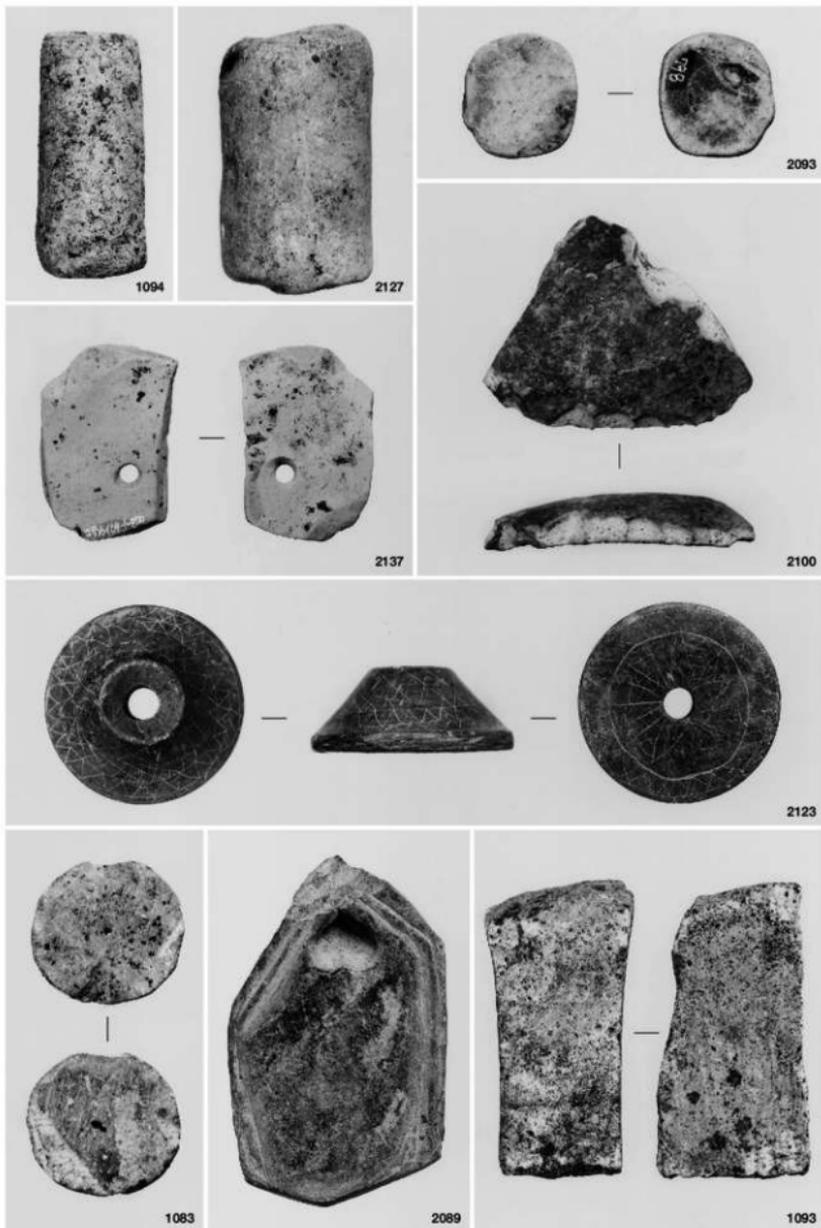
2136



2111





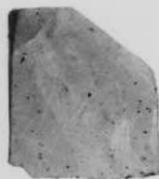




2025



1092



2088



2025



1092



2088



1122



1136



1135

報告書抄録

ふりがな	こごかあい いせき (そのさん)							
書名	小阪合遺跡 (その3)							
副書名	山本団地建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	(財) 大阪府文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第132集							
編著者名	金光正裕・若林邦彦・新海正博・松下知世							
編集機関	(財) 大阪府文化財センター							
所在地	〒590-0105 大阪府堺市竹城台3丁21番4号 TEL072-299-8791							
発行年月日	2005年月6日30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所取遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
こごかあい いせき 小阪合遺跡	おおさかふ 大阪府 やおおし 八尾市 わかさまちよう にほん 若草町 2番	27212	40	34 37 34	135 35 38	2004.04.20 ～10.29	1625㎡	大阪府 住宅供給公社 山本団地建替えに 伴う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時期		主な遺構		主な遺物		特記事項
小阪合遺跡	集落	古墳時代 初頭		井戸、土坑		古式土師器		特殊器台形埴輪
	集落	古墳時代 中期～後期		井戸、土坑、溝		土師器、須恵器		
	集落	古代		井戸、土坑、溝		土師器、須恵器、 黒色土器、瓦		青谷式軒丸瓦
	集落	中世前半		井戸、土坑、溝、 柱穴		土師器、瓦器		
		中世後半		溝		瓦質土器、陶磁器、 瓦		

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第132集

小阪合遺跡 (その3)

山本団地建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告

発行年月日 / 2005年6月30日

編集・発行 / 財団法人 大阪府文化財センター
大阪府堺市竹城台3丁目21番4号

印刷・製本 / 株式会社明新社
奈良市南京終町3丁目4番地